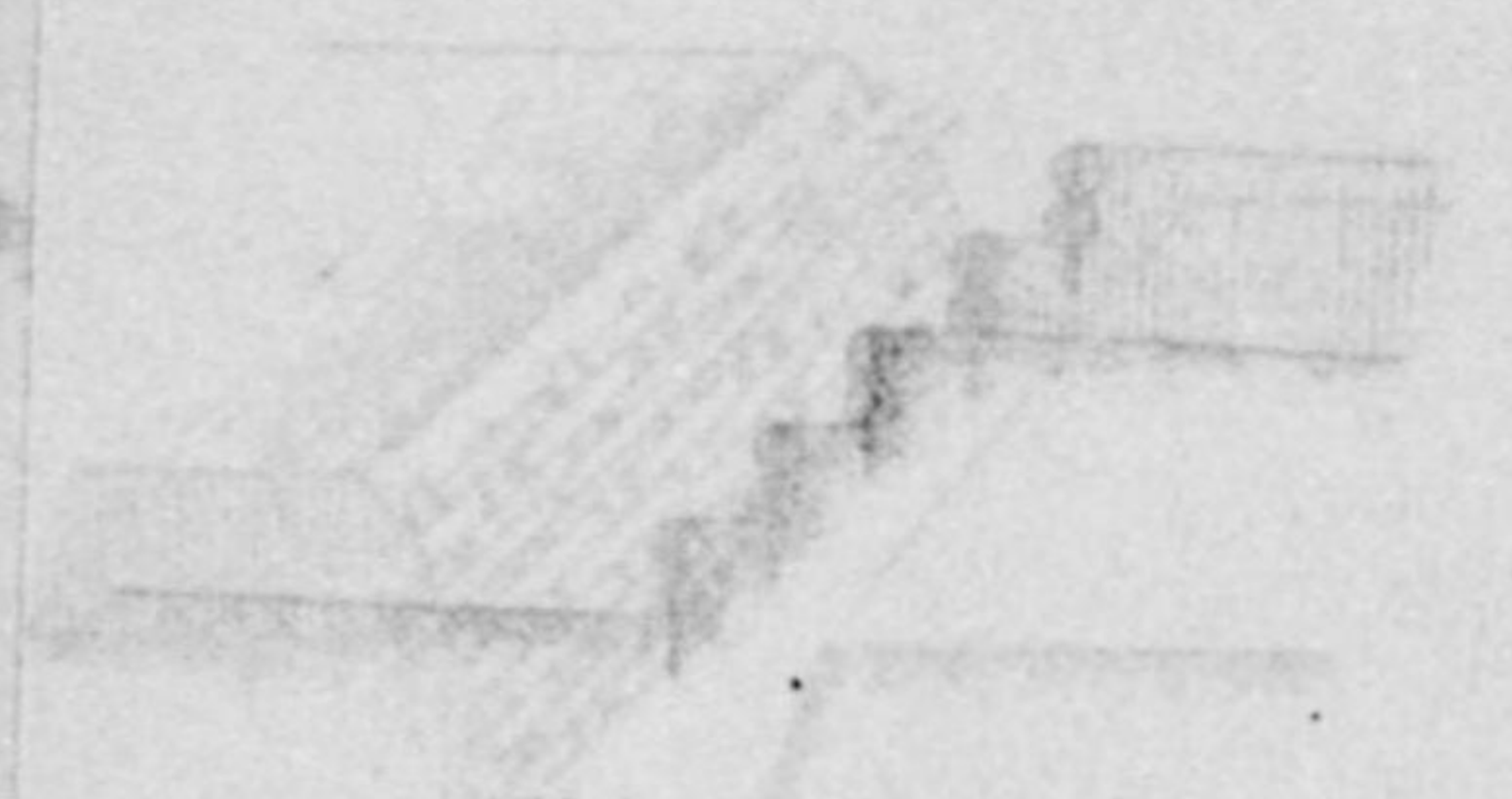


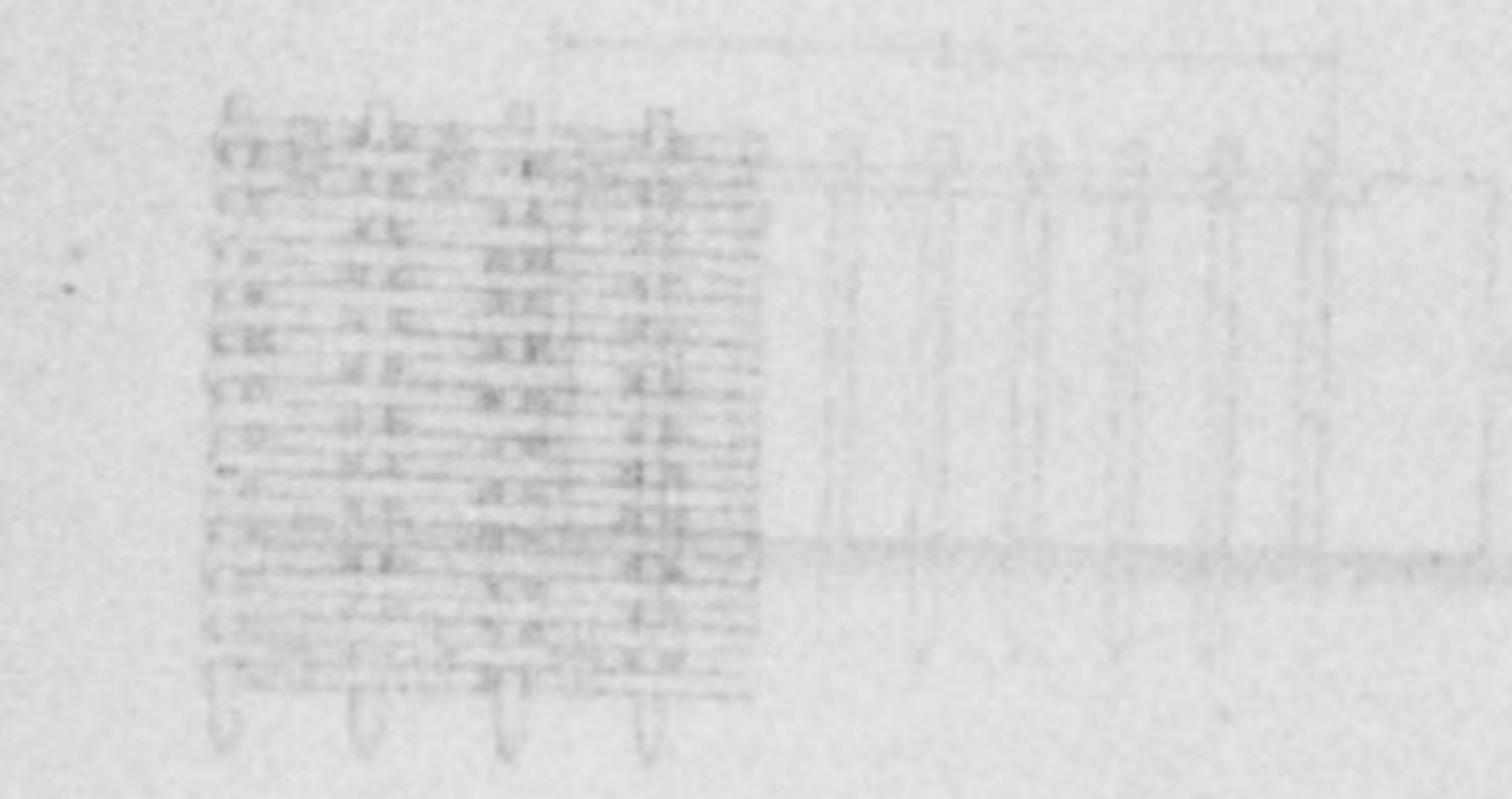
圖十一



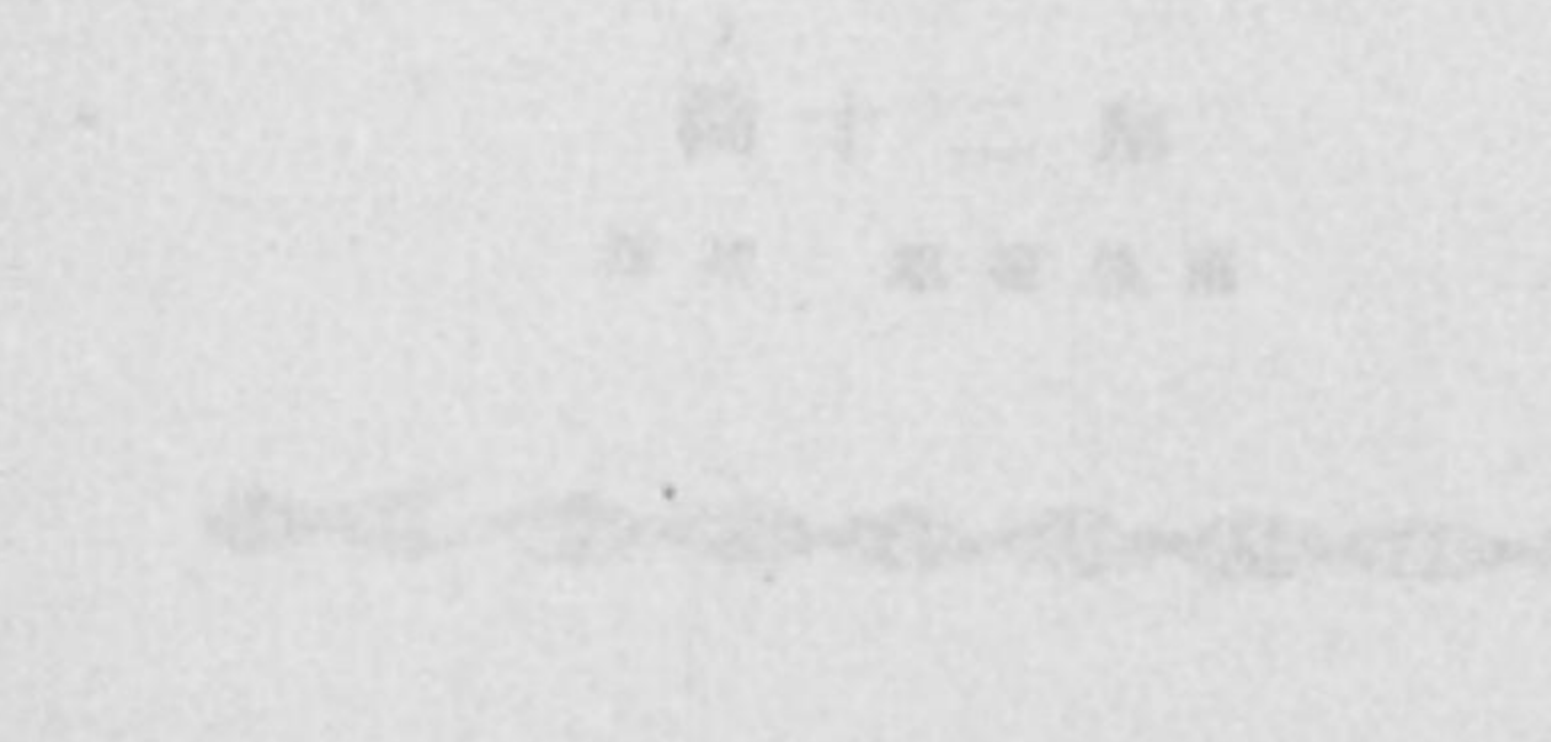
圖十二



圖二十一



圖二十二



圖七



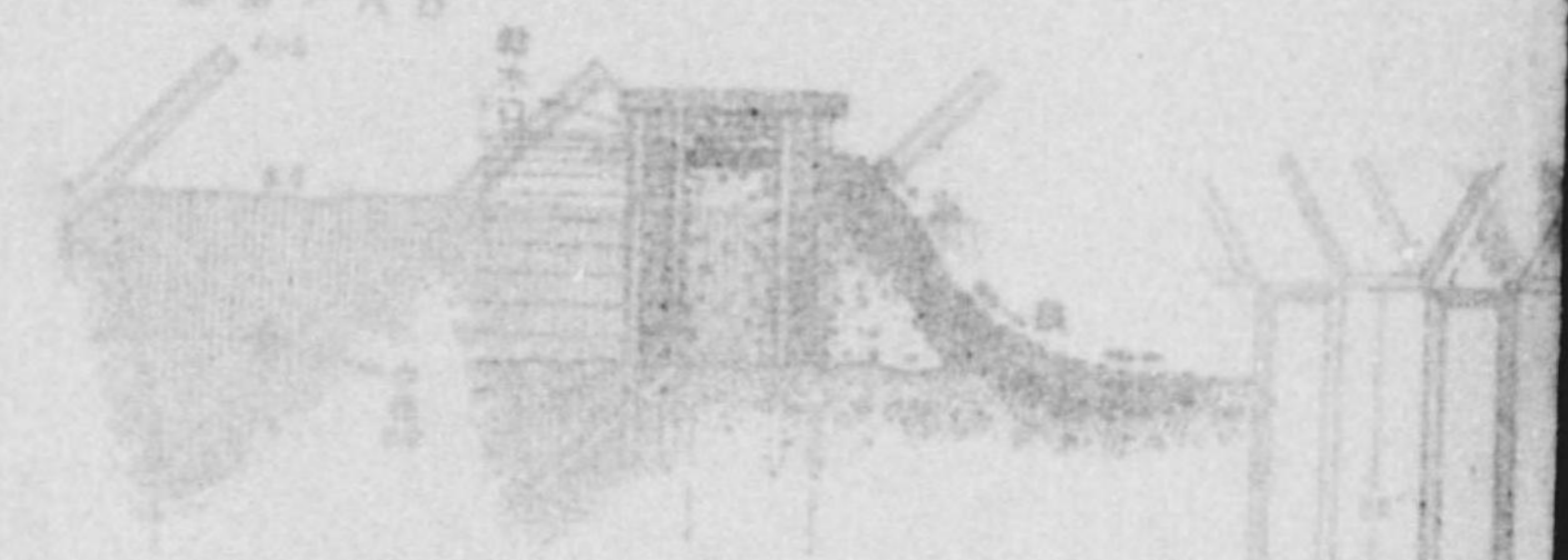
圖八



附錄附圖第一圖—第十二圖

附錄附圖第十三圖—第二十二圖

圖一百一十



圖一百一十

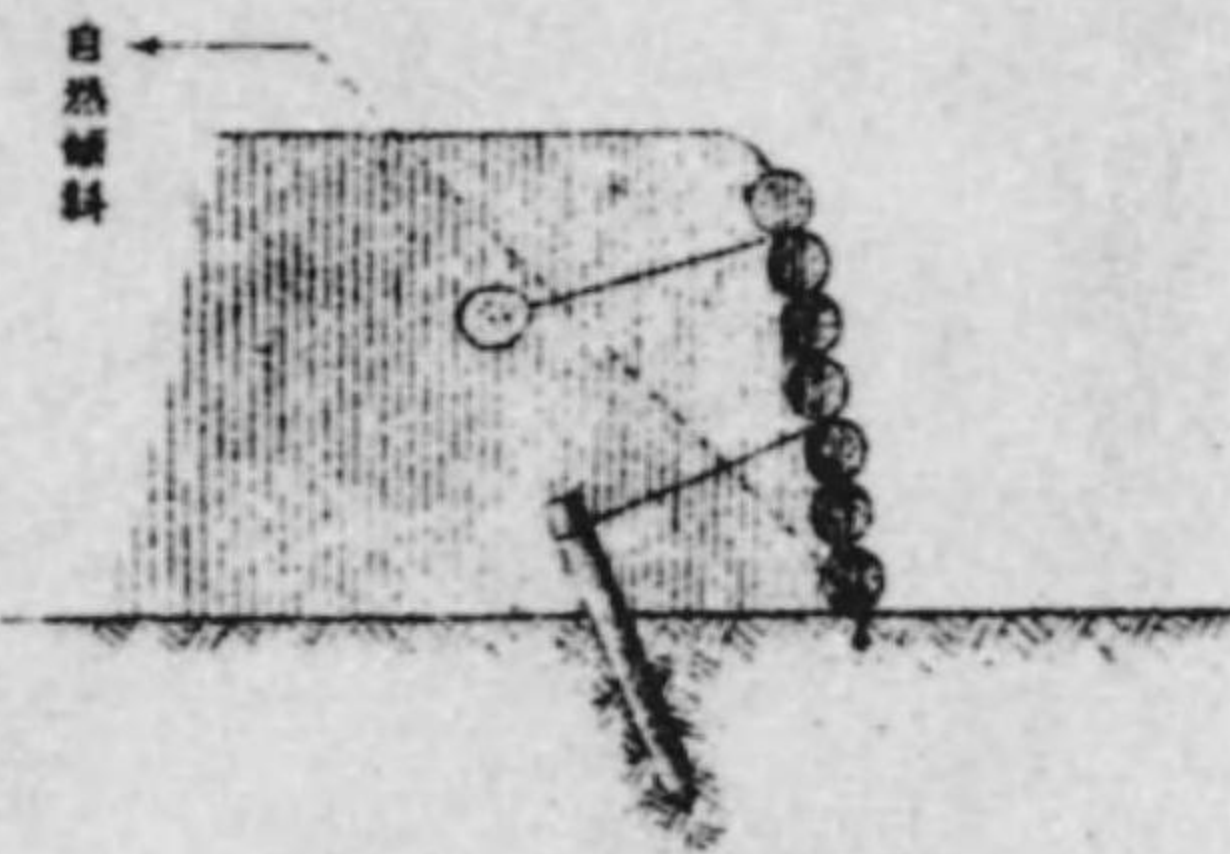


附錄附圖一百一十圖

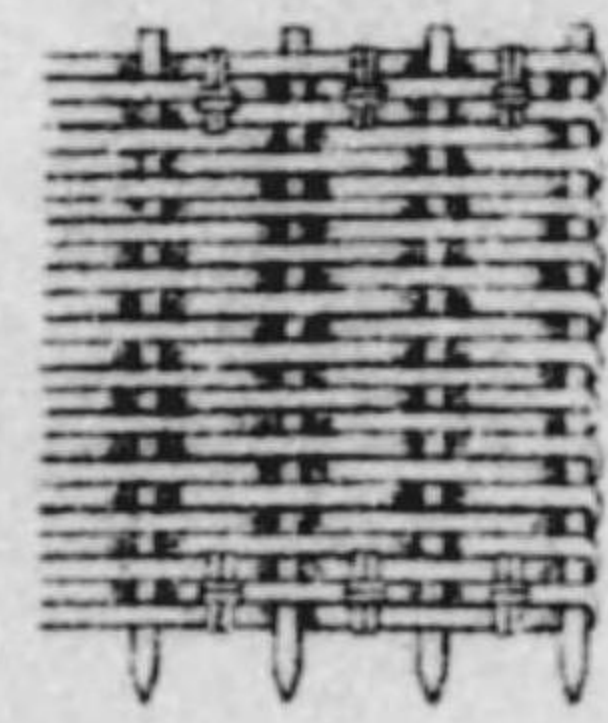
圖一十第  
覆被覆樹之依-柴束



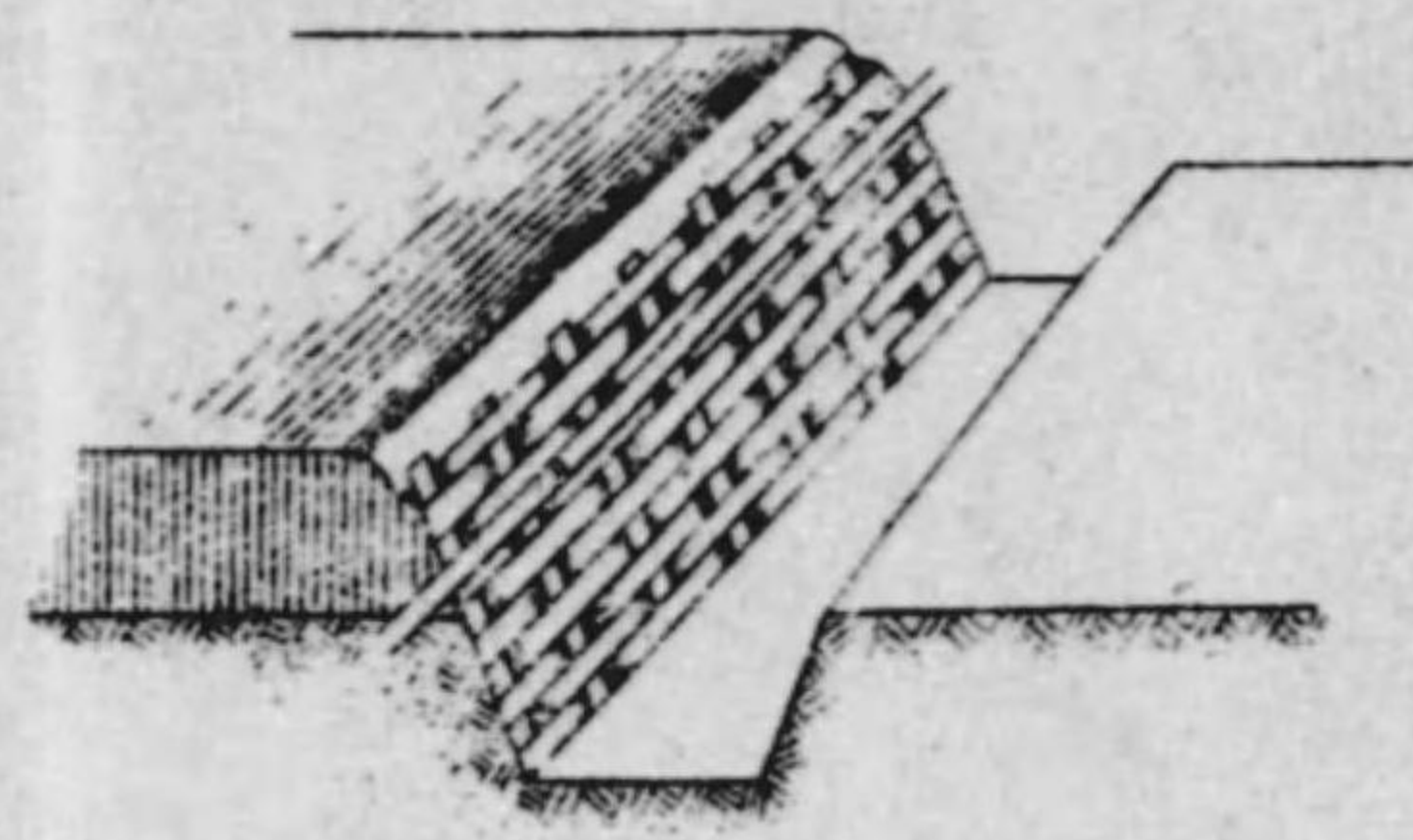
圖二十第  
覆被柴束



圖一十二第  
束結 / 編繩 / 依 = 枝樹 / 又蔓



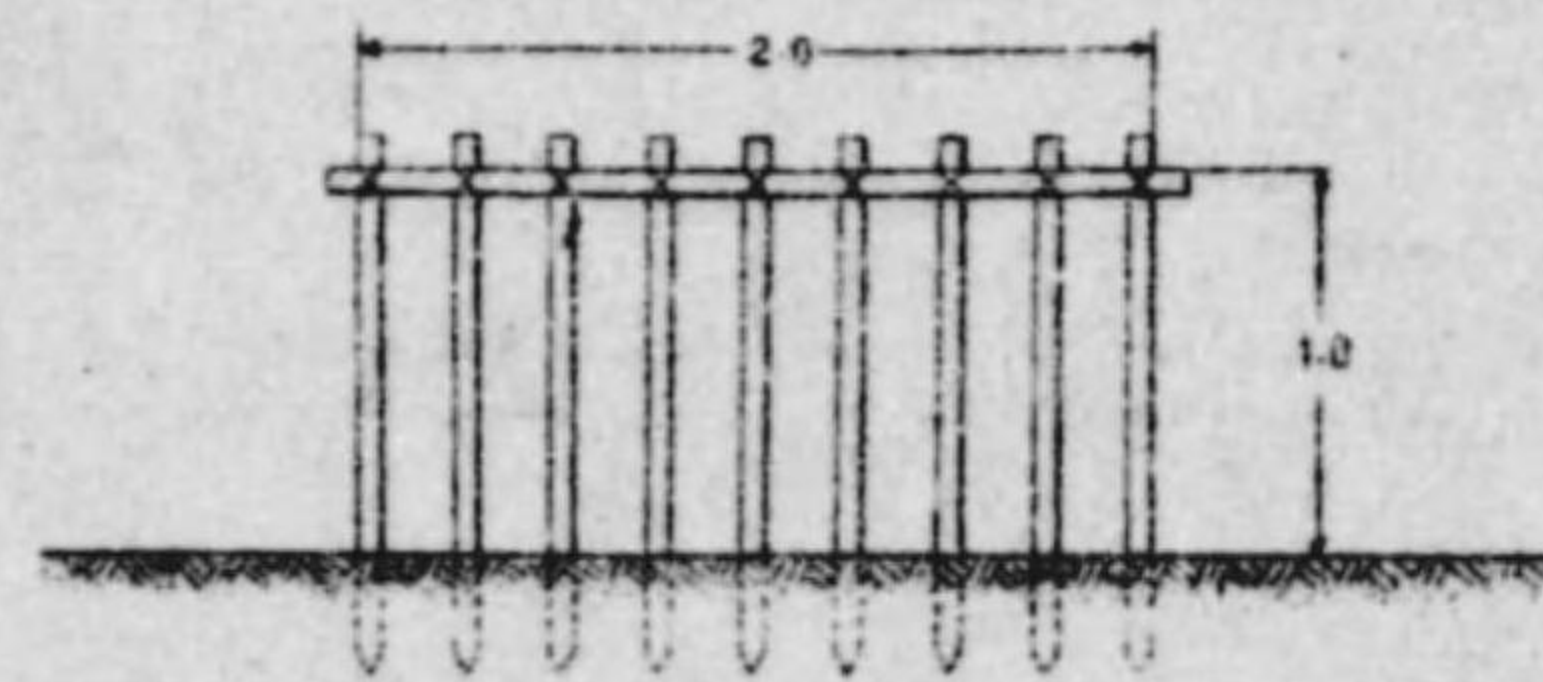
圖九第  
覆被修繩



圖十第  
覆被修繩 / 依 = 柴束



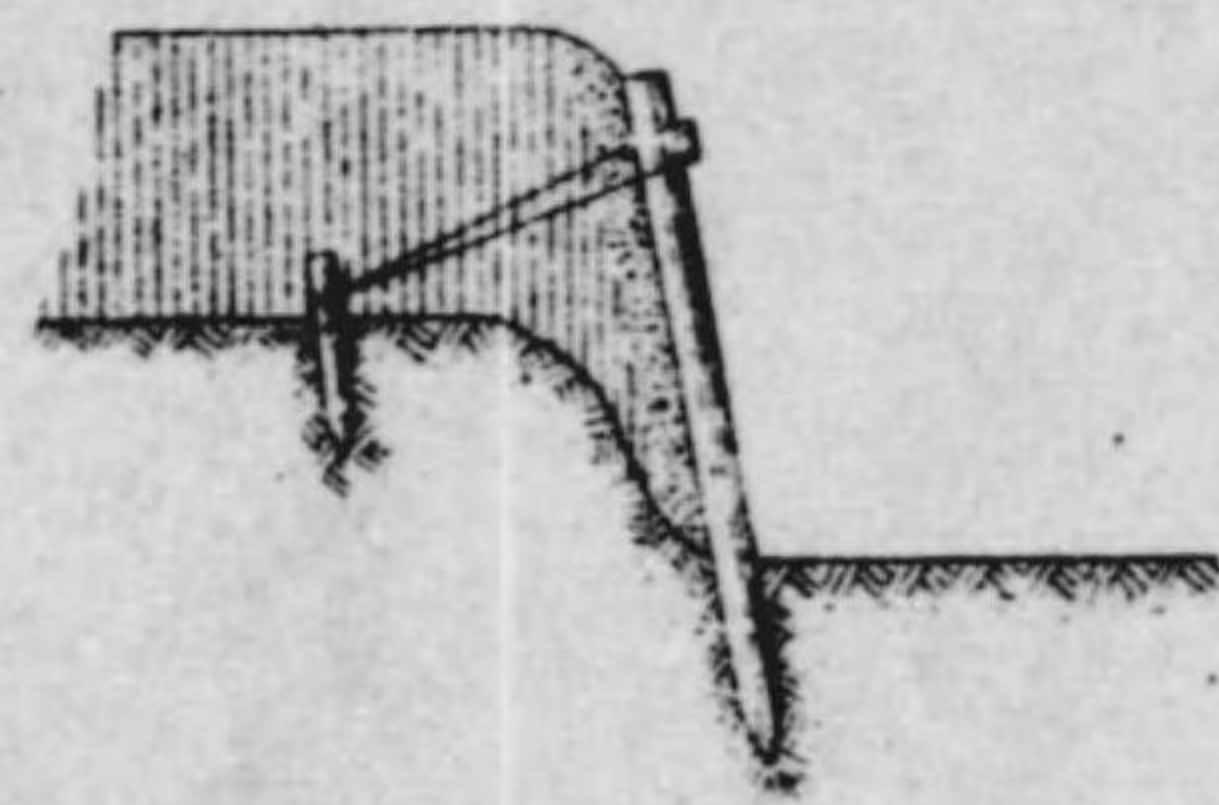
圖九十第  
立植 / 植 / 修繩



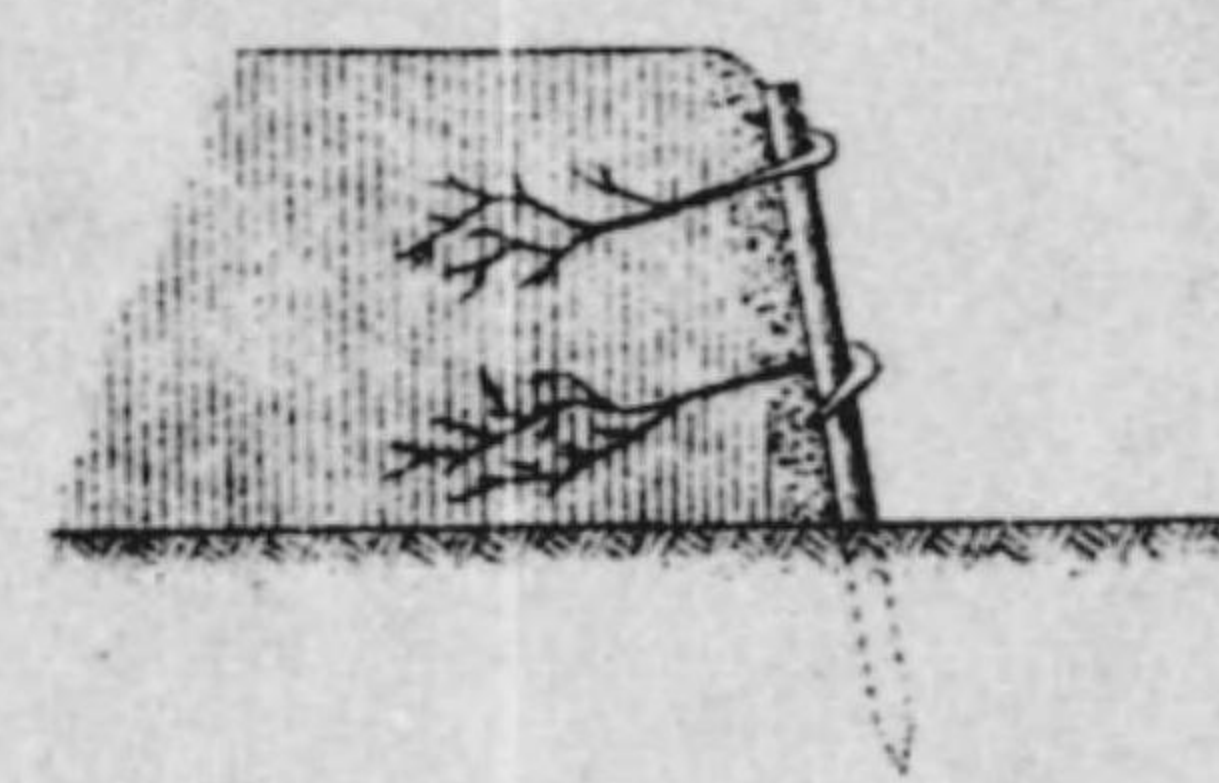
圖十二第  
用初 / 組編修繩



圖七第  
覆被枝樹



圖八第  
△樹及覆被枝樹



圖七十第  
架柴束遺念

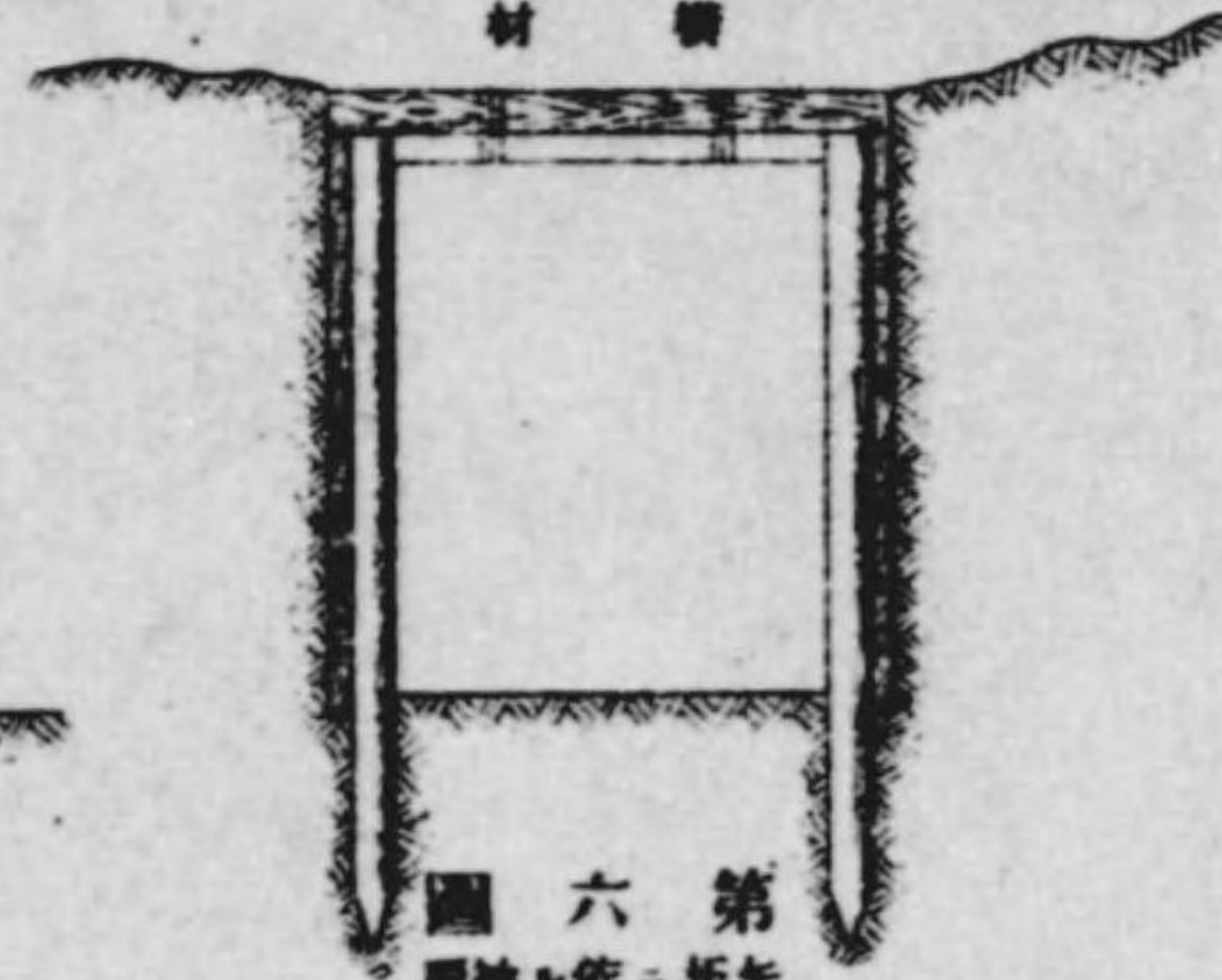


圖八十第

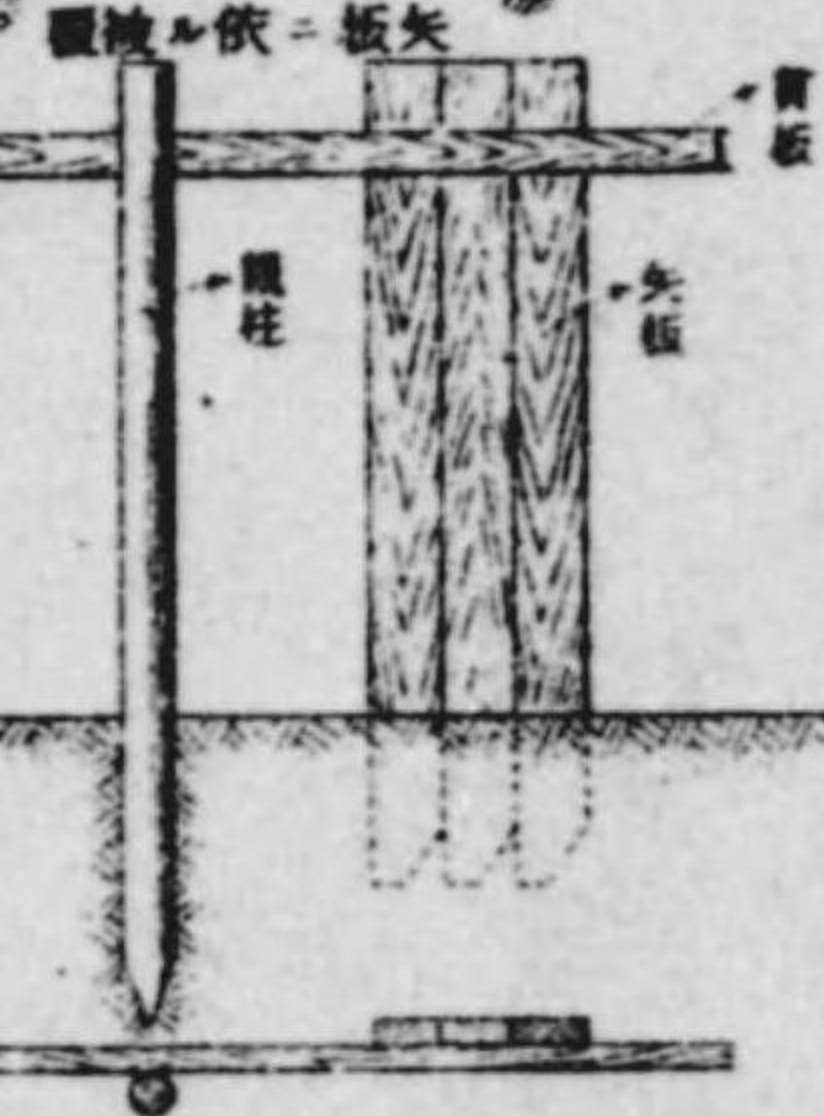
束結 / 柴束 / 依 = 枝樹 / 又蔓



圖五第  
村 欄



圖六第

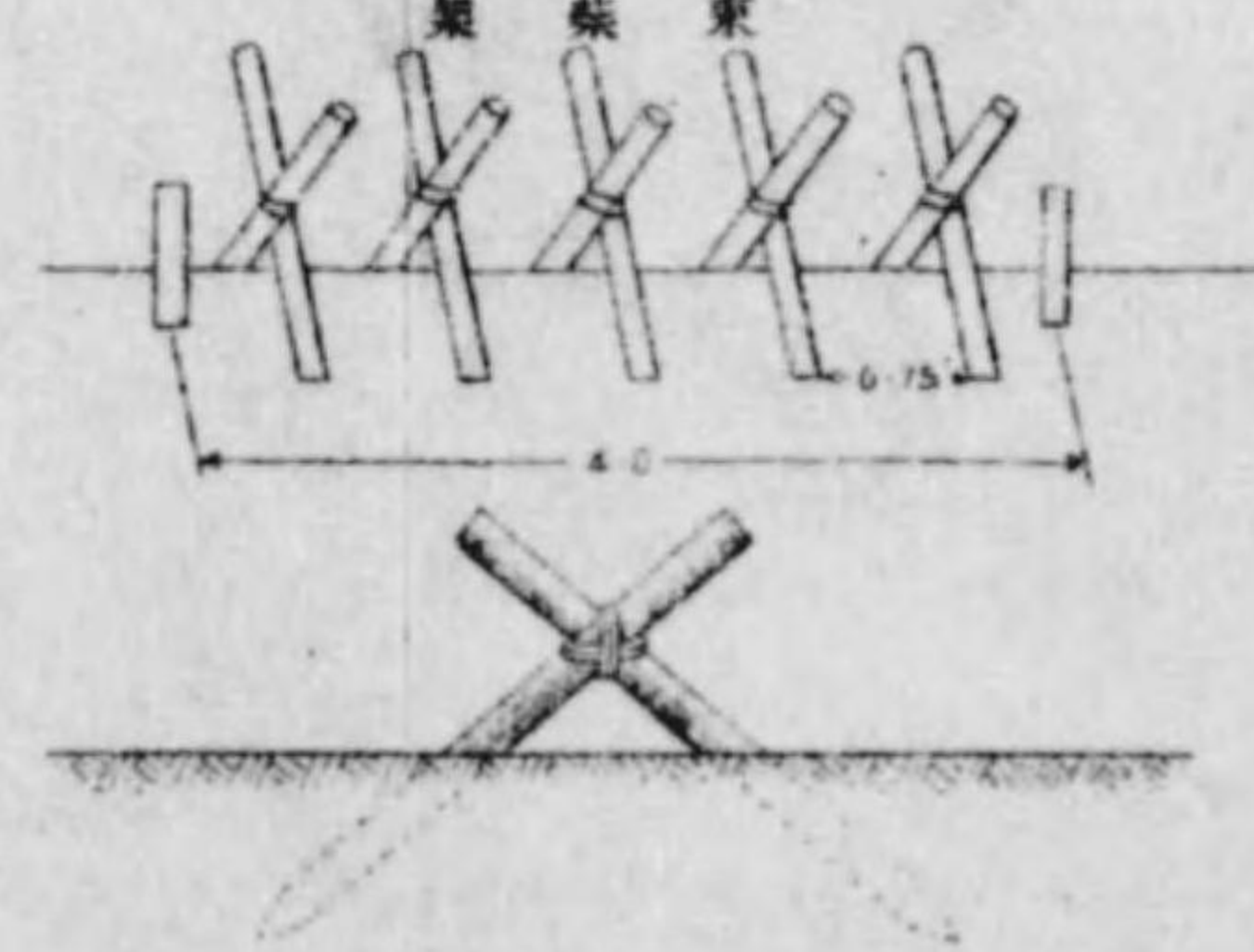


圖七十第  
架柴束遺念

圖五十第  
籠 壁



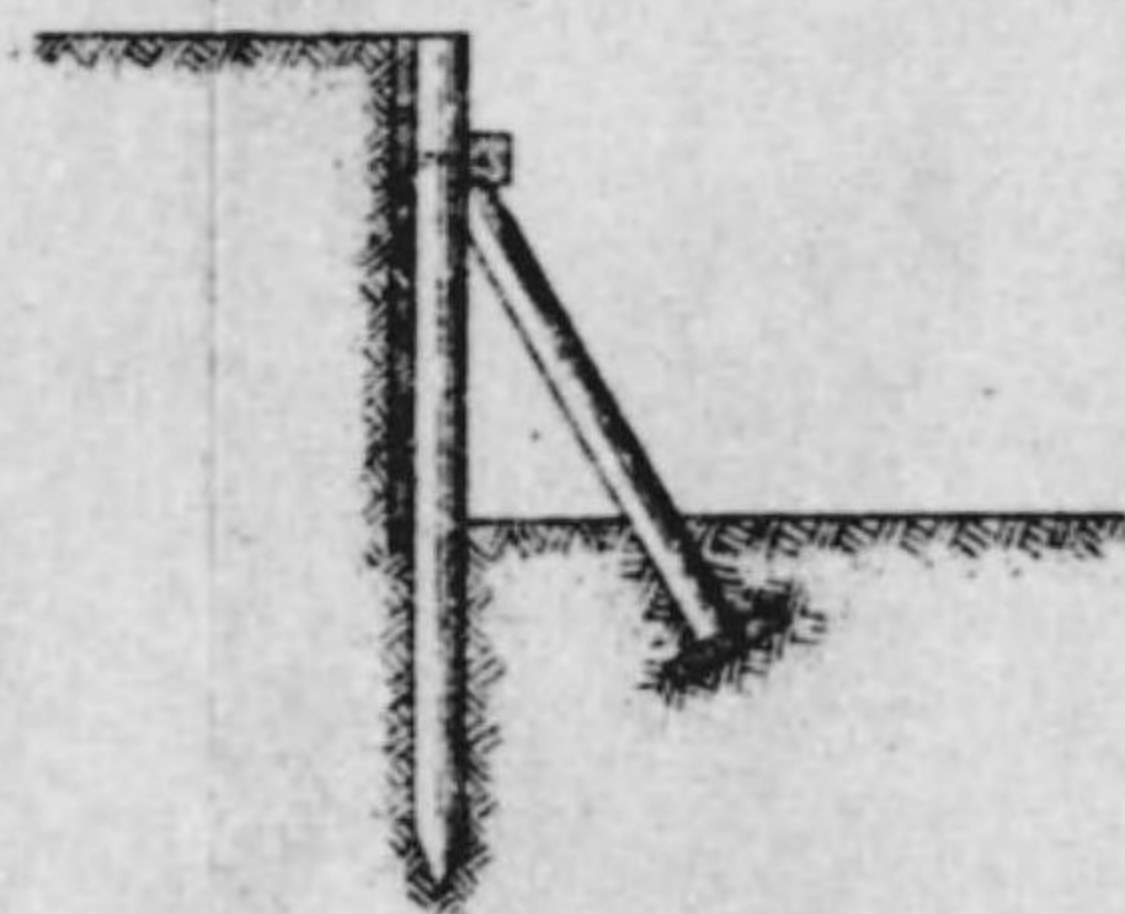
圖六十第



圖三第  
△樹 / 柴 / 又蔓



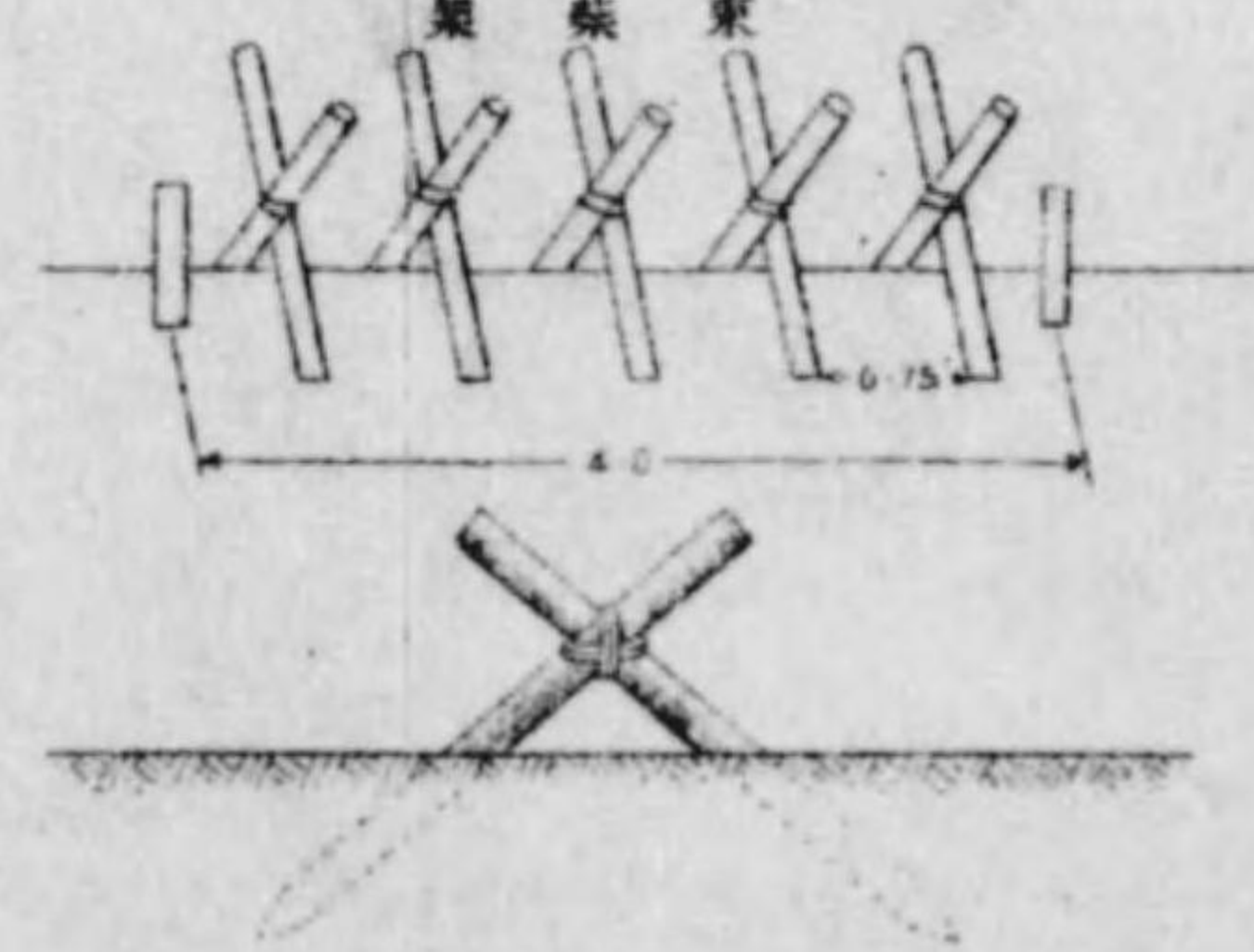
圖四第  
柱 針



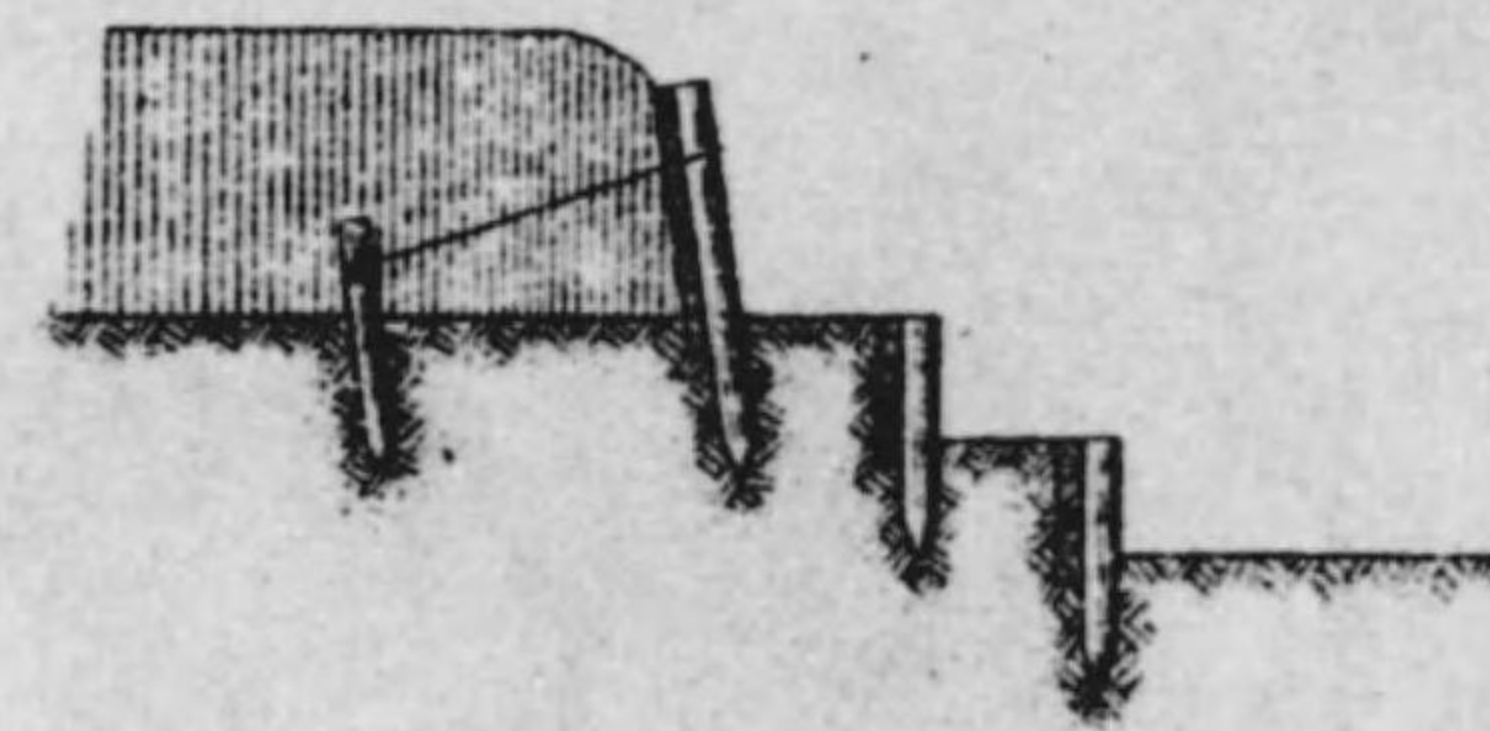
圖五十第  
籠 壁



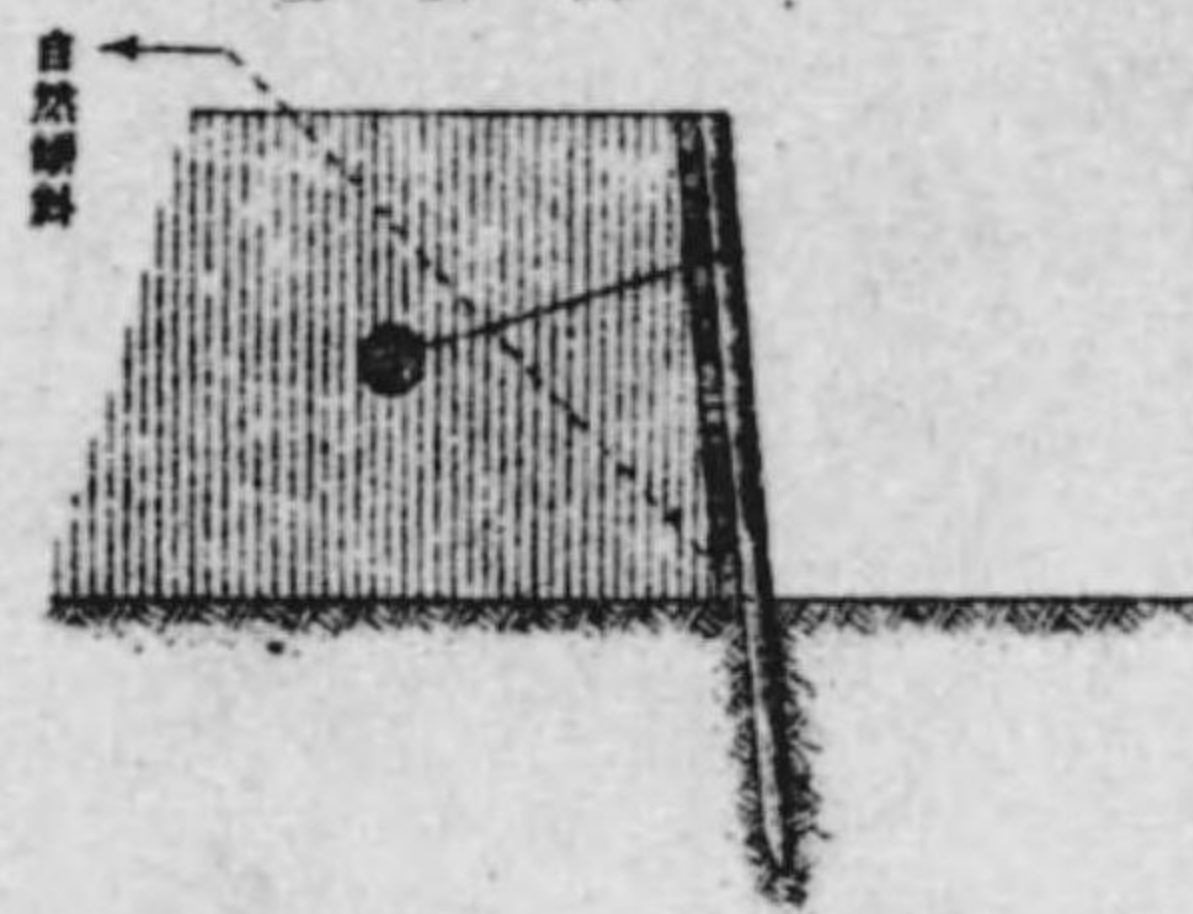
圖六十第



圖一第  
覆被板



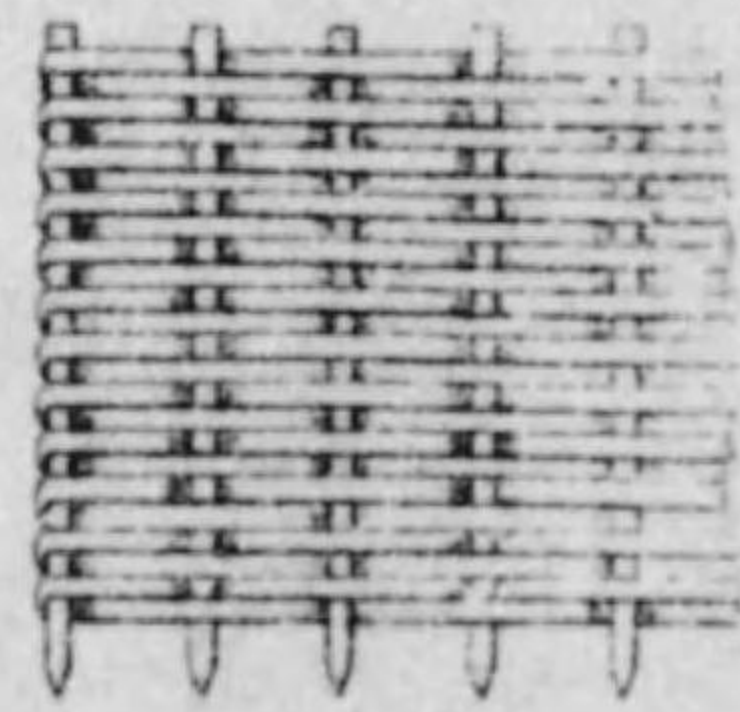
圖二第  
覆被板



圖三十第  
架 束



圖四十第  
修 繩



附錄附圖第一圖——第十二圖

附錄附圖第十三圖——第二十二圖

朕軍隊内務書ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名 御璽

昭和九年九月二十七日

陸軍大臣 林

銑 十郎

軍令陸第九號

軍隊内務書

甲

軍隊內務書

目次

1 次 目

綱	第一章	總則	一	第十四章	週番勤務	一九
第一章	第二章	服從	三	第十五章	火災豫防、消防及非常呼集	二九
第二章	第三章	敬稱及稱呼	四	第十六章	風紀衛兵	三三
第三章	第四章	聯隊長ノ職務	五	第十七章	營倉	三六
第四章	第五章	大隊長ノ職務	六	第十八章	當番勤務	三六
第五章	第六章	中隊長ノ職務	六	第十九章	檢査	三七
第六章	第七章	聯隊本部諸官ノ職務	七	第二十章	起居及容儀	三八
第七章	第八章	大隊本部諸官ノ職務	七	第二十一章	休日及外出	四〇
第八章	第九章	中隊附諸官ノ職務	七	第二十二章	衛生	四四
第九章	第十章	命令下達	二	第二十三章	馬四ノ衛生	四七
第十章	第十一章	兵營及室内裝置	三	第二十四章	厩	四九
第十一章	第十二章	委員	五	第二十五章	炊事場及浴場	四九
第十二章	第十三章	工場及倉庫	七	第二十六章	命課布達式及告別	五〇
第十三章			九	第二十七章	入隊兵取扱	五一
				第二十八章	除隊兵取扱	五三
				第二十九章	酒保	五四
				第三十章	將校集會所及准士官下士官集會所	五五
				第三十一章	郵便物及電報取扱	五六

第三十二章 報 告……………五八  
 第三十三章 文書及帳簿……………五九  
 第三十四章 雜 則……………五九  
 附 則……………六〇  
 附表第一其一 中隊日報……………  
 附表第一其二 大隊本部日報……………  
 附表第一其三 聯隊本部日報……………  
 附表第二 風紀衛兵報告……………  
 附表第三其一 聯、大、中隊備付帳簿……………  
 附表第三其二 週番日直勤務用帳簿……………  
 附表第三其三 風紀衛兵所備付帳簿……………  
 附表第三其四 醫務室備付帳簿……………  
 附表第三其五 獸醫事務室備付帳簿……………

軍 隊 內 務 書

綱 領

一 軍ハ天皇親率ノ下ニ皇基ヲ恢弘シ國威ヲ宣揚スルヲ本義トス  
 二 軍隊統率ノ本旨ハ將兵ノ心ヲ一誠ニ歸シ一致團結以テ軍ノ本義ニ邁進セシムルニ在リ  
 三 兵營ハ苦樂ヲ共ニシ死生ヲ同ウスル軍人ノ家庭ニシテ兵營生活ノ要ハ起居ノ間軍人精神ヲ涵養シ軍紀ニ慣熟セシメ鞏固ナル團結ヲ完成スルニ在リ  
 四 軍人精神ハ戰勝ノ最大要素ニシテ其ノ消長ハ國運ノ隆替ニ關ス而シテ名節ヲ尙ヒ廉恥ヲ重ニスルハ我武人ノ世ノ砥礪セシ所ニシテ職分ノ存スル所身命ヲ君國ニ獻ケテ水火尙辭セサルモノ實ニ軍人精神ノ精華ナリ是ヲ以テ上官ハ部下ヲシテ常ニ軍人ニ賜リタル勅諭勅語ヲ奉體シ我國體ノ萬國ニ冠絶セル所以ト國軍建設ノ本旨ト

ヲ銘肝シ且兵役ノ國家ニ對スル崇高ナル責務及名譽タルコトヲ深ク自覺セシメ苟モ思索ノ選ヲ誤ルカ如キコトナカラシムヘシ而シテ精神教育ハ唯精神ヲ以テ教育スルヲ得ヘク百ノ言辭ハ一ノ模範ニ如カス上官先ツ至誠ヲ以テ之ニ臨ミ身ヲ以テ部下ヲ感化スルコトヲ期スヘシ  
 五 軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ故ニ軍隊ハ常ニ軍紀ヲ振作スルヲ要ス時ト所トヲ論セス上下齊シク法規ヲ恪守シ熱誠以テ軍務ニ努力シ命令必ス行ハル是ヲ軍紀振作ノ實證ト爲ス  
 六 軍人ノ志氣ハ旺盛ナラサルヘカラス志氣旺盛ニ至ラシムルヲ要ス而シテ服從ハ高潔ナル犧牲的精神ヨリ出テ彈丸雨注ノ間尙克ク身命ヲ君國ニ獻ケ一意上官ノ指揮ニ從フニ至ルヘキモノニシテ其ノ之ヲ致ス所以ノ道ハ上官先ツ自ラ法則ヲ恪守シ命令ヲ遵奉シ以テ服從ノ範ヲ垂ルルニ在リ

盛ナレハ進テ難局ニ當リ喜テ其ノ責ニ任スルニ至ルモノトス是ニ於テカ軍紀自ラ振肅シ服務自ラ活氣ヲ呈ス上官ハ常ニ部下ノ志氣ヲ振興シ勇往邁進斃レテ後已ムノ氣槩ヲ充溢セシムヘシ

七 將校ハ軍隊ノ楨幹ナリ故ニ堅確ナル軍人精神ヲ涵養シ高邁ナル徳性ヲ陶冶シ識見技能ヲ向上シ體力氣力ヲ充實シ率先垂範以テ儀表タラサルヘカラス就中隊長ハ一隊團結ノ樞軸ニシテ部下統率ノ全責任ヲ有ス宜シク軍隊統率ノ本旨ニ則リ特ニ抱負ト信念トヲ堅持シ部下ヲシテ積極敢爲服務ニ精進セシメ以テ上下相敬愛シ左右相親和シ軍紀嚴正ニシテ團結鞏固ナル軍隊ヲ練成スヘシ

八 職務ノ存スル所責任自ラ之ニ伴フ各官宜シク其ノ職責ノ存スル所ニ鑑ミ全力ヲ傾注シテ之カ遂行ニ勉ムヘシ關係諸官相互ノ連繫亦固ヨリ忽ニスヘカラスト雖苟モ他人ニ倚頼シ若ハ事毎ニ上官ノ指示ヲ仰キテ責任ヲ免ルルヲ許サス又上官タル者ハ常ニ意ヲ部下ノ指導ニ致シ罰切ナ

ル監督ヲ行フト共ニ嚴ニ其ノ職責ヲ尊重シ其ノ手腕ヲ發揮セシムルヲ要ス

九 上官ハ居常修養ニ勉メ研鑽ヲ果ネ公私ノ別ヲ明ニシテ公明事ニ從ヒ法規ヲ嚴守スルノ間尙部下ヲ遇スルニ骨肉ノ情ヲ以テシ部下ヲシテ上官ハ眞ニ己ノ擁護者タルノ念ヲ懷カシムヘシ斯ノ如クシテ上下相倚リ意思疏通シ部下ノ信賴期セスシテ一身ニ集リ死生ノ間尙克ク部下景仰ノ中心タルヲ得ルモノトス

下士官ハ特ニ兵ト起居ヲ共ニスルモノナルヲ以テ其ノ舉止言動ノ之ヲ感化スルコト特ニ深甚ナルモノアルヲ思ヒ己レ先ツ法則ヲ遵守シテ服從ノ道ヲ守リ行狀ヲ慎ミ態度服裝ヲ正シ懇切公平ヲ旨トシ躬行以テ之カ善導ニ勉ムヘシ

壯丁ノ始メテ兵營ニ入ルヤ生活狀態ノ急變ニ依リ其ノ心性ニ影響スル甚シキモノアリ故ニ上官ハ懇切ニ之ヲ指導シ漸ク以テ營内ノ生活ニ慣熟セシメ終ニ自ラ規律アル生活ヲ樂ミ一舉一動苟モ放肆安逸ニ陥ルカ如キコトナキニ至ラシムヘ

十 兵ハ一意専心上官ノ教訓ニ遵ヒ思想正順ニシテ克ク其ノ本分ヲ自覺シ命令規則ヲ嚴守シ演習、勤務ニ勉勵シ常ニ筋骨ヲ鍛鍊シ百折不撓ノ心ヲ養ヒ以テ軍人ノ本領ヲ完ウスヘシ

十一 兵營生活ハ軍隊成立ノ要義ト戰時ノ要求トニ基キタル特殊ノ境涯ナリト雖社會ノ道義ト個人ノ操守トニ至リテハ軍隊ニ在ルカ爲ニ其ノ趨舍ヲ異ニスルコトナシ故ニ在營間ノ教養ハ啻ニ全服役間ヲ通シテ軍人ノ本分ヲ完ウスルニ緊要ナル基礎タルノミナラス亦以テ國民道徳ヲ涵養シ終世ノ用ヲ爲スヘキ習性ヲ賦與スルニ至ルヘキモノニシテ兵ハ歸郷ノ後ト雖永ク此ニ由リテ各自ノ業務ヲ勵ミ忠良ナル國民ト爲リテ自ラ克ク郷黨ヲ薰染シ以テ國民ノ風尙ヲ昂上セシムルヲ得ヘシ

十二 各級ノ幹部及兵克ク前記ノ趣旨ヲ體シテ各、其ノ分ヲ盡サハ兵營ハ一大家庭ヲ成シ融々和樂ノ間其ノ團結ヲ鞏固ニシ上下相愛シ緩急相

救ヒ有事ノ日欣然トシテ起テ勇奮死ニ赴クヲ樂ムニ至ルヘシ是レ實ニ軍ノ本義ヲ顯彰スル所以ノ道ナリ

第一章 總 則

第一 本書ハ陸軍軍隊ニ於ケル各官ノ職責及内務ニ關スル事項ヲ規定ス官衙、學校等ニ在リテモ亦之ヲ準用スルモノトス

軍隊内務ノ實施ニ當リテハ勉メテ其ノ他ノ教育訓練ト連繫ヲ密接ナラシムルト共ニ戰時ノ要求ニ適應セシムルヲ必要トス

第二 服從、敬稱及稱呼ハ軍隊ニ屬セサル軍人ト雖本書ノ規定ヲ守リ其ノ他ハ本書ノ精神ヲ準用スルモノトス

第三 本書中別ニ定ムルモノノ外左記上段ノモノニ關スル規定ハ下段ノモノニ之ヲ適用ス

一 聯隊(聯隊長) 獨立隊(獨立隊長)

(戰車聯隊材料廠、同練習部)  
(戰車聯隊材料廠長、同練習部)

二 大隊(大隊長)

- 部長
- 鐵道聯隊材料廠
- 電信聯隊材料廠
- 飛行聯隊材料廠
- 飛行聯隊材料廠
- 氣球隊材料廠、同練習部
- 氣球隊材料廠長、同練習部長

三 中隊(中隊長)

- 機關銃隊(機關銃隊長)
- 裝甲自動車隊
- 裝甲自動車隊長
- 高射砲隊(高射砲隊長)
- 照空隊(照空隊長)
- 整備隊(整備隊長)
- 固定無線隊
- 固定無線大隊長
- 下士官候補者隊
- 下士官候補者隊長

聯隊内ニ在ル大(中)隊長ノ職務中獨立隊長ニ適

應スルモノハ之ニ依ルモノトス

第四 本書中士官候補生ト稱スルハ軍醫候補生、見習士官ト稱スルハ見習主計、見習醫官、見習藥劑官及見習獸醫官、少尉候補者ト稱スルハ三等主計候補者、三等看護官候補者及三等獸醫候補者又上等兵ト稱スルハ上等兵勤務一等兵上等看護兵ト稱スルハ上等看護兵勤務一等看護兵ヲ含ム但シ特ニ明文アルモノハ此ノ限ニアラス本書中乘馬部隊ト稱スルハ山砲兵隊ヲ含ムモノトス

第五 本書ニ規定スルモノノ外特ニ明文アルモノヲ除キ妄ニ規定ヲ設クルヲ許サス

但シ編制、衛戍地、季候其ノ他特殊ノ關係上本書ノ規定ヲ適用シ難キトキハ師團長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ本書ノ規定ニ準シテ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二章 服從

第六 部下タル者其ノ上官ニ服從スルハ如何ナ

ル場合ヲ問ハス必ス嚴重ナルヘシ

部下ニ非サル受令者ノ命令者ニ對スル場合モ亦之ニ同シ

第七 隸屬ノ關係ヲ有セサル上級先任者ト下級新任者トノ間ニ於テモ各、其ノ職務ニ妨ナキ限リ服從ノ道ヲ守ルヘシ

第八 命令ハ謹テ之ヲ守リ直ニ之ヲ行フヘシ決シテ其ノ當不當ヲ論シ其ノ原因理由等ヲ質問スルヲ許サス又受令者ハ通常命令ノ實行ニ關シ適時所要ノ報告ヲ爲スヘキモノトス

新ニ受クル命令ト以前ノ命令ト齟齬スルトキハ徐ニ其ノ趣ヲ申述ヘ指示ヲ請クヘシ

第九 軍隊ヲ裨益スルニ足ルト信スル所ハ上官ヲ輔佐スルノ至情ヲ以テ進テ之ヲ上官ニ開陳スルハ各級ノ軍人特ニ幹部ノ責務トス然レトモ其ノ開陳ニ當リテハ秩序ヲ紊ルカキコトアルヘカラス又一度上官ノ決定シタル事項ニ對シテハ假令意見ヲ異ニスルトキト雖常ニ己ヲ虚クシテ專心上官ノ意圖ヲ達スルコトヲ勉ムヘシ

第十 自己ニ對スル他人ノ取扱不條理ト考フルトキハ徐ニ順序ヲ經テ之ヲ事件關係者ノ直上所属隊長ニ上申スルハ妨ナシ但シ兵ニ在リテハ要スレハ直接特務曹長ニ上申スルコトヲ得又上申ハ二人以上共同シ若ハ勤務中ニ於テ之ヲ爲スコトヲ許サス

第三章 敬稱及稱呼

第十一 下タル者上タル者ニ對シテハ直接ト間接トヲ問ハス左ノ敬稱ヲ用フヘシ

天皇 皇太后 皇太后 皇后ニハ 陛下

皇太子 皇太子妃 皇太孫 皇太孫妃 親王 殿下

親王妃 內親王 王 王妃女王 王世子 殿下

王世子妃 公及公妃ニハ 閣下

將官 將官相當官ニハ 閣下

上長官以下ニハ 殿 下

但シ己ニ隸屬セラレタル皇族、王族、公族ニ對シテハ勤務上ニ限り又上級先任者ニ對シ其ノ人ヨ

リ下級新任者ヲ稱呼スルトキ竝勤務上ニ於テ間接ニ上級前任者ヲ稱呼スルトキハ敬稱ヲ省クコトヲ得

第十二 公文書ノ宛名ニハ總テ殿ノ敬稱ヲ用フヘシ但シ皇族・王族・公族ニ對シテハ前條ノ敬稱ヲ用フルモノトス

第十三 下級者又ハ新任者ヲ稱呼スルニハ直接ト間接トヲ論セス其ノ氏ト官(職)名トヲ用ヒ官職ナキ者ニ對シテハ氏ト等級若ハ氏ノミヲ稱呼スヘシ但シ場合ニ依リ單ニ官、職、等級、特業又ハ勤務上ノ稱呼ノミヲ用フルモ妨ナシ

第四章 聯隊長ノ職務

第十四 聯隊長ハ聯隊ヲ統率シ軍紀ヲ振作シ風紀ヲ肅正シ部下教育訓練ノ責ニ任ス

第十五 聯隊長ハ聯隊團結ノ中心トナリ特ニ部下就中將校、同相當官ヲ扶掖薰陶シ軍人精神ヲ砥礪シ同心協力以テ聯隊ノ團結ヲ鞏固ナラシムルコトヲ勉ムヘシ

第十六 聯隊長ハ法規ノ定ムル所ニ從ヒテ賞罰及休暇付與ノ權ヲ有シ又人事、動員、兵器、經理、人馬ノ保育衛生、内務等聯隊諸般ノ業務ヲ統理ス

第十七 聯隊長ハ常ニ世相ノ趨向ニ留意シ地方ノ狀況ヲ知悉スルト共ニ國民ヲシテ軍隊ノ實情ヲ理解セシメ以テ軍隊教育ト國民教育トノ連繫ニ勉ムルヲ要ス

第五章 大隊長ノ職務

第十八 大隊長ハ大隊ヲ統率シ軍紀ヲ振作シ風紀ヲ肅正シ部下教育訓練ノ責ニ任ス

第十九 大隊長ハ特ニ中隊ノ教育及内務ヲ指導監督シテ聯隊長ノ意圖ヲ徹底セシムルコトヲ勉ムヘシ

第二十 大隊長ハ法規ノ定ムル所ニ從ヒテ賞罰及休暇付與ノ權ヲ有シ又法規ノ定ムル所ニ從ヒ若ハ聯隊長ノ命ヲ承ケ人事、兵器、經理、人馬ノ保育衛生、内務等大隊諸般ノ業務ヲ監督處理

第六章 中隊長ノ職務

第二十一 中隊長ハ中隊ヲ統率シ軍紀ヲ振作シ風紀ヲ肅正シ部下教育訓練ノ責ニ任ス

第二十二 中隊長ハ中隊志氣結合ノ核心トナリ特ニ部下ヲシテ軍人ニ賜リタル勅諭勅語ヲ銘肝セシメ且諸種ノ手段ヲ盡シテ軍人精神ヲ涵養シ克ク其ノ本分ヲ理解セシメ以テ鞏固ナル團結ヲ完成スルコトヲ勉ムヘシ

第二十三 中隊長ハ法規ノ定ムル所ニ從ヒテ賞罰及休暇付與ノ權ヲ有シ又法規ノ定ムル所ニ從ヒ若ハ上官ノ命ヲ承ケ人事、兵器、經理、人馬ノ保育衛生、内務等中隊諸般ノ業務ヲ處理ス

第二十四 中隊長ハ部下幹部ニ統御及教育訓練ノ要領ヲ會得セシメ其ノ威嚴ヲ保タシムルコトニ注意シ又善良ナル下士官候補者ヲ得ルコトヲ勉ムヘシ

第二十五 中隊長ハ部下ノ個性ヲ審ニシ其ノ長

ヲ伸ヘ短ヲ訓ヘテ修養ヲ完カラシムルニ勉メ殊ニ賞罰ノ行使ニ注意シ且處罰者ニ對シテハ其ノ犯行ノ動機ヲ究明シテ爾後ノ教化ニ遺漏ナキヲ期スヘシ之カ爲ニハ部下ノ家庭其ノ他個人ノ實情ヲ明ニスルコト緊要ニシテ要スレハ兵ノ父兄、地方官公吏、在郷軍人會、青年訓練所、青年團、學校等ト連繫スヘシ

第二十六 中隊長ハ内務ノ實施ヲ確實且容易ナラシムル爲兵舍、厩、砲廠、車廠等ノ構造ヲ顧慮シテ若干ノ内務班ヲ設ケ之ニ下士官曹長及分

ヲ除、兵、馬四、火炮、車輛等ヲ分屬スヘシ内務班ニハ番號ヲ附シ班内上級前任ノ下士官ヲ以テ内務班長ト爲スヘシ

第二十七 中隊長ハ聯隊長ノ定ムル範圍ニ於テ下士官、兵ニ書籍、雜誌、新聞ノ閱讀其ノ他物品ノ所持ヲ許可スルコトヲ得

第七章 聯隊本部諸官ノ職務



第二十八 聯隊本部諸官ハ聯隊長ノ命ヲ承ケ各、分擔ノ職務ニ從事シ聯隊長ニ對シ其ノ責ニ任ス

第二十九 聯隊副官ハ聯隊本部ノ事務整理及取締ニ任ス

聯隊副官ハ輕易ノ事項ニシテ恆例アルモノハ自ラ之ヲ處理シ便宜聯隊長ニ報告スルモノトス

聯隊副官ハ聯隊本部書記及喇叭長ニ業務ノ分擔ヲ命シ又聯隊本部附下士官ニ對シテハ特ニ規定アルモノノ外中隊長ノ職務中部下下士官ニ對スル規定ヲ準用ス

聯隊副官日常ノ業務概ネ左ノ如シ

- 一 命令、諸達、通報、報告其ノ他文書ノ起草、發送、受領及傳達ヲ掌ル
- 二 聯隊歴史ヲ起草ス
- 三 聯隊本部圖書文書ノ保管ヲ掌ル
- 四 圖書類ノ受領、分配並印刷ニ關スル業務ヲ掌ル
- 五 公務運賃割引證、下士官兵旅客運賃割引證及乗船證ヲ發行ス

六 印章ヲ保管シ公用證、外出證、營外居住證、門鑑、郵便切手及葉書ノ保管出納ヲ掌ル

聯隊長ハ聯隊本部附尉官ヲシテ本條ニ規定スル業務ノ一部ヲ分擔セシムルコトヲ得

第三十 旗手ハ軍旗ヲ捧持シ之ヲ守護スルヲ任トシ傍ラ聯隊副官ノ業務ヲ補助ス

第三十一 聯隊本部書記ハ聯隊副官ノ命ヲ承ケ各、分擔ノ業務ニ服ス但シ聯隊副官及聯隊本部ノ將校不在ノ場合ニ於テ委任外ノ事件生シタルトキハ週番司令ノ指示ヲ請クヘシ

聯隊本部書記日常ノ業務概ネ左ノ如シ

- 一 文書ノ發送、受領其ノ他一般ノ庶務ニ服ス
- 二 定例ニ依ル諸記録ノ記入及報告、通報等ノ調製並書類ノ淨寫校正ヲ行フ
- 三 聯隊本部圖書文書機、祕密圖書ノ整理保管並訂正加除ヲ行フ

四 聯隊本部ノ營繕ニ關スル事務ニ服シ又練習用具、陣營具、同雜品、事務用消耗品其ノ他備付諸物品ノ監守ニ任ス

五 聯隊本部當番ノ勤惰ヲ監督シ火元取締ニ注意ス

六 臨時延燈ヲ許可セラレタル者アルトキハ本部週番下士官ニ通報ス

第三十二 聯隊本部附佐尉官ハ動員、教育、兵器、經理其ノ他諸般ノ業務ヲ分擔ス

第三十三 主計ハ會計經理ノ業務ニ任ス

高級主計ハ其ノ他ノ主計ノ業務ヲ監督シ經理部准士官及下士官ノ人事並見習主計、三等主計候補者、經理部幹部候補生及經理部准士官以下ノ教育ヲ掌ル但シ教育ノ一部ヲ其ノ他ノ主計ニ分擔セシムルコトヲ得

計手ハ主計ノ命ヲ承ケ計算記簿及會計經理ニ關スル事務ニ服ス

第三十四 軍醫 軍醫正ノ屬スル部隊ニ在リハ衛

生業務及擔架術教育ニ任ス

高級軍醫ハ其ノ他ノ軍醫ヲ含ム以下同シノ業務ヲ監督シ看護長ノ人事並見習醫官、軍醫候補生、衛生部幹部候補生及看護長以下ノ教育ヲ掌リ其ノ他醫務室ニ於ケル諸般ノ業務ヲ處理ス但シ教育及醫務室ニ於ケル業務ノ一部ヲ其ノ他ノ軍醫ニ分擔セシムルコトヲ得

看護長ハ軍醫ノ命ヲ承ケ患者ノ看護及器具、器械其ノ他備付諸物品ノ監守ニ任シ治療調劑ヲ補助シ火元取締ニ注意シ衛生及營繕ニ關スル事務ニ服ス

第三十五 獸醫 獸醫正ノ屬スル部隊ニ在リハ馬

四ノ衛生業務及蹄鐵工兵、同修業者ノ教育ニ任シ食獸ヲ検査ス

高級獸醫ハ其ノ他ノ獸醫ノ業務ヲ監督シ蹄鐵工長ノ人事並見習獸醫官、三等獸醫候補者、獸醫部幹部候補生及蹄鐵工長ノ教育ヲ掌リ裝蹄業務ヲ監督シ其ノ他獸醫事務室ニ於ケル諸般ノ業務

ヲ處理ス但シ教育、裝飾業務ノ監督及獸醫事務  
室ニ於ケル業務ノ一部ヲ其ノ他ノ獸醫ニ分擔セ  
シムルコトヲ得  
蹄鐵工長ハ獸醫ニ屬セサル部隊ノ命ヲ承ケ  
裝飾ニ關スル業務、作業品及器具、器械其ノ他  
備付諸物品ノ監守、工場、病馬厩、隔離既ノ取  
締並病馬ノ看護ニ任シ治療調劑ヲ補助シ蹄鐵工  
兵、同修業者ノ教育ニ從事シ又自ラ作業ヲ行ヒ  
火元取締ニ注意シ消火後ハ火氣ノ消滅ヲ確メ且  
馬匹衛生及營繕ニ關スル事務ニ服ス  
第三十六 喇叭長ハ主任將校ノ命ヲ承ケ喇叭  
手、同修業者ノ教育ニ從事シ傍ラ聯隊副官ノ命  
ヲ承ケ本部ノ事務ヲ補助ス  
第三十七 縫、靴工長ハ經理委員ノ命ヲ承ケ  
縫、靴工ノ作業ニ關スル業務、其ノ作業品及器  
具、器械其ノ他備付諸物品ノ監守並工場ノ取締  
ニ任シ工務兵、同修業者ノ教育ニ從事シ又自ラ  
作業ヲ行ヒ且被服經理及營繕ニ關スル事務ニ服

ス  
第三十八 炊事掛下士官ハ經理委員ノ命ヲ承ケ  
食物ノ調理、浴場ニ關スル業務ニ從事スルノ外  
炊事專務兵ノ教育ニ從事シ且糧秣經理及營繕ニ  
關スル事務ニ服ス  
第三十九 砲、工兵諸工長ハ兵器委員又ハ主任  
將校ノ命ヲ承ケ武器、彈藥、器材、器具、材料、  
兵器用物品等ノ出納及其ノ作業ニ關スル業務、  
工場ノ取締並作業品及器具、器械其ノ他備付諸  
物品ノ監守ニ任シ工務兵、同修業者ノ教育ニ從  
事シ又自ラ作業ヲ行ヒ且所要ニ應シ主任將校ノ  
命ヲ承ケ工手、機關員、鐵道聯隊通信手及其ノ  
修業者ノ教育ヲ分擔シ以上各種ノ業務及營繕ニ  
關スル事務ニ服ス  
器械掛、材料掛各下士官ノ職務ハ概ネ前項ニ同  
シ但シ工場及教育ニ關スル事項ヲ除ク  
第四十 電信聯隊ノ輸送掛下士官ハ主任將校ノ  
命ヲ承ケ主トシテ輸送ニ關スル業務ニ從事ス

第八章 大隊本部諸官ノ職務  
第四十一 大隊本部諸官ハ大隊長ノ命ヲ承ケ  
各、分擔ノ職務ニ從事シ大隊長ニ對シ其ノ責ニ  
任ス  
第四十二 大隊副官ハ大隊本部ノ事務整理及取  
締ニ任ス  
大隊副官ノ業務ハ聯隊副官ノ爲規定シタルモノ  
ニ準ス  
第四十三 大隊本部書記ハ大隊副官ノ命ヲ承ケ  
各、分擔ノ業務ニ服ス  
大隊本部書記ノ業務ハ聯隊本部書記ノ爲規定シ  
タルモノニ準ス  
第四十四 軍醫ハ大隊ノ衛生業務ニ任ス  
第四十五 前各條ニ規定セル以外ノ者ノ職務ハ  
聯隊本部諸官ノ爲規定シタルモノニ準ス

分擔ノ職務ニ從事シ中隊長ニ對シ其ノ責ニ任ス  
第四十七 中隊附將校ハ中隊長ヲ輔翼シテ教育  
訓練ニ任シ特ニ中隊長ノ意圖ヲ奉シテ特務曹長  
以下ノ業務ヲ指導監督シ中隊ノ團結ヲ鞏固ナラ  
シムルコトヲ勉メ其ノ他中隊諸般ノ業務ヲ分擔  
シ又特務曹長以下ノ人事、賞罰及休暇等ニ關ス  
ル意見ヲ上申ス  
馬匹、兵器、練習用具、陣營具及被服等ニ關ス  
ル業務ヲ分擔スル將校ハ中隊長ノ旨ヲ奉シテ關  
係委員ト連繫シ主任下士官ヲ指導シテ其ノ整理  
ニ任ス  
第四十八 特務曹長ノ内一名ハ中隊附下士官ノ  
業務ヲ指導シ兵ノ身分ヲ愛護シ下士官以下相互  
ノ親和及上下意思ノ疏通ヲ圖リ且諸規定及内務  
ニ關スル中隊長ノ命令意圖ノ實施ヲ監督スルヲ  
主要ナル任トシ其ノ他教育及人馬ニ關スル事務  
ニ服シ又下士官以下ノ人事、賞罰及休暇等ニ關  
スル意見ヲ上申シ尙所要ニ應シ中隊附將校ニ準  
シ教育訓練ニ任ス其ノ日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 兵ノ身元調査ヲ爲シ父兄其ノ他外部トノ連繫ニ勉メ又兵ノ性質、技能身心ノ狀態、交友關係及通信等個人ノ實情ヲ審ニシ其ノ行狀、勤惰及諸規定ノ實施ヲ監督ス

二 馬四ノ性質、能力ヲ審ニシ其ノ保育ニ注意シ週番下士官ヲシテ裝蹄ノ手續ヲ爲サシム

三 教育ノ關係ヲ顧慮シ下士官、兵及馬四ノ勤務割ヲ爲ス

四 教育、人事、賞罰、休暇及馬四ニ關スル事務ニ服ス

五 公用證及外出證ノ保管出納ヲ掌リ退營ノ際之ヲ週番士官ニ依託ス

前項以外ノ特務曹長ハ中隊附將校ニ準シ教育訓練ニ任シ中隊諸般ノ業務ヲ分擔シ又下士官以下ノ人事、賞罰及休暇等ニ關スル意見ヲ上申ス

第四十九 曹長ノ内一名ハ命令ノ受領、傳達及經理事務兵器掛下士官ノ分ニ服シ尙所要ニ應シ擔スルモノヲ除ク

教育訓練ニ從事ス其ノ日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 會報ニ出席シ命令、通報等ヲ受領シ之ヲ傳達ス

二 金錢給與及營繕ニ關スル事務ニ服ス

三 被服、同雜品、同消耗品ノ監守並糧秣ニ關スル事務ノ發行ヲ除クニ服ス

四 練習用具、演習材料、陣營具、同雜品、事務用及演習用消耗品其ノ他内務班ニ屬セサル備付諸物品ノ監守ニ任ス

但シ練習用具及演習材料ノ一部若ハ全部ハ中隊長之ヲ兵器掛下士官ヲシテ監守セシムルコトヲ得

五 圖書文書ノ整理保管並訂正加除ヲ行フ

六 定例ニ依ル諸記録ノ記入及報告、通報等ノ調製其ノ他一般ノ庶務ニ服ス

前項以外ノ曹長ハ教育訓練ニ從事シ又所要ニ應シ前項業務ノ一部ヲ分擔ス

第五十 兵器掛下士官ハ武器、彈藥、器材、器

具、材料、兵器用物品及射擊ニ關スル事務ニ服ス

第五十一 内務班長ハ兵ヲ愛護シ相互ノ親和ヲ圖リ諸規定及上官ノ命令意圖ヲ班員ニ傳達普及セシメ且中隊長ノ旨ヲ奉シ自ら儀表ト爲リ班員ヲ誘掖指導シテ確實ニ内務ヲ實施セシムルヲ任トス又兵ノ身元、性質、行狀、技能、身心ノ狀態、交友關係及通信等個人ノ實情ヲ熟知シ其ノ勤惰ヲ監督シ人事、賞罰及休暇等ニ關スル事項ヲ上申ス

内務班長日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 點呼ノ際ハ週番士官臨場ノ下ニ班ノ人員並其ノ狀況ヲ検査ス又通常此ノ前後ニ於テ命令ヲ傳達ス

二 兵器、被服其ノ他給與品ノ支給、修理、交換及返納ニ關スル手續ヲ爲シ其ノ保存手入ヲ監督ス

三 火砲、車輛等ノ手入及馬四ノ飼方手入ヲ指導監視ス

四 班員ノ服裝ニ注意シ常ニ正シク著裝セシム

五 衛生ニ注意シ患者ヲ生シタルトキハ通常日朝點呼ノ際、病馬ヲ生シタルトキハ通常朝手入後週番下士官ニ通報ス

裝蹄ニ關シ特務曹長ニ意見ヲ具申ス

六 兵舍、厩、砲廠、車廠其ノ他班ニ屬スル場所ノ清潔整頓ヲ監視シ備付諸物品ノ監守ニ任ス

七 班内ノ火元取締ニ注意ス

第五十二 内務班附下士官ハ班長ヲ輔佐ス

第十章 命令下達

第五十三 命令ノ下達ハ迅速確實ニシテ遺漏過誤ナク其ノ趣旨ヲ貫徹セシムルヲ本旨トス是レ統率ノ要義ニシテ平時之ヲ能クスルモノニシテ初メテ戰時勿々ノ際尙其ノ完キヲ期シ得ヘシ故ニ各隊長ハ特ニ意ヲ用ヒ之カ普及徹底ヲ圖ルト共ニ軍隊ヲシテ此ノ良習ヲ増進セシムルニ勉メ

サルヘカラス  
第五十四 軍隊ニ關係アル法令並關係長官及其ノ他ヨリ受ケタル命令、訓示、講評、達、通報、注意等ヲ隊内ニ普及セシムルハ聯隊長ノ責任トス

第五十五 命令ヲ前條記載ノ總テ中簡單ニシテ輕易ナルモノハ之ヲ口達シ否サルモノハ筆記セシメ又ハ筆記シタルモノヲ交付ス而シテ隊長若ハ業務主任者自ラ傳達スルモノノ外第五十六ニ定ムル主任者之カ傳達ノ責任ヲ有ス  
命令ヲ受ケタル者ハ通常復唱スルモノトス

第五十六 命令傳達ノ主任者ハ聯、大隊本部ニ在リテハ當該副官、中隊ニ在リテハ曹長及内務班長トス此等ノ諸官不在若ハ差支アルトキノ代理ハ各隊長適宜之ヲ定ム但シ特ニ代理ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス  
第五十七 命令ノ傳達及隊内ニ於ケル通報、報

告ハ聯隊長ノ定ムル會報時ニ至急ヲ要スルモノニ行フヲ例トシ前條ノ主任者内務班長及會報事項ニ直接關係アル諸官之ニ參列ス  
聯隊長必要ト認ムルトキハ前項ノ外所要ノ將校ヲ集メテ自ラ會報ヲ行フ  
委員及其ノ他ノ者ニシテ其ノ主管事項ニ關シ中隊ノ主任將校、同下士官等ヲ集メ特ニ會報ヲ行フノ必要アルトキハ豫メ聯隊長ノ承認ヲ請クヘシ此ノ場合ニ在リテハ聯隊副官及大隊副官ノ立ヒヲ求メ若ハ傳達事項ノ要旨ヲ同官ニ通報スルモノトス

第五十八 聯隊外ヨリ受ケタル命令ハ索引ニ使ナラシムル爲要スレハ其ノ種類、番號、月日、官報ノ番號等ヲ併セ傳達スルモノトス  
第五十九 將校、同相當官、准士官、下士官、勤務上等兵ニ命令ヲ傳達スルニハ命令錄ニ就キ各自

ヲシテ閱讀セシムルヲ通常トス  
兵ニ命令ヲ傳達スルハ内務班長ノ責任ニシテ要旨ヲ摘ミ注意ヲ加ヘテ口達スルモノトス  
第六十 聯隊長ハ命令傳達ノ迅速ト確實トヲ期スル爲必要ト認ムルトキハ兵營ノ關係上醫務室、獸醫事務室、委員事務室等ニシテ本部ト離隔セル場所ニ限リ命令ノ下達ヲ概ネ中隊ノ規定ニ準セシムルコトヲ得

第十一章 兵營及室内裝置

第六十一 兵營内ノ建物ハ通常本部、兵舍、厩、砲廠、格納庫、車廠、彈藥庫、醫務室、獸醫事務室、工場、風紀衛兵所、營倉、面會所、酒保、集會所、倉庫、炊事場、浴場等ニ區分シ之ニ洗面洗濯所、理髮所、物干場、廁等ヲ附屬ス

第六十二 本部ハ通常之ヲ聯、大隊長室、聯、大隊本部事務室、委員事務室、佐尉官室、下士官居室、週番司令室、週番副官室、會報室、印刷所、講堂、應接室、商人控所、物置等ニ區分

第六十三 兵舍ハ中隊毎ニ區分シ通常之ヲ中隊長室、事務室、將校室、下士官室、兵室、豫備室、物置等ニ區分ス

第六十四 中隊事務室ハ特務曹長少尉候補、曹長少尉候補、分課下士官及週番下士官等ノ事務ヲ取扱フ所トス

第六十五 中隊將校室ハ中隊附將校、見習士官及少尉候補者ノ詰所ニシテ通常週番士官室ヲ兼ヌルモノトス

第六十六 中隊下士官室ハ成ルヘク事務室ト居室トニ分ツヘシ事務室ハ下士官少尉候補者、曹長及分課下士官ヲ除ク及伍長勤務上等兵ノ事務ヲ取扱フ所トシ居室ハ下士官ノ起居スル所ニシテ中隊長ノ許可スル物品ヲ備ヘ又ハ裝飾ヲ施スコトヲ得中隊長ハ兵指導上必要ト認ムルトキハ下士官ヲシテ適宜

兵室ニ起居セシムルコトヲ得  
 第六十七 醫務室ハ通常軍醫室、事務室、診察室、治療室、藥室、休養室、隔離室等ニ區分ス  
 醫務室衛戍病院若ハ同分院ト隣接セル場合ニハ藥室ヲ置カス當該衛戍病院若ハ同分院ニ於テ調劑スルコトヲ得  
 第六十八 獸醫事務室ハ通常獸醫室、事務室、診療所、藥室等ニ區分シ蹄鐵工場、病馬厩及隔離厩數隊共用ト爲ヲ附屬ス  
 離厩スコトヲ得  
 步兵聯隊、重砲兵聯(大)隊、工兵大隊及鐵道聯隊ニシテ乘馬部隊ト衛戍地ヲ異ニスルトキハ蹄鐵工場ヲ設クルモノトス  
 第六十九 見習士官、士官候補生ニハ別室ヲ與ヘ曹長及服役六年以上ノ下士官若ハ聯隊長ノ規定セル下士官ニハ各自一室ヲ使用セシムルコトヲ得又甲種幹部候補生、短期現役兵ハ成ルヘク別室ニ集メ且所要ニ應シ内務班ヲ設ク  
 第七十 聯隊長ハ兵營ノ關係之ヲ許セハ將校同

相當官ニ營内居住ヲ許可スルコトヲ得  
 第七十一 聯隊長ハ營内ニ樹木花卉ヲ植エ銃架等ヲ設ケ遊戯場又ハ菜園ヲ設クルコトヲ得  
 第七十二 土地及建造物ノ保存ニ關スル規定ハ聯隊長之ヲ定ムヘシ  
 第七十三 建物及各室ニハ標札ヲ掲ケ寢臺、手箱、銃架等ニハ氏名札ヲ貼附スヘシ  
 第七十四 各室、厩、砲廠、格納庫、車廠、彈藥庫、倉庫、物置、工場等ニハ備付物品及貯藏物品ノ品目員數表ヲ揭示又ハ備付クヘシ  
 第七十五 下士官以下ヲシテ各自ニ保管セシムル兵器、被服等ノ員數及裝置法ハ其ノ保存、使用時期及兵舍特ニ物置ノ構造ヲ顧慮シ聯隊長之ヲ規定スヘシ  
 第七十六 機、祕密圖書文書ノ容器ニハ各異ノ鑰ヲ用ヒ其ノ他ニ在リテモ勉メテ各異ノ鑰ヲ附シ合鍵ヲ以テ開閉シ得サル如ク注意スヘシ  
 第七十七 建物ノ構造上本章ノ規定ヲ適用シ難キモノハ聯隊長ニ於テ適宜本章ノ規定ニ斟酌ヲ

加フルコトヲ得

第十二章 委員

第七十八 聯隊ニ左ノ委員ヲ置ク  
 兵器委員 首座佐官(大尉)  
 委員士官若干名  
 經理委員 首座佐官(大尉)  
 委員士官若干名  
 主計ハ全員トス  
 酒保委員 首座佐官(大尉)  
 委員士官若干名  
 將校集會所委員 首座佐官(大尉)  
 委員士官若干名  
 准士官下士官集會所委員 首座准士官  
 委員准士官下士官若干名  
 共有金保管委員 首座佐官(大尉)  
 首座之ヲ兼ヌ  
 經理委員 委員主計一名

文庫委員 首座佐官(大尉) 委員士官一名

以上各委員ニハ助手トシテ准士官、下士官若干名ヲ附スルコトヲ得又委員ニハ要スレハ上長官、准士官ヲ、助手ニハ上等兵ヲ充ツルコトヲ得准士官下士官集會所ニハ委員ノ外特ニ監督將校一名ヲ置ク  
 第七十九 委員首座ハ當該隊長ノ意圖ヲ奉シ委員以下ヲ指揮シ擔任業務ヲ適切整正ナラシムルノ責ニ任ス  
 委員以下ノ業務ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ委員首座之ヲ規定スヘシ  
 第八十 兵器委員ハ兵器及兵器費ノ支辨ニ屬スル物品ノ檢査、保管出納、經理ヲ除ク並工場ノ監視ニ任シ兵器業務ニ任スル諸工長ノ教育ヲ掌リ工務兵、同修業者ノ教育ヲ監督ス  
 又材料廠ヲ有スル部隊ニ在リテハ聯隊長ハ前項業務ノ一部若ハ大部ヲ材料廠ニ屬スル將校ニ分

擔セシムルモノトス  
 聯隊長ハ必要ニ應シ兵器委員ヲシテ練習用具及  
 演習費ノ支辨ニ屬スル物品ニ係ル業務ヲ掌ラシ  
 ムルコトヲ得  
 第八十一 經理委員ハ諸給與ノ計畫及實施、被  
 服、糧秣、陣營具、練習用具、消耗品其ノ他ノ  
 調辨、検査、保管出納 他ノ委員ノ擔任スル檢  
 金櫃、營繕、炊事、給飼及工場ノ監視、裝蹄剔  
 毛ニ關スル經理ニ任シ炊事掛下士官及縫靴工長  
 ノ教育ヲ掌リ縫、靴工兵、同修業者及炊事專務  
 兵ノ教育ヲ監督ス  
 第八十二 酒保委員ハ酒保ニ係ル業務ニ任ス但  
 シ金錢賣上當日ノ、有價證券ノ保管出納ニ係ル  
 業務ヲ除ク  
 物品ノ調辨ハ首座ノ購入命令若ハ其ノ契約ニ依  
 リ取扱フモノトス  
 第八十三 將校集會所委員ハ當該集會所ニ係ル

業務ニ任ス但シ金錢、有價證券ノ保管出納ニ係  
 ル業務ヲ除ク  
 第八十四 准士官下士官集會所委員ハ監督將校  
 ノ指導ノ下ニ當該集會所ニ係ル業務ニ任ス但シ  
 金錢、有價證券ノ保管出納ニ係ル業務ヲ除ク  
 監督將校ハ聯隊長ノ意圖ヲ奉シ准士官下士官集  
 會所ノ業務ヲ監督ス  
 第八十五 共有金保管委員ハ酒保、將校集會所  
 及准士官下士官集會所ニ屬スル金錢 酒保ニ於ケ  
 ノモノ、有價證券ノ保管出納ニ任シ其ノ出納命  
 令ハ聯隊長之ヲ發スヘシ但シ日常ノ出納ニ係ル  
 命令ハ之ヲ委員首座ニ委任スルコトヲ得  
 第八十六 文庫委員ハ文庫圖書ノ整備保管ニ任  
 ス  
 第八十七 委員首座ハ所屬委員若ハ助手中事故  
 者アルトキハ他ノ委員若ハ助手ヲシテ之ヲ代理  
 セシムルコトヲ得

第十三章 工場及倉庫

第八十八 工場及倉庫ハ關係主任者之ヲ管理ス  
 主任者ハ一般ノ取締ニ任シ作業用材料及備付諸  
 物品ノ監守ヲ監督ス又聯隊長ノ認可ヲ請ケ當該  
 工場及倉庫ニ關係アル諸官以下ノ業務ヲ規定ス  
 第八十九 工場及倉庫ニ在リテ勤務スヘキ人員  
 及其ノ勤務日時ハ別ニ定ムル所ノ外聯隊長之ヲ  
 規定スヘシ  
 第九十 劇毒藥ハ鎗アル容器ニ收容シ其ノ鍵ハ  
 關係主任者ノ定ムル者之ヲ保管シ退營ノ際風紀  
 衛兵司令ニ預ケ工場及倉庫ノ鍵ハ閉鎖後工長若  
 ハ關係下士官之ヲ風紀衛兵司令ニ預ケ置クヘシ  
 又工長若ハ關係下士官ハ火元取締ニ注意シ閉鎖  
 ノ際火氣ノ消滅ヲ確ムヘシ  
 第九十一 工場内ニ於テハ私ニ他人ノ依頼ヲ受  
 ケ諸物品ヲ製作又ハ修理スルコトヲ許サス又火  
 藥、火具、輕油及爆發若ハ發火シ易キ藥品等ヲ  
 取扱フ場所ニハ何人ト雖「マツチ」其ノ他發火ノ

誘因トナル虞アルモノヲ携フヘカラス

第九十二 工場及倉庫内ノ規定ハ聯隊長ノ認可  
 ヲ請ケ關係主任者之ヲ定ムヘシ

第十四章 週番勤務

第九十三 週番諸官ハ所屬週番勤務者ヲ指揮シ  
 軍紀風紀ノ維持諸法則ノ實施如何ヲ監視シ以テ  
 營内ノ取締ニ任シ且營内 當該部隊ニ屬スル兵營  
 ヲ含ニ於ケル火災、盜難ノ豫防及消防ノ責ニ任  
 ス  
 週番士官ハ特ニ中隊長ノ旨ヲ奉シ中隊内務ノ監  
 督指導ニ任スルモノトス  
 週番諸官ハ主任者不在ノトキハ庶務ノ受理ニ任  
 シ恆例外ノ事項ニシテ急ヲ要スルモノアルトキ  
 ハ勤務上ノ直上上官ノ指示ヲ請クルモノトス  
 第九十四 週番勤務者ヲ分チテ週番司令、週番  
 副官、週番士官、週番下士官、週番上等兵、厩  
 週番上等兵トス

日直看護長（日直看護兵）週番看護兵、不寢番、概當番モ亦週番勤務者ニ準ス

週番勤務者ハ特ニ規定アルモノノ外二種ノ週番勤務ニ服スルコトヲ得ス

第九十五 週番司令 週番司令ヲ設ケサル部隊ノ週番副官ハ聯隊長、聯、大隊本部週番下士官ハ當該副官、日直看護長（日直看護兵）及週番看護兵ハ高級軍醫、徒歩部隊ニ於ケル既週番上等兵及同當番歩兵聯隊機關銃隊ノ既週ハ聯隊長ノ指定スル將校、其ノ他ノ週番勤務者ハ中隊長之ヲ命ス

週番勤務ハ通常土曜日正午ニ始リ翌週土曜日正午ニ終ルモノトス

時宜ニ依リ聯隊長ハ週番勤務ヲ日直ト爲スコトヲ得

第九十六 週番司令、週番副官、中隊週番下士官、週番上等兵リテハ一名、既週番上等兵ハ

通常勤務、演習ヲ免シ主トシテ週番ノ勤務ニ服セシメ週番士官ニハ日常ノ勤務、演習ヲモ行ハシムルヲ例トス但シ週番士官ニ在リテハ週番勤務上必要ト認ムルトキハ中隊長ニ於テ之ヲ免スルモノトス

第九十七 週番諸官ハ總テ營内ニ宿直シ定位ニ在ルヲ本則トス若シ定位ヲ離ルルトキハ其ノ所在又ハ經路ヲ明ニシ置クヘシ

週番勤務者公務ノ爲營外ニ出ツルヲ要スルトキハ週番司令ハ聯隊長ノ、其ノ他ノ者ハ週番勤務上ノ直上上官ノ許可ヲ請クヘシ此ノ場合ニ於テ代理ヲ要スルトキハ外出ヲ許可シタル者之ヲ週番勤務ヲ命シタル上官ニ請求スルモノトス但シ週番士官ニ在リテハ勤務、演習ノ爲營外ニ出テントスルトキハ週番司令ニ届出テ且不在間ニ於ケル週番勤務上所要ノ處置ヲ講スルモノトス

週番勤務者私用ノ爲營外ニ出ツルヲ要スルトキハ週番勤務ヲ命シタル上官ノ許可ヲ請ケ新ニ命セラレタル代理者ト共ニ勤務上ノ直上上官ニ届

告スヘシ

第九十八 週番勤務者交代ヲ終レハ上番者ハ週番勤務ヲ命シタル上官勤務上ノ直上上直ニ報告スヘシ

第九十九 週番司令ハ中隊數二以上ノ部隊ニ之ヲ置キ大尉 聯隊副官ヲ除キ上級職及一名之ニ服シ週番司令室ヲ定位トス

聯隊長ハ前項ノ勤務ニ服セシムヘキ人員三名以下ナルトキハ四名ニ滿ツル迄先任中尉ヲ以テ週番司令ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得

第一百 週番司令ハ週番勤務ヲ統轄シ風紀衛兵、營倉及消防隊ヲ管轄ス

週番司令ハ緊急ヲ要スル事項ニシテ聯隊長ノ指示ヲ請クル暇ナキトキハ自ラ之ヲ處斷シ聯隊長ニ報告スヘシ

週番司令ヲ設ケサル部隊ニ在リテハ週番士官ハ週番司令ノ勤務ヲ兼ヌルモノトス

週番司令日常ノ業務概ネ左ノ如シ

- 一 自ラ營内ヲ巡察シ又風紀衛兵及週番諸官ニ巡察ヲ命ス
- 二 諸衛兵及衛戍傳令等ニ服スル人馬ノ數及其ノ軍裝ヲ検査シ必要ノ訓示ヲ與フ
- 三 休日ニ於テ營内居住者多數外出シタルトキ要スレハ週番士官及週番副官ニ營外巡察ヲ命ス
- 四 取締上必要ト認ムルトキハ臨時點呼ヲ行フ
- 五 氣候ノ關係上要スレハ營内居住者及風紀衛兵ノ服裝ヲ臨時規定ス
- 六 營内ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得但シ中隊内部ノ參觀ハ先ツ當該中隊長 不在ノトキハ在ノ承認ヲ請クルヲ要ス
- 七 聯隊副官退營後公務運賃割引證、下士官兵旅客運賃割引證、乗船證ヲ請求スル者アルトキハ自ラ發行擔任官ト爲リ之ヲ交付ス
- 八 聯、大隊副官不在ノトキハ必要ニ應シテ

公用證、外出證ヲ交付ス  
 九 火災、非常其ノ他必要アルトキハ風紀衛兵ノ人員及哨所ノ數ヲ增加ス  
 十 犯罪、盜難、物品ノ紛失及拾得等ニ關シ要スレハ憲兵隊、警察署等ト連絡ス  
 十一 營内出火、近火等ノトキ要スレハ火災ノ號音ヲ吹奏セシム  
 十二 毎月第一回上番ノ週番司令ハ消防演習ヲ行フ  
 第一百 週番副官ハ中隊數二以上ノ部隊ニ之ヲ置キ曹長 聯隊本部書記及材 一名之ニ服シ週番副官室ヲ定位トス  
 聯隊長ハ前項ノ勤務ニ服セシムヘキ人員三名以下ナルトキハ四名ニ滿ツル迄聯隊本部書記タル曹長及材料廠本部附タル曹長ヲ以テ週番副官ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得  
 第一百二 週番副官ハ週番司令ノ指揮ヲ承ケ同官ヲ輔佐シテ細務ニ從事ス

週番副官日常ノ業務概ネ左ノ如シ  
 一 上番衛兵集合セハ之ヲ指揮シテ週番司令ノ檢査ヲ受ケシム此ノ際衛兵司令週番副官ヨリ上級先任ナルトキハ列外ニ在ルモノトス  
 二 風紀衛兵所及哨所ヲ巡察シ其ノ勤務ヲ監督ス  
 三 聯、大隊本部、醫務室、獸醫事務室、炊事場、工場、彈藥庫、倉庫、營倉、面會所、酒保、集會所、馬繫場、厩、步兵聯隊及乘馬中隊ニ屬セサル場所ヲ巡察ス  
 四 時々聯、大隊本部、醫務室、獸醫事務室、炊事場、營倉、酒保、集會所、厩、步兵聯隊除ク等中隊ニ屬セサル場所ノ日朝、日夕點呼ニ立會ヒ又臨時點呼ノ際ハ此等全部ノ人員檢査ニ立會ヒ其ノ結果ヲ週番司令ニ報告ス

五 消防具ヲ監守ス  
 六 營倉入ノ者ヲ營倉留置ノ出入ヲ承知シ風紀衛兵司令ヲシテ其ノ受渡ヲ爲サシメ週番司令ニ報告ス  
 七 風紀衛兵ヨリ提出スル物品持出證ヲ發行者ニ返却ス  
 八 臨時延燈許可ノ通報ヲ受クレハ風紀衛兵司令ニ通報シ週番司令ニ報告ス  
 第一百三 週番士官ハ中隊毎ニ中隊附中、少尉士官勤務ニ服スル見習士官及特務曹長 上級職ノ曹長及少尉候補者ヲ含ム 及特務曹長ヲ含ム以下同シヲ通シ一名之ニ服シ將校室 少尉候補者以外ノトキハ中ヲ以テ定位トス  
 聯隊長ハ前項ノ勤務ニ服セシムヘキ人員三名本務要員ヲ禁闕守衛ノ衛兵又ハ衛戍衛兵ニ派遣スル部隊ニ在リテハ勤務ノ狀況ニヨリ四名

以下ナルトキハ勤務ノ狀況ヲ顧慮シ第一百十七ヲ準用シテ週番勤務ヲ律スルコトヲ得  
 第一百四 週番士官ハ週番司令ノ指揮ヲ承ケ且中隊長ノ指示ニ基キ週番下士官以下ヲ指揮シテ其ノ職務ヲ執行ス  
 週番士官日常ノ業務概ネ左ノ如シ  
 一 人馬ノ員數及狀況ヲ承知シ患者、病馬アルトキハ受診ノ手續ヲ爲サシム若シ軍醫、獸醫退營後受診ヲ必要ト認ムルトキハ當直軍醫又ハ當直獸醫ニ通報シ且週番司令ニ報告ス  
 二 兵舍、厩、砲廠、格納庫、車廠等ヲ巡察シ又週番下士官以下ニ巡察ヲ命ス  
 夜間ハ特ニ火災豫防ニ注意シ夜間勤務ニ服スル者ノ勤惰ヲ監視ス  
 三 點呼ノ際ハ週番下士官ヲ隨ヘ中隊ノ人員ヲ檢査シ其ノ結果ヲ週番司令ニ報告ス  
 四 必要ト認ムルトキハ中隊ノ臨時點呼ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ直ニ週番司令



令ニ報告ス

五 脱營者、歸營遅刻者其ノ他犯行者アリタルトキハ臨機ノ處置ヲ爲シ速ニ中隊長及週番司令ニ報告ス

六 物品ノ盜難、紛失及拾得等アリタルトキハ臨機ノ處置ヲ爲シ週番司令ニ報告ス但シ輕微ノ事項ハ報告スルニ及ハス

七 特務曹長不在ノトキハ公用證、外出證ヲ保管シ必要ニ應シ之ヲ交付ス

以上ノ外勉メテ下士官以下ニ親炙シ起居ノ間中隊内務ノ向上ヲ圖ルモノトス

第一百五 週番下士官ハ聯、大隊本部ニ在リテハ各本部毎ニ本部附下士官 炊事掛下士官、衛生部ヲ通シテ一名、中隊ニ在リテハ軍曹、伍長 伍長ヲ含ムヲ通シテ一名之ニ服シ通常所屬ノ本部事務室書記以外ノ者ニ在リテハ其ノ所屬若ハ中隊事務室ニ在リテ服務スルコトヲ得

事務室ヲ定位トス

聯隊長ハ各本部ノ位置近接シアル場合及週番下士官ノ勤務ニ服スル本部ノ人員三名以下ナルトキハ二箇以上ノ本部ヲ通シテ一名ノ週番下士官ヲ置キ尙三名以下ナルトキハ日直勤務ト爲スコトヲ得

第一百六 聯、大隊本部週番下士官ハ週番司令ノ指揮ヲ承ケ且聯、大隊副官ノ指示ニ基キ其ノ職務ヲ執行ス

聯、大隊本部週番下士官日常ノ業務ハ中隊週番下士官ノ爲規定シタルモノニ準ス但シ點呼ノ際ハ各室ノ上級先任者ヨリ檢査ノ結果ヲ承知シ之ヲ週番司令ニ報告ス又臨時點呼ノ際ハ週番副官ノ立會ヒテ受クルモノトス

第一百七 中隊週番下士官ハ週番士官ノ指揮ヲ承ケ其ノ職務ヲ執行ス

中隊週番下士官日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 人馬ノ員數及狀況ヲ承知シ兵舍、厩、砲廠、格納庫、車廠等ヲ巡察ス

二 夜間ハ特ニ火災豫防ニ注意シ消燈後ハ必ス火氣ノ消滅ヲ確メ不寢番及厩當番 隊及乘馬部隊ノ勤務ヲ監督ス

三 患者アルトキハ自ラ之ヲ率キテ診斷ヲ受ケシメ患者名簿ニ所要ノ記入ヲ爲シ軍醫ノ認印ヲ受ケ又病馬アルトキハ病馬名簿ニ其ノ馬名ヲ記入シ厩週番上等兵ヲシテ受診ノ手續ヲ爲サシメ共ニ其ノ結果ヲ中隊長、週番士官、特務曹長、曹長及内務班長ニ報告又ハ通報ス

入(退)院、入(退)厩人馬アルトキハ週番上等兵又ハ厩週番上等兵等ヲシテ其ノ處置ヲ爲サシム

四 點呼ノ際ハ週番士官ニ隨行ス

時々厩ノ日朝、日夕點呼ニ立會フ

五 公用證、外出證ノ必要アルトキハ特務曹長不在ノトキヨリ受領シ公用證ニ在リテハ

本人ニ、外出證ニ在リテハ内務班長ニ之ヲ交付ス

六 日々演習ニ出場スル人馬數ヲ調査シ演習開始前中隊長、關係將校及特務曹長ニ報告ス

七 上番衛兵ノ軍裝ヲ檢査シ之ヲ集合所ニ引率ス但シ衛兵司令週番下士官ヨリ上級先任ナルトキハ同官ハ直ニ集合所ニ至ルモノトス又週番下士官ノ軍裝ハ上番衛兵ニ同シ唯背囊(外套)ヲ負ハサルヲ異ナリトス

八 炊事準備ノ爲週番士官ノ認印ヲ得タル食需傳票ヲ適時炊事掛下士官ニ送付ス

外出スル下士官以下ニシテ兵營ニ歸リ食料ヲ支給ヲ受クヘキ者ノ官等級氏名ヲ調査シ不食料ニ在リテハ曹長ニ其ノ他ハ炊事掛下士官ニ通報ス

九 週番士官ノ認印ヲ得タル給飼傳票ヲ經理委員ニ送付シ馬糧ヲ受領シ厩週番上等兵ヲ

シテ之ヲ分配セシム

十 特務曹長ヨリ裝蹄手續ヲ命セラレタルトキハ裝蹄請求簿ニ所要ノ記入ヲナシ概週番上等兵ヲシテ裝蹄ヲ受ケシメ其ノ結果ヲ中隊長、週番士官及特務曹長ニ報告ス

十一 臨時延燈ヲ許可セラレタルトキハ週番士官ノ閱ヲ經テ週番副官ニ通報ス

十二 脱營者、歸營遲刻者其ノ他ノ犯行者アリタルトキ及物品ノ盜難、紛失、拾得等アリタルトキハ週番士官ニ報告ス

十三 營内居住者多數外出シタルトキハ歸營時限ニ於テ異狀ノ有無ヲ週番士官ニ報告ス

十四 營倉入ノ者アルトキハ週番副官ニ通報シ其ノ服裝及所持品等ヲ検査シタル上罰目、日數、隊號、等級、氏名ヲ記シタル覺紙ト共ニ風紀衛兵司令ニ引渡シ又營倉ヨリ出ツル者アルトキハ之ヲ同司令ヨリ受領ス

十五 面會人アルコトヲ風紀衛兵ヨリ通知シ

來ルトキハ下士官以上ニ在リテハ直接本人ニ、兵ニ在リテハ通常特務曹長不在ナルトキハ報告シ所要ノ指示ヲ承ケ速ニ本人ニ傳達シ若シ本人不在ナルトキハ其ノ行先及豫定ノ歸營時刻ヲ風紀衛兵ニ通報ス

十六 甲種幹部候補生、短期現役兵、下士官候補者、特業者、同修業者、工務兵、同修業者等ニシテ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ出場シ能ハサル者アルトキハ之ヲ教官又ハ主任工長等ニ通報ス

十七 前各號ノ外週番勤務上必要ナル事項ハ其ノ都度週番士官ニ報告ス

第一百八 週番上等兵ハ中隊ノ上等兵伍長勤務上二名 步兵聯隊機關銃隊、裝甲自動車隊、乘馬部之ニ服シ所屬中隊ノ事務室若ハ居室ヲ定位トス

第一百九 週番上等兵ハ週番下士官ノ指揮ヲ承ケ

火災、盜難ノ豫防、兵舎内外ノ清潔其ノ他ノ細務ニ從事ス

週番上等兵日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 兵舎ノ内外ヲ巡察シテ諸物品ノ保存、整頓、掃除ノ良否及火災、盜難ノ豫防ニ注意シ日夕點呼後ハ特ニ各室ヲ巡察シ火鉢、燧爐等ノ消火ヲ點檢シ週番下士官ノ検査ヲ受ク

二 食事分配ノトキハ豫メ食事數ヲ週番下士官ヨリ承知シ定時所要ノ當番ヲ率キテ食事ヲ受領シ之ヲ各班ニ分配シ食事終レハ食器ヲ集メテ炊事掛下士官ニ返納ス

三 毎日當番ヲ集メテ内務班ニ屬セサル區域ヲ掃除セシメ以テ兵舎内外ノ清潔ヲ保チ又掃除器具ノ保存ニ任ス

四 營倉入ノ者ニ食事、寢具等ヲ差入ルルトキハ検査ノ上風紀衛兵衛舎掛ニ引渡シ用済後ハ之ヲ衛舎掛ヨリ受領ス

五 入(退)院及入(退)室患者アルトキハ軍醫

及週番下士官ノ指示ヲ承ケ所要ノ處置ヲ爲ス

第一百十 既週番上等兵ハ步兵聯隊機關銃隊及乘馬部隊ノ各中隊毎ニ上等兵伍長勤務上一名之ニ服シ既ノ定位トス

徒歩部隊ヲ除クニ在リテハ前項ニ準シ聯隊ニ既週番上等兵ヲ置クコトヲ得

第一百十一 既週番上等兵ハ週番下士官ノ指揮ヲ承ケ既ノ取締ニ任ス

既週番上等兵日常ノ業務概ネ左ノ如シ

一 既ノ内外ヲ巡察シ既當番ノ勤務ヲ監視シ中隊共用ノ物品ヲ監守シ火災豫防、馬匹ノ状態、窓戸ノ開閉、寢具等ニ注意シ診斷又ハ裝蹄ヲ要スル馬匹アルトキハ内務班長ニ通報ス

二 日朝、日夕點呼ノ際ハ既當番ノ人員ヲ検査シ異狀ノ有無ヲ週番下士官ニ報告ス

臨時點呼ノ際ハ週番士官臨場ノ下ニ人員ヲ  
 檢査ス  
 三 週番下士官ヨリ馬糧ヲ受領シ每飼之ヲ各  
 馬又ハ内務班ニ分配シ又水與ノ準備ヲ爲ス  
 四 病馬名簿ヲ週番下士官ヨリ受取リ定時限  
 ニ於テ病馬ノ診療ヲ受ケシメ病馬名簿ニ所  
 要ノ記入ヲ爲シ獸醫ノ認印ヲ受ケ週番下士  
 官ニ差出ス又病馬既、隔離既ニ入り若ハ之  
 ヨリ出ツルモノアルトキハ獸醫及週番下士  
 官ノ指示ヲ承ケ所要ノ處置ヲ爲ス  
 五 裝蹄請求簿ヲ週番下士官ヨリ受取リ所要  
 ノ當番ヲ指揮シテ裝蹄ヲ受ケシメ蹄鐵工長  
 ヨリ裝蹄請求簿ニ所要ノ記入ヲ受ケ週番下  
 士官ニ差出ス  
 徒歩部隊ヲ除ク  
 徒歩部隊ヲ除ク  
 官ノ指揮ヲ承ク其ノ勤務ハ本條ニ準ス  
 第一百十二 日直看護長(日直看護兵)ハ各部隊立

中隊ヲ毎ニ看護長、上等看護兵ヲ通シテ一名之  
 除ク  
 ニ服シ醫務室ノ事務室ヲ定位トス  
 聯隊長ハ前項ノ外上等看護兵一名ヲ週番看護兵  
 ト爲シ日直看護長(日直看護兵)ノ指揮ヲ承ケ其  
 ノ勤務ヲ補助セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ  
 前項ニ服スヘキ者ト本項ノ勤務ニ服スヘキ者ト  
 ノ區分ハ聯隊長之ヲ定ム  
 第一百十三 日直看護長(日直看護兵)ハ週番司令  
 ノ指揮ヲ承ケ且高級軍醫及當直軍醫ノ指示ニ基  
 キ一般任務ノ外隊内ノ衛生ニ注意ス  
 日直看護長(日直看護兵)日常ノ業務概ネ左ノ如  
 一 醫務室内外ヲ巡視シ要スレハ週番看護兵  
 ニ巡察ヲ命ス  
 二 夜間ハ特ニ火災豫防ニ注意シ消燈後ハ必  
 ス火氣ノ消滅ヲ確ム  
 三 炊事場、浴場、酒保、厠等ヲ巡察シ衛生  
 上諸規定ノ履行ニ注意シ其ノ狀況ヲ週番司

令及軍醫ニ報告ス  
 四 諸官退營後ハ入室患者ノ看護及患者ノ救  
 急處置ヲ行ヒ急病又ハ重症患者アルトキハ  
 當直軍醫來診マテ應急ノ處置ヲ爲ス  
 五 日朝、日夕點呼ノ際ハ人員ヲ檢査シ其ノ  
 結果ヲ週番司令ニ報告ス臨時點呼ノ際ハ週  
 番副官ノ立會ヒヲ待テ人員ヲ檢査ス  
 六 規定以外ノ時期ニ休養室、診斷室等ニ暖  
 室ノ處置ヲ爲シタルトキ及臨時延燈ヲ許可  
 セラレタルトキハ週番副官ニ通報ス  
 七 藥室ノ鍵ヲ保管シ掃除器具ヲ監守ス  
 第一百十四 不寢番ハ通常日夕點呼後ヨリ翌朝  
 床時限迄中隊要スレ毎ニ之ヲ設ケ週番下士官ノ  
 指揮ヲ承ケ主トシテ火災、盜難ノ豫防及衛生ニ  
 注意スルヲ任トス其ノ實施ニ關シテハ聯隊長之  
 ヲ規定スヘシ  
 第一百十五 既當番ハ通常歩兵聯隊機關銃隊及乘  
 馬部隊ノ各中隊毎ニ之ヲ設ケ既週番上等兵ノ指

揮ヲ承ケ馬匹ノ保護、厩内外ノ清潔及火災、盜  
 難ノ豫防ニ任ス其ノ實施ニ關シテハ聯隊長之ヲ  
 規定スヘシ  
 徒歩部隊ヲ除ク  
 徒歩部隊ヲ除ク  
 官ノ指揮ヲ承ク其ノ勤務ハ本條ニ準ス  
 第一百十六 聯隊長ハ必要ニ應シ本章ノ規定ニ準  
 シテ材料廠工場等ニ週番又ハ日直勤務者ヲ置ク  
 コトヲ得  
 第一百十七 聯隊長ハ編制其ノ他ノ關係ニヨリ本  
 章ノ規定ニ據リ難キ場合ニ在リテハ本章ノ規定  
 ニ準シテ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得但シ此ノ  
 場合通常師團長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官  
 ノ認可ヲ請クルモノトス  
 第一百十八 日直勤務ニ付テハ特ニ規定アルモノ  
 ノ外週番勤務ノ規定ヲ準用ス

第十五章 火災豫防、消防及非常呼集

第百十九 火災ハ多クハ懈怠過失ヨリ生スルモノナルヲ以テ上下一致全幅ノ注意ヲ以テ其ノ危害ヲ未然ニ豫防セサルヘカラス

第百二十 火災豫防ハ週番諸官ノ任スルトコロナリト雖火元取締者亦火氣ノ使用ニ付其ノ責ニ任スルモノトス

第百二十一 火氣使刀者ハ使用終リタルトキハ其ノ始末ヲ爲シ確實ニ火氣ヲ消滅スヘシ

第百二十二 營内ニ於テハ所定ノ場所以外ニ於テ喫烟スルヲ禁ス又彈藥庫、脂油庫、砲廠、格納庫、車廠及薪炭ノ格納所等爆發若ハ發火シ易キ物品アル場所ノ内外ニ於テハ一切火氣竝發火ノ誘因トナル虞アルモノヲ使用スヘカラス

第百二十三 彈藥其ノ他爆發若ハ發火ノ虞アルモノヲ舍内ニ置クヘカラス已ムヲ得サルトキハ彈藥ニ限り封鎖ノ上一時風紀衛兵司令ノ監視ニ託スルコトヲ得

第百二十四 煙突ノ裝置ニハ火氣ノ漏レサルコトニ注意シ鐵板煙突ハ每週、其ノ他ノ煙突ハ毎月少クモ一回責任者監視ノ下ニ掃除スルモノトス

第百二十五 電氣、瓦斯、蒸氣機關及暖房ノ裝置、機能等ニハ常ニ注意ヲ怠ラス且毎年少クモ一回技術者ヲシテ検査セシムルモノトス

第百二十六 營内緊要ノ場所ニハ輕便消火器若ハ消火水桶ヲ備ヘ常ニ一定ノ位置ニ置キ又兵ヲシテ輕便消火器、水道消火栓並電路(瓦斯)開閉器等ノ位置及其ノ使用法ヲ熟知セシムヘシ

第百二十七 火災報知ノ電話ヲ取扱フ地方ニ在リテハ其ノ通話法ヲ必要ノ兵ニ熟知セシメ置クヘシ

第百二十八 彈藥庫ノ傍ニハ目塗土及梯子ヲ、脂油庫及發火シ易キ油ヲ使用スル建物ノ傍ニ消火用土砂等ヲ備ヘ置クヘシ

第百二十九 聯隊長ハ消防具及用水ノ狀況ヲ顧慮シ消防隊ヲ編成シ置クヘシ

第百三十 營内出火、近火等ニシテ急ヲ要スル場合ニ限り將校、週番士官タル特務曹長及週番

副官ハ自ら其ノ責ニ任シ火災ノ號音ヲ吹奏セシムルコトヲ得

第百三十一 出火ノ際ニ於ケル處置ハ其ノ場ニ現在スル者臨機ノ處置ニ依リ遺策ナキヲ期スルヲ本旨トス然レトモ一般ノ場合ニ於ケル動作ヲ示スコト概ネ左ノ如シ

一 營内ノ出火ヲ知リタル者ハ各所ニ備付アル成ルヘク多數ノ輕便消火器等ヲ使用シテ防火ニ從事ス

二 火災ノ號音アルトキハ各本部、中隊等ハ速ニ命令受領者ヲ週番司令ノ許ニ出ス

三 軍旗、御眞影、勅諭等ニ延燒スルノ虞アリテ上官ノ指示ヲ待ツ違ナキトキハ當該歩哨ハ勿論其ノ附近ニ居合ス者ハ之ヲ他ニ奉移シ之カ警護ニ任ス

四 機密圖書ニハ特ニ監視者ヲ附シ其ノ散逸ヲ防クモノトス

五 旣ニ延燒ノ虞アルトキハ馬四ヲ安全ノ地ニ牽出シ然ル後馬具、旣具ヲ持出スヘシ事

急ニシテ之ヲ牽出ス違ナキトキハ寢張網又ハ頭絡ヲ解キ或ハ之ヲ切リテ馬四ヲ救出ス但シ成ルヘク營外ニ出サルコトヲ勉ム

六 必要ノ營外居住者ニハ週番諸官ヨリ急報ス

第百三十二 兵營、官衙、學校、公署、將校以下ノ家宅及其ノ附近ニ火災アルトキハ聯隊長在ナルトキハハ救援ノ爲必要ノ人員要スレハ消防週番司令ハ救護ノ爲必要ノ人員要スレハ消防派遣スルコトヲ得

第百三十三 水災、風災、震災等ノ場合ニハ概ネ本章ニ準シ適宜處置スルモノトス

第百三十四 非常ノ際ハ現在スル上級先任者ノ機宜ノ處置ニ任シ遺策ナキヲ期スルコト勿論ナリト雖概ネ火災ノ爲定メタル諸件ヲ準用スヘシ

第百三十五 非常呼集ヲ要スルトキハ聯隊長若ハ現在スル上級先任者ハ非常ノ號音ヲ吹奏セシムヘシ此ノ號音ニテ下士官以下携帶兵器ヲ携ヘ

令前ニ整列スルモノトス但シ兵舎、砲廠、格納庫、車廠、兵器庫等ニハ必要ノ監視者ヲ配置スルモノトス  
非常ノ號音アルトキハ各本部、中隊等ハ速ニ命令受領者ヲ聯隊本部ニ出スヘシ  
時宜ニヨリ非常號音ヲ吹奏セスシテ非常呼集ヲ實施ス  
第三百三十六 非常呼集ノ際週番諸官ハ特ニ營内ノ警戒、取締及火災豫防ニ注意スヘシ  
第三百三十七 非常ノ際各部隊ハ衛戍司令官ノ許ニ命令受領者ヲ出スヘシ  
第三百三十八 本章ニ規定スルモノノ外火災豫防、其ノ他危害豫防ニ關シ必要ノ事項ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

第十六章 風紀衛兵

第三百三十九 風紀衛兵ハ兵營毎ニ之ヲ設ケ週番司令ノ指揮ニ屬シ營内當該部隊ニ屬スル兵營附近ノ建造物及諸物件ヲ含

ムノ取締並警戒ニ任シ營門出入ノ者ヲ監視スルヲ以テ任トス  
第四百十 風紀衛兵服務ノ爲ニハ本章ニ規定スルモノノ外衛戍衛兵ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス  
第四百十一 風紀衛兵ハ司令、衛舍掛、步哨掛、步哨及喇叭手ヨリ成リ其ノ哨所ハ通常軍旗、營門、營倉、彈藥庫トス  
第四百十二 風紀衛兵司令ハ通常下士官ヲ以テ、衛舍掛及步哨掛ハ上等兵ヲ以テ之ニ任ス但シ衛舍掛ヲシテ一時步哨掛ノ勤務ヲ執ラシメ又衛兵ノ人員少キトキハ上等兵一名ヲシテ此ノ兩勤務ヲ兼ネシムルコトヲ得  
第四百十三 風紀衛兵所ニハ必要ノ場合彈藥ヲ備付ケ置クモノトス  
第四百十四 風紀衛兵ハ聯隊長ノ指定スル書籍ノ外閱讀スヘカラス  
第四百十五 聯隊長ハ風紀衛兵ニ假眠ヲ許シ且

毛布、蚊帳、枕ノ使用ヲ許スコトヲ得  
第四百十六 風紀衛兵司令ハ週番司令ノ命ヲ承ケ衛兵ヲ指揮シ營倉ヲ警守シ日課ノ諸號音ヲ定時限ニ吹奏セシメ且衛兵所、哨舍、營倉、面會所備付諸物品ノ清潔保存ヲ監視ス  
衛兵司令日常ノ業務概ネ左ノ如シ

- 一 上番衛兵司令ハ下番衛兵司令ヨリ申送ヲ受ケ衛舍掛ヲシテ其ノ監守ニ屬スル諸物品ヲ受取ラシメ步哨掛ヲシテ步哨ヲ交代セシム又營倉ニ在ル者ノ人員、著裝、所持品等ハ自ラ之ヲ檢査ス
- 右終レハ上下番衛兵司令ハ之ヲ週番司令ニ報告ス
- 下番衛兵司令ハ此際報告ヲ週番司令ニ物品持出證ヲ週番副官ニ差出スモノトス
- 二 點呼ノ際ハ衛兵ヲ整列セシメ人員ヲ檢査シ營倉ヲ巡視シ異狀ノ有無ヲ週番司令ニ報告ス
- 三 週番司令ヨリ命セラレタル時刻其ノ他時

々自ラ巡察シ又ハ部下ニ命シテ巡察セシメ營内ノ取締、警戒及火災豫防ニ注意ス  
四 衛兵所ノ時計ハ毎日正午之ヲ規正ス  
五 表門ハ通常起床號音ニテ開キ夕食號音ニテ閉チ其ノ他ノ諸門ハ聯隊長ノ定ムル時刻ニ於テ開閉ス  
六 外人ノ取扱概ネ左ノ如シ  
下士官以上ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ氏名ヲ尋ネ直接又ハ週番下士官ヲ經テ之ヲ該官ニ通報シテ所要ノ處置ヲ爲ス  
兵ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ兵ノ隊號、等級、氏名及面會人ノ住所氏名並ニ兵トノ間柄ヲ面會簿ニ記入シ面會所ニ案内ノ後週番下士官ニ通報ス  
地方官吏及團體等ニシテ慰問ノ爲來營シタルトキハ聯隊副官ハ不在ナルトキノ指示ヲ請ク  
面會人及其ノ携行品ニ注意シ軍紀風紀及衛

生上有害ナリト認ムルモノアルトキハ週番司令ニ申出テ其ノ指示ヲ請ク  
 營内參觀ヲ請フ者アルトキハ週番司令ノ指示ヲ請ク  
 七 准士官以上、見習士官少尉候補者、之等ニ準スヘキ者及其ノ隨從者並營外居住下士官ノ外營外ニ物品ヲ持出サントスル者アルトキハ其ノ持出證ト物品トヲ照合ノ上持出證ニ檢印シ若シ持出證ナキ者又ハ證明外ノ物品ヲ携フル者アルトキハ之ヲ止メ週番司令ニ届出ツ  
 營内ニ持入ラントスル兵ノ所持品ニ對シテモ必要ト認ムルトキハ之ヲ檢ス  
 八 表門ノ出入ヲ許スヘキ者左ノ如シ  
 指揮者ニ依リ引率セラレタル者  
 下士官以上及其ノ隨從者並制服ヲ著ケ若ハ所定ノ徽章ヲ附シタル陸軍文官但シ休日以外ノ日及休日ニ於テ外出ノ規定時限以外ニ出入スル下士官ハ公用證、外出證明書、外泊

證明書又ハ營外居住證ヲ所持スルヲ要ス  
 兵ニシテ公用證又ハ休日ノ外出ノ規定時限以内ニ於テ外出證ヲ、其ノ他ノトキニ於テ外出證明書若ハ外泊證明書ヲ所持スル者  
 憲兵、傳令及郵便電信集配人  
 門鑑ヲ所持スル者  
 特ニ聯隊長ノ許可セル者  
 九 下士官者ヲ除ク 以下休日以外ノ日及休日ニ於テ外出ノ規定時限以外ニ營門ヲ出入スル者アルトキハ自ラ之ヲ檢ス  
 十 遅刻シテ歸營シタル者アルトキハ隊號、官等級、氏名及入門時刻ヲ記シ週番司令ニ報告シ且本人所屬部隊ノ週番下士官ニ通報ス  
 十一 衛兵所、哨舍、營倉、面會所及備付諸物品中破損紛失等アル時ハ其ノ事由ヲ調査シ修理申立帳ニ記入シ聯隊本部ニ申出テ消耗品ハ衛舍掛ヲシテ聯隊本部ヨリ受領セシム

十二 營倉入ノ者アルトキハ週番副官ノ指示ヲ承ケ週番下士官ヨリ之ヲ受領シ服裝及所持品等ヲ檢査シ營倉ニ鋼シ入倉者ノ動靜、營倉内ノ清潔及換氣等ニ注意ス  
 演習、入浴其ノ他取調等ニテ營倉入ノ者ヲ出ス爲週番下士官來ルトキハ週番副官ノ許可ヲ請ケ本人ヲ引渡ス其ノ授受ニ關シテハ入倉ノトキニ準ス  
 營倉入ノ者ニ面會ヲ許可セラレタル者アルトキハ自ラ之ニ立會フモノトス  
 營倉ノ開閉ハ自ラ之ヲ爲シ物品出シ入レノ際ニハ之ニ立會フモノトス  
 十三 衛兵及營倉入ノ者診斷ヲ願出ツルトキハ週番副官ニ届出テ所屬中隊ノ週番下士官ニ通報シ診斷ヲ受ケシム  
 衛兵中疾病、事故等ニテ服務セシメ難キ者アルトキハ週番副官ニ報告シ所屬中隊ニ代人ヲ請求ス  
 十四 非常又ハ火災アルトキハ直ニ週番司令

ニ急報シ衛兵ヲ整列セシメ其ノ指揮ヲ受ク又火災ニシテ瞬時モ猶豫スヘカラサルトキハ號音ヲ吹奏セシメ要スレハ營倉入ノ者ヲ他ニ移シ監視者ヲ附シ其ノ他臨機ノ處置ヲ爲ス  
 第四百七十七 衛舍掛ハ風紀衛兵司令ノ命ヲ承ケ衛兵所、營倉、面會所等内外ノ清潔保存及火元取締ニ注意シ備付諸物品ヲ監守ス  
 衛舍掛日常ノ業務概ネ左ノ如シ  
 一 當番ヲ割出シ營門、衛兵所其ノ他受持場ヲ掃除セシメ又備付物品ノ手入ヲ爲サシム  
 二 營倉内ノ掃除ハ營倉入ノ兵アルトキハ毎日之ヲシテ實施セシメ否サルトキハ當番ヲシテ實施セシム  
 三 營倉入ノ者ノ寢具及食事ノ授受ヲ爲ス  
 第四百七十八 步哨掛ハ風紀衛兵司令ノ命ヲ承ケ步哨ノ交代ヲ行ヒ哨舍ノ清潔保存ニ注意シ步哨ヲシテ服裝ヲ正ク守則ヲ熟知シ之ヲ嚴密ニ實施セシムルヲ以テ任トス

第四百四十九 本章ニ規定スルモノノ外風紀衛兵ノ編成服務並歩哨ノ特別守則ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

第十七章 營 倉

第五百十 營倉ハ重(輕)營倉ニ處セラレタル者ヲ鋼シ悔悟謹慎セシメ又犯行者ニシテ處分未決ノ者及一時營倉入ヲ必要トスル者ヲ留置スル所トス

第五百十一 營倉入ノ者ハ成ルヘク一人宛別房ニ鋼スヘシ

第五百十二 營倉各房ノ入口ニハ營倉入ノ者ノ除號、等級、氏名、罰目、留置等其ノ他必要ナル件ヲ記シタル札ヲ掲ケルモノトス

第五百十三 營倉入ノ者ハ常ニ謹慎ノ意ヲ表シ喧噪ニ互ル等ノ行爲アルヘカラス又起床時限ヨリ消燈時限迄ハ横臥スルヲ禁ス

第五百十四 輕營倉入ノ者ニハ消燈時限ヨリ起床時限迄毛布、蚊帳、枕ヲ與ヘ食物ハ平常ニ異ナルコトナシ又必要ノトキ中隊長ハ入浴ヲ許可スルコトヲ得

第五百十五 營倉入ノ者ニハ物品ヲ所持スルコトヲ許サス但シ用紙及中隊長ノ許可スル書籍ノ内一冊ハ此ノ限ニアラス

第五百十六 營倉入ノ者ニハ准士官以上、見習士官、少尉候補者並中隊長若ハ週番司令ノ許可シタル者ノ外面會スルコトヲ許サス

第五百十七 犯行者ニシテ處分未決ノ者及一時營倉入ヲ必要トスル者ヲ留置スル場合ノ取扱ハ取締上必要アル限り適宜前諸條ノ規定ニ準ス

第十八章 當番勤務

第五百十八 兵ノ傳令其ノ他雜務ニ服スルヲ當番勤務ト稱ス

第五百十九 當番勤務ニ服スル兵ノ人員、服裝、服務場所、勤務及時間其ノ他演習、検査等ノ免否ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

第六十 特種ノ當番勤務ニ服シ屢、交代セシ

メ難キ者ト雖同一兵ヲ三箇月以上連續服務セシムルコトヲ許サス但シ徒歩部隊ノ貸與馬ヲ取扱フ兵ニ在リテハ四箇月以内服務セシムルコトヲ得而シテ此ノ種ノ當番ト雖每週少クモ二日演習ニ出場セシムヘシ

第六十一 聯隊長ハ營内及勤務上ニ於テ傳令、兵器、被服ノ拭淨及貸與馬ノ手入等ヲ行ハシムル爲必要ト認ムルトキハ隊附准士官以上團副官ヲ見習士官、少尉候補者ニ當番トシテ其ノ隊中ヨリ兵一名ヲ採リ服務セシムルコトヲ得

第六十二 聯隊長ハ部下ノ病氣看護ヲ要スル等必要已ムヲ得サルトキニ限り下士官、兵ヲ病院又ハ營外ニ宿泊セシムルコトヲ得

第六十三 聯隊長ハ部下若ハ其ノ家族ニ死亡者アルトキハ其ノ葬儀ノ爲所要ノ人員ヲ差遣スルコトヲ得

第六十四 當番勤務ニ服スル兵一般ノ心得左ノ如シ

一 服務スヘキ室内、倉庫等ハ常ニ清潔ナラシメ備付物品ハ其ノ數ヲ明ニシ破損紛失ナキ様取扱ヒ且妄ニ定メラレタル位置ヲ變スヘカラス又特ニ火氣ノ取扱ニ注意スヘシ

二 私用ノ爲妄ニ其ノ服務ノ場所ヲ離ルヘカラス

三 當番ノ交代ハ定メラレタル時刻ニ於テ上下番ノ者立會ヒノ上申送ヲ爲シ監督者ニ報告スヘシ又諸物品ノ受渡ヲ爲スニハ品目表ニ照シ破損紛失ノ有無ヲ檢シ若シ破損紛失アルトキハ之ヲ監督者ニ報告スヘシ

四 當番中取締ヲ命セラレタル者ハ他ノ當番ヲ指揮シ之ト共ニ命セラレタル業務ニ服スヘシ

第十九章 檢 査

第六十五 各隊長ハ部下ヲシテ馬匹ヲ愛護シ兵器ヲ尊重シ又被服、建物其ノ他一般ノ供用品及官給品等ヲ大切ニ取扱ヒ能ク之ヲ保存節約ス

ルノ慣習ヲ養成シ且常ニ戰時ノ要求ニ應シ得シムルヲ要ス  
各種検査ハ前項ノ精神ヲ發揮セシムルヲ主眼トシ之カ實施ニ當リテハ教育訓練等ノ關係ヲ顧慮シ能ク其ノ輕重本末ヲ稽ヘ實施ノ時機方法等ヲ適切ナラシムルヲ要ス  
第百六十六 各隊長ハ兵器、被服、器具、材料、建物、陣營具其ノ他諸物品ノ整備及各部分ノ手入保存並修理ノ良否ヲ檢スル爲適時検査ヲ行フヘシ  
副官、軍醫、獸醫及各委員モ前項ニ準シ其ノ管理ニ屬スル諸物件ノ検査ヲ行フヘシ但シ他ニ供用セル物件ノ検査ニ付テハ豫メ聯隊長ノ承認ヲ請クルモノトス  
第百六十七 各隊長ハ軍裝ノ良否ヲ檢スル爲適時検査ヲ行フヘシ  
第百六十八 各隊長ハ馬匹ノ健康狀態保育ノ適否ヲ檢スル爲適時検査ヲ行フヘシ  
獸醫ハ前項ノ検査ニ立會フモノトス

第百六十九 検査ノ爲上官巡視ノ際中隊長ハ必要ノ將校以下ヲ隨ヘ適宜ノ位置ニ之ヲ迎ヘ所要ノ報告ヲ爲シ自ラ其ノ先導ヲ爲シ其ノ他ノ者ハ隨行スルヲ例トス  
本部及委員ニ於テ管理スル場所ノ検査ニ在リテモ前項ニ準ス  
第百七十 各隊長ハ部下ヲシテ本章ニ規定スル諸検査ヲ實施セシムルコトヲ得

第二十章 起居及容儀

第百七十一 兵營ニ於ケル起居ハ教練ト相俟チ軍人ノ修養ヲ完ウスヘキモノナリ故ニ上官ハ全幅ノ注意ヲ此ニ致シ克ク節制ヲ保チ放縱ニ陥ルヲ戒メ寬嚴其ノ宜シキニ從ヒ和氣譎々ノ裡軍隊家庭ノ實ヲ舉クルヲ要ス品性ノ陶冶公德心ノ養成等亦此ノ間ニ期セラレサルヘカラス  
第百七十二 起床及消燈ノ時刻ハ衛戍地所在ノ上級先任ノ軍隊指揮官之ヲ定ムルモノトス  
聯隊長ハ教育其ノ他ノ都合ニ依リ前項ノ時刻ヲ

一時伸縮スルコトヲ得  
第百七十三 教育上ニ關スル日課及其ノ時限等ヲ定ムルハ當該職責者ノ任スル所ナリト雖聯隊一般ノ勤務時限ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ而シテ起床、點呼、食事、會報、消燈等ハ通常喇叭號音ヲ用フルモノトス  
第百七十四 營内居住者ハ毎朝起床ノ號音ニテ起床シ日朝點呼ノ號音ニヨリ所定ノ位置ニ於テ人員検査ヲ受クヘシ  
酒保、集會所、炊事場等週番(日直)ヲ設ケサル場所ハ上級先任者日朝點呼ヲ爲シ異狀ノ有無ヲ週番司令ニ報告スヘシ  
診斷ヲ受ケントスル者ハ此ノ際 急ヲ要スル者其ノ旨ヲ内務班長ニ届出ツルモノトス  
第百七十五 日夕點呼ハ通常消燈時限前三十分乃至一時間ニ於テ行フモノニシテ其ノ方法ハ日朝點呼ニ同シ命令訓示等ハ通常此ノ際傳達セラ

ルモノトス  
第百七十六 臨時點呼ノ方法ハ日朝點呼ニ同シ但シ中隊ニ屬セサル場所ハ週番副官ノ立會ヒヲ受クルモノトス  
第百七十七 消燈後常時延燈ヲ許可スル場所及時刻ハ聯隊長之ヲ定メ臨時ニ延燈ヲ要スル者ハ中隊ニ在リテハ中隊長ハ週番士官其ノ他ニ在リテハ當該副官、委員等ハ週番司令ノ許可ヲ請クヘシ  
第百七十八 寢具ヲ展ヘ蚊帳ヲ張ル時刻ハ中隊長之ヲ定ムヘシ  
第百七十九 起床後ヨリ夕食時限マテハ寢臺上ニ横ハルコトヲ許サス但シ一般休日及特ニ許可セラレタル場合ハ此ノ限ニアラス  
第百八十 常ニ服裝ヲ整ヘ頭髮ヲ通常短ク剪リ身體、被服ヲ清潔ニシ容儀ヲ正クスヘシ  
廉アル場合ノ外室内及聯隊長ノ許可スル場所ニ於テハ上衣ノ釦ヲ外シ又ハ全ク脱クコトヲ得  
第百八十一 世論政治ニ關スル集會又ハ演說會



等ニ臨ミ或ハ自己ノ發意若ハ他ノ依頼ニ依リ印刷物ヲ配布スルヲ禁ス  
 學術技藝ニ關スル講演會及之ニ關スル集會ヲ催シ若ハ之ニ臨席セムトスルトキハ所屬隊長ノ許可ヲ請クヘシ  
 第百八十二 典令範及勤務書以外ノ書籍並新聞雜誌類ハ所屬隊長ノ許可シタルモノニ非サレハ讀ムコトヲ許サス  
 第百八十三 犯罪ノ嫌疑者ヲ互選投票シ又ハ私ニ懲戒糾問スル等ノ行爲アルヘカラス  
 第百八十四 官給品及金錢ハ之ヲ貸借スヘカラス又一時ノ娛樂ト雖勝負ヲ爭フ行爲ニ物品ヲ賭スルコトヲ禁ス  
 第百八十五 水ノ使用ハ節約スルコトニ慣レシムヘシ  
 第百八十六 官給品ノ取扱ヲ鄭重ニシ特ニ定メラレタルモノノ外之ニ自己ノ氏名、符號等ヲ記入彫刻シ又ハ私ニ革條ニ孔ヲ穿ツヘカラス  
 第百八十七 建物其ノ他諸器具ニ妄ニ釘ヲ打ツ

ヘカラス  
 第百八十八 厩、砲廠、格納庫、車廠、工場、倉庫、炊事場、浴場、蒸汽機關室等ニハ妄ニ立入ルヘカラス  
 第百八十九 許可ナキ物品ヲ營内ニ持入り又ハ妄ニ官給品ヲ營外ニ持出スヲ禁ス  
 第百九十 下士官以下ニハ私服ヲ所持スルヲ許サス但シ聯隊長ハ下士官又ハ時期ニ依リ兵ニ之カ所持ヲ許可スルコトヲ得  
 第百九十一 兵ニシテ事故アリタルトキハ何事タルヲ問ハス速ニ内務班長ニ届出ヘシ  
 第百九十二 物品ヲ遺失、紛失又ハ破損シタルトキハ直ニ内務班長若ハ週番下士官ニ届出ヘシ之ヲ發見シ又ハ拾得シタルトキ亦同シ  
 第百九十三 聯隊長ハ營内ニ於テ演藝其ノ他ノ娛樂ヲ許可スルコトヲ得

第二十一章 休日及外出

陸軍始、陸軍記念日ニ在リテハ儀式等ヲ終リタル後又年末年始、日曜日其ノ他定メラレタル休日ハ通常演習ヲ休ミ休養セシム  
 第百九十五 休日ニ於テ教育、勤務等ニ差支ナキ營内居住者ハ之ヲ外出セシムルコトヲ得但シ患者、就業者及犯行取調中ノ者ハ外出スルヲ許サス  
 第百九十六 外出ハ通常朝食ヨリ兵ニ在リテハ夕食時限迄、下士官ニ在リテハ日夕點呼時限迄トス但シ一月一日、紀元節、天長節、明治節、靖國神社例大祭日ニハ兵ハ日夕點呼時限迄、下士官ハ午後十二時迄外出セシムルコトヲ得  
 第百九十七 休日ニ於テ勤務等ノ爲休養スルト能ハサル者ニ對シテハ代日休暇ヲ與フルコトナシ但シ演習檢閱等ノ爲部隊一般ニ休日ヲ廢シタルトキハ各隊長ハ隊務ニ妨ナキ日次ノ選

コトヲ得  
 部隊一般ニ慰勞休暇實施ノ當日休暇ヲ付與セラレタル者ニシテ勤務ニ服スル場合ニ於テハ各隊長ハ之カ代日休暇ヲ與フルコトヲ得  
 第百九十八 聯隊一般ノ休日ニ非サルトキ大、中隊ノミ休日ヲ實施スル場合ニハ當該隊長ハ之ヲ週番司令及風紀衛兵司令ニ通報スヘシ  
 第百九十九 各隊長ハ休暇數日ニ互ル場合ニ於テ教育、勤務等ニ差支ナキ者ハ歸省ヲ許スコトヲ得但シ大、中隊長ハ其ノ時日及人員ニ付豫メ聯隊長ノ認可ヲ請クルモノトス  
 第二百 總テ外出スル營内居住者ニシテ兵營ニ歸リ食事スルコト能ハサル者ハ各内務班毎ニ本部附ハ各取纏メ内務班ニ屬セ之ヲ週番下士官本部毎ニ取纏メサル者ハ直接ニ通報スヘシ  
 辨當ヲ要スル者ハ前項ト同一手續ニ依リ前日夕食迄ニ之ヲ請求スルモノトス  
 第二百一 營内居住者臨時外出ヲ願出テ其ノ事

情已ムヲ得サルモノト認メタルトキハ各隊長、  
 副官不在ナルトキ事急ヲ要スル場合ニハ中隊ニ  
 副官屬スル者ニ在リテハ週番士官、其ノ他ニ在  
 リテハ週ニ於テ四十八時間以内ノ臨時外出ヲ許  
 可スルコトヲ得

**第二百二** 各隊長、副官ハ教育、勤務等ニ差支  
 ナキ限り下士官、下士官ノ階級ニ在ル士官候補  
 中ノ者ニ對シ午後課業済ヨリ日夕點呼時限迄外  
 ヲ除クニ對シ午後課業済ヨリ日夕點呼時限迄外  
 出ヲ許可スルコトヲ得又各隊長ハ服役六年以上  
 ノ下士官ニ對シテハ教育、勤務等ニ差支ナキ限  
 リ聯隊長ノ定ムル所ニ依リ日夕點呼後ヨリ翌朝  
 食時限迄日夕點呼時限迄ノ外泊ヲ許可スルコ  
 トヲ得

**第二百三** 公用ノ爲下士官以下ヲ外出セシメン  
 トスル者ハ中隊長、副官不在ナルトキハ中隊ニ  
 屬スル者ニ在リテハ週

番士官、其ノ他ニ許可ヲ請ケ公用證ヲ受領シ  
 在リテハ週番司令  
 本人ニ交付ス但シ中隊ニ在リテハ通常週番下士  
 官ヲシテ本人ニ公用證ヲ交付セシムルモノト  
 ス

歸營シタルトキハ週番下士官ニ届出テ公用證ハ  
 中隊ニ在リテハ週番下士官ニ其ノ他ニ在リテハ  
 之ヲ受ケタル職員不在ナルトキニ速ニ返納スヘ  
 シ

**第二百四** 一般休日大、中隊ノミニ外出セント  
 スル兵ハ内務班長ニ外出先ヲ告ケテ外出證ヲ受  
 ケ歸營シタルトキハ速ニ之ヲ週番下士官ニ返納  
 スヘシ

**第二百五** 前條以外ノ日ニ外出セントスル者若  
 ハ休日ニ於テ外出ノ規定時限以外ニ外出又ハ歸  
 營セントスル者ハ中隊ニ在リテハ内務班長ヲ經  
 テ班附以外ノ下中隊長不在ナルトキニ、本部附  
 士官ハ直接

ノ者ニ在リテハ副官不在ナルトキニ願出テ外出  
 證明書又ハ外泊證明書ヲ受ケ週番下士官ニ届出  
 テ外出スヘシ

歸營シタルトキハ速ニ週番下士官ニ届出テ證明  
 書ハ中隊長ハ副官ニ返納スルモノトス

**第二百六** 外出スル下士官以下ハ軍隊手牒ヲ携  
 帶スルモノトス

**第二百七** 下士官ハ外出ノ際中隊備付ノ氏名札  
 ヲ各自ニ裏返シ歸營セハ直ニ之ヲ表面ニ復シ置  
 クモノトス

**第二百八** 旅行又ハ歸省ヲ許サレタル者ハ外套  
 ヲ携ヘ脚絆ヲ穿ツヘシ

**第二百九** 下士官ニ營門ヲ出入スル者ヲ除ク  
 以下ニシテ營門ヲ出入スルトキハ公用證若ハ外  
 出證(外出證明書、外泊證明書、營外居住證)ヲ  
 歩哨ニ示スヘシ但シ下士官者ヲ除ク以下ニシテ  
 休日以外ノ日及休日ニ於テ外出ノ規定時限以外

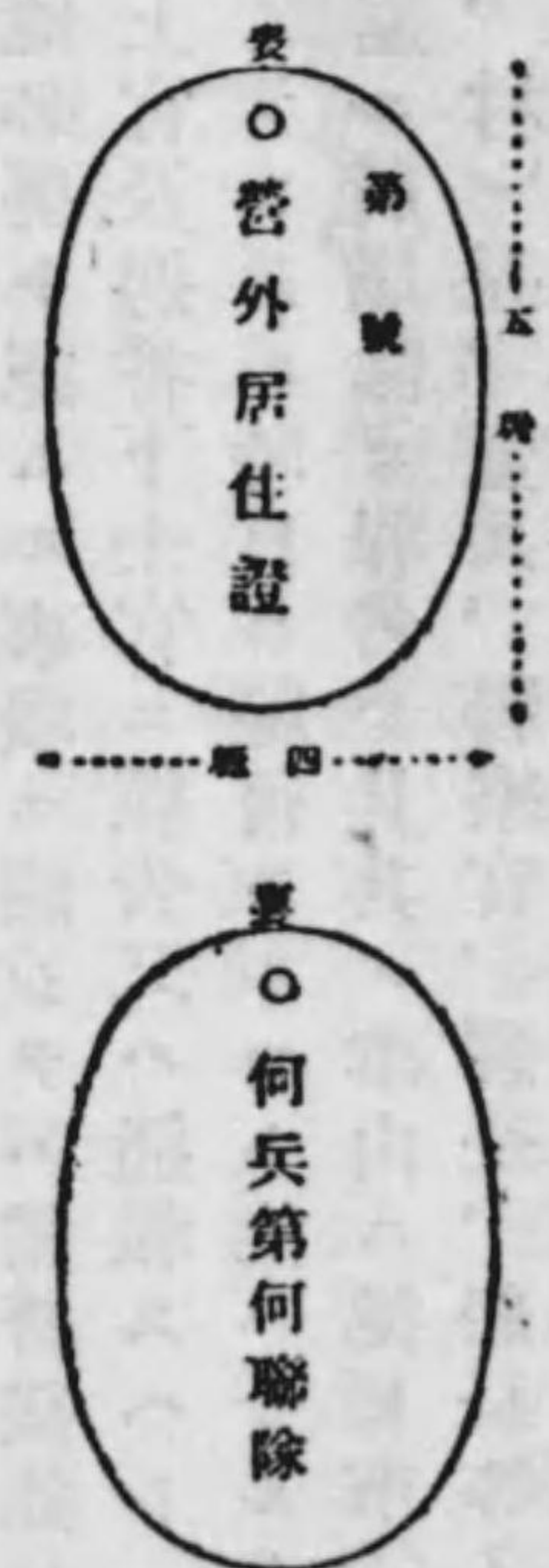
ニ營門ヲ出入スルトキハ自ラ風紀衛兵司令ニモ  
 前記外出許可ノ證ヲ示スモノトス

**第二百十** 下士官者ヲ除ク以下ニシテ物品ヲ營  
 外ニ持出サントスルトキハ中隊ニ在リテハ准士  
 官以上ニ、其ノ他ニ在リテハ關係准士官以上ニ  
 物品持出證ヲ請求シ營門ヲ出ツルトキ風紀衛兵  
 司令ノ照合ヲ受ケ物品持出證ヲ歩哨ニ渡スヘシ  
 出入商人其ノ他ノ者物品ヲ持出サントスルトキ  
 亦同シ

**第二百十一** 外出中非常其ノ他兵營及其ノ近傍  
 ニ火災アルコトヲ知リタルトキハ直ニ歸營スヘ  
 シ

**第二百十二** 外出先ニ於テ事故アリタルトキ其  
 ノ他必要ト認ムル事項ニ關シテハ歸營後速ニ所  
 屬上官及週番下士官ニ報告又ハ通報スヘシ  
 定メラレタル時日ニ歸營スルコト能ハサルトキ  
 ハ速ニ所屬隊ニ報告シ且其ノ事由ニ從ヒ市(區、  
 町、村)長、憲兵、警察官、驛長、船長等ノ證

明書若ハ醫師ノ診斷書ヲ受ケ歸營後届出ヘシ  
歸營時刻ニ遅レタルトキハ遲疑スルコトナク歸  
營シ風紀衛兵司令ニ届告ノ後所屬中隊ノ週番下  
士官ニ事由ヲ述ヘ其ノ指示ヲ請クヘシ  
第二百十三 公用證、外出證、營外居住證ノ様  
式左圖ノ如シ



第二十二章 衛生

第二百十四 衛生ハ健康ヲ保全シ體力、氣力ヲ  
増進シ傷疾疾病ヲ豫防シ且其ノ治癒ヲ速カナラ  
シムルヲ本旨トス故ニ隊長以下各幹部ハ諸種ノ  
手段ヲ盡シ特ニ積極的ニ保健ノ勵行ヲ圖リ之カ  
向上ニ勉ムルヲ要ス  
第二百十五 軍醫ハ時々兵舎、酒保、炊事場、  
浴場、工場等ノ内外ヲ巡視シ常ニ衛生ニ關スル  
諸規定履行ノ狀況及兵營諸設備、兵業等ノ衛生  
ニ及ホス影響ニ注意シ又下士官以下ノ榮養狀態  
及兵食ノ良否ヲ調査シ時々養價ヲ算定シ用水及  
糧食品酒保賣品ヲ検査ス  
第二百十六 軍醫ハ所屬隊長ノ認可ヲ請ク各中

隊ノ診斷順序ヲ定メ定時限ヨリ患者ヲ診療スヘ  
シ  
聯、大隊本部下士官ノ受診ハ給與ヲ指定セラレ  
タル中隊ニ於テ取扱フモノトス  
第二百十七 診斷ノ結果ニ依リ患者ヲ左ノ五種  
ニ區分ス  
就業 總テノ業ニ就カシムルモノ  
練兵 教練、演習、衛兵其ノ他勞力ヲ  
要スル勤務ヲ行フモノ  
乘馬 乘馬ニテ行フ教練、演習  
ノミヲ行フモノ  
入室 休養室ニ入ラシムルモノ  
入院 右ノ外寢臺ニ就クコト、外套又ハ手袋ヲ用フル  
コト若ハ脱靴ヲ許スコト、酒保ニ就キ飲食品ヲ  
買フヲ禁スルコト等又病症ニ依リ食物ノ變更ヲ  
要スルトキハ其ノ種類、數量、日時等ヲ決定ス  
軍醫ハ引率者ニ病名、診斷區分、傷病等差發病  
月日、前項ノ決定事項及豫防、攝生等ニ關スル  
必要ノ事項ヲ示シ患者名簿ノ記入ヲ檢ス

第二百十八 劇毒藥ハ鎗アル容器ニ收容シ其ノ  
鍵ハ軍醫之ヲ保管シ軍醫不在ノトキハ風紀衛兵  
司令ニ預ケ置クモノトス  
第二百十九 入院治療ヲ要セサル患者ニシテ概  
ネ三日以内靜養ヲ要スル者ハ休養室ニ於テ療養  
セシム  
中隊ノ兵ヲシテ休養室ノ患者ヲ看護セシムル必  
要アルトキハ軍醫ハ之ヲ其ノ所屬中隊長ニ請求  
スルモノトス  
入室患者ノ寢室ニハ病名、中隊號、入室月日、  
官等級、氏名ヲ記シタル札ヲ掲ケ置クモノトス  
入室患者ノ守ルヘキ規定ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ  
高級軍醫之ヲ定ムヘシ  
第二百二十 軍醫ハ消燈時限後必要ニ應シ休養  
室ニ點燈セシメ又時期ニ拘ラス休養室、診斷室  
等ニ暖室ノ處置ヲ爲サシムルコトヲ得  
第二百二十一 入院ヲ要スヘキ患者アルトキハ  
主任軍醫ハ前日臨時入院ノ場必要ノ事項ヲ病院  
合ハ其ノ都度必要ノ事項ヲ病院

ニ豫報シ又患者ノ送院ニ關シ運搬ノ方法、附添人等其ノ他必要ノ事項ヲ患者所屬ノ中隊長ノ不在キハ週ト協議シ之ヲ所屬隊長ニ報告ス

番士官ト協議シ之ヲ所屬隊長ニ報告ス

第二百二十二 軍醫退營後及休日ニ於テ急病者ノ診療其ノ他所要ノ衛生業務ヲ處理セシムル爲各部隊毎ニ若ハ最寄部隊ト共同シテ一名ノ當直軍醫軍醫正ヲ除キ士官勤務ニヲ置キ營内衛戍病軍服スル見習醫官ヲ含ム

同スルトニ宿直セシム其ノ共同スヘキ部隊ハ師團長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官之ヲ定ム但シ同一衛戍地ニ在リテ所屬ヲ異ニスルモノハ相互協議ノ上之ヲ定ムルモノトス

前項ノ勤務ニ服セシムヘキ人員三名以下ナルトキハ聯隊長ハ上級先任ノ聯隊長ハ宿直ヲ宅直ト爲スコトヲ得

高級軍醫シテ上級先任ノ軍醫、衛戍病院ト共同スルトキハ勤務割ヲ爲シ宅直ノ場合ニ在リテハハ病院長ハ勤務割ヲ爲シ宅直ノ場合ニ在リテハ住所ヲ附記シ豫メ之ヲ關係聯隊副官ニ通報スルモノトス

師團司令部所在地外ノ部隊ニ在リテハ衛戍病院宿直軍醫ハ同時ニ部隊ノ當直ヲ兼ヌルモノトス

第二百二十三 營内居住者ハ許可ナク地方醫師ノ診療ヲ受ケ又ハ藥物ヲ用フルコトヲ得ス

第二百二十四 營内居住者ノ身體検査ハ毎月概ネ一回之ヲ行ヒ其ノ他特種ナル演習ノ前後入隊者アリタルトキ等要スレハ其ノ都度之ヲ行フモノトス

前項ノ検査ニハ中隊長將校若ハ特務曹長之ニ立會フモノトス

營外居住者ノ身體検査ハ聯隊長適宜之ヲ命ス

第二百二十五 聯隊長ハ衛生上必要ヲ認ムルトキハ厨夫及出入商人等ニ軍醫ノ身體検査ヲ受クルニ非サレハ營内ニ入ルコトヲ禁スルモノトス

第二百二十六 入隊者アリタルトキハ種痘ヲ行

ヒ又適宜ノ時期ニ於テ所要ノ豫防接種ヲ施スヘシ但シ短期在營者ニ對シテハ時宜ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第二百二十七 被服、防具等ハ所要ニ應シ消毒スヘシ又傳染病患者ノ爲ニハ洗面器、浴槽ヲ區別スヘシ

第二百二十八 衛生思想ヲ向上セシムル爲時々講話ヲ行フヘシ而シテ軍醫ノ行フ衛生講話ニハ將校若ハ特務曹長之ニ立會フモノトス

第二十三章 馬匹ノ衛生

第二百二十九 馬匹ノ衛生ハ軍馬ヲ強健ニ保育シ其ノ能力ヲ増進シ傷疾疾病ヲ豫防シ且其ノ治療ヲ速カナラシムルヲ本旨トス故ニ隊長以下各幹部ハ諸種ノ手段ヲ盡シ特ニ積極的ニ強健ヲ圖リ之カ向上ニ勉ムルヲ要ス

第二百三十 獸醫ハ時々厩ヲ巡視シテ馬匹衛生ニ關スル諸規定履行ノ狀況特ニ其ノ榮養並護蹄ノ狀態ニ注意シ又馬匹勞働ノ衛生ニ及ホス狀況ヲ觀察シ以テ隊馬能力ノ保全ニ勉メ且馬糧納入ノ際ハ其ノ検査ニ會立フヘシ

第二百三十一 獸醫ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ各中隊ノ診斷順序ヲ定メ定時限ヨリ病馬ヲ診療スヘシ

聯、大隊本部ノ馬匹受診ハ給與ヲ指定セラレタル中隊ニ於テ取扱フモノトス

獸醫退營後急病馬ヲ生シタルトキハ在營蹄鐵工長又ハ蹄鐵工兵ハ獸醫來營マテ其ノ救急手當ヲ爲スヘシ

第二百三十二 診斷ノ結果ニ依リ病馬ヲ左ノ四種ニ區分ス

就業 總テノ業ニ就カシムルモノ

休業 厩ニ於テ休業セシムルモノ

入厩 病馬厩ニ入ラシムルモノ

隔離 隔離厩ニ入ラシムルモノ

獸醫ハ引率者ニ病名、診斷區分、看護ニ關スル注意運動ノ程度及飼方等ニ關スル必要ノ事項ヲ示シ病馬名簿ノ記入ヲ檢ス

第二百三十三 劇毒藥ハ輪アル容器ニ收容シ其ノ鍵ハ獸醫之ヲ保管シ獸醫不在ノトキハ風紀衛兵司令ニ預ケ置クモノトス

第二百三十四 病馬厩及隔離厩ニ在ル病馬ハ蹄鐵工長蹄鐵工兵ヲシテ之カ看護ヲ爲サシムヘシ但シ蹄鐵工兵不足ノトキハ其ノ他ノ兵ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項蹄鐵工兵等ノ人員ハ獸醫之ヲ定メ病馬所屬ノ中隊長ニ請求スルモノトス

第二百三十五 獸醫退營後及休日ニ於テ急病馬ノ診療其ノ他所要ノ馬匹衛生業務ヲ處理セシムル爲最寄部隊ト共同シテ一名ノ當直獸醫ヲ除キ士官勤務ニ服スル見習獸醫ヲ置キ宿直若ハ宅直官及三等獸醫候補者ヲ含ム

セシム其ノ共同スヘキ部隊並宿直、宅直ノ決定ハ師團長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官之ヲ定ム但シ同一衛戍地ニ在リテ所屬ヲ異ニスルモノハ相互協議ノ上之ヲ定ムルモノトス

高級獸醫 共同スル部隊ニ在リテハ其ノハ勤務割ヲ爲シ宅直ノ場合ニ在リテハ住所ヲ附記シ豫メ之ヲ關係部隊副官ニ通報スルモノトス

第二百三十六 獸醫ハ新馬入隊、傳染病流行、特種ナル演習ノ前後其ノ他衛生上必要アルトキハ聯隊長ノ命ヲ承ケ馬匹ノ検査ヲ行フヘシ

前項ノ検査ニハ中隊附將校若ハ特務曹長之ニ立會フモノトス

第二百三十七 馬匹ニ關スル衛生思想ヲ向上セシムル爲時々講話ヲ行フヘシ而シテ獸醫ノ行フ衛生講話ニハ將校若ハ特務曹長之ニ立會フモノトス

第二百三十八 獸醫在ラサル部隊ニ於ケル馬匹ノ衛生業務ハ聯隊長ノ指定スル將校之ヲ擔當スルモノトス但シ病馬ノ診療、去勢ヲ要スルトキ並蹄鐵設備ヲ有セサル部隊ニ於テ裝蹄若ハ剔毛ヲ要スルトキハ獸醫所屬ノ最寄部隊ト協議ノ上之ヲ行ハシメ已ムルヲ得サルトキハ地方獸醫同

蹄鐵工ヲシテ之ヲ實施セシムルコトヲ得

第二十四章 厩

第二百三十九 馬房ニハ馬名、用役、鞍、毛色、年齢及毛附者ノ氏名ヲ記セル馬名札ヲ掲クヘシ但シ癖馬、新馬ニ在リテハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

病馬房ニハ別ニ病名、發病月日及診斷區分ヲ記シタル札ヲ掲ケ又飼方取扱上特別ノ注意ヲ要スルモノニハ之ヲ明示シ置クモノトス

癖馬中咬癖馬ニハ鬃ニ、蹴癖馬ニハ尾毛ニ白布ヲ結著スルモノトス

第二百四十 厩ハ常ニ清潔乾燥ヲ保チ特ニ空氣ノ流通ヲ適當ニスヘシ又妄ニ厩内ニ於テ水ヲ使スルコトヲ禁ス

第二百四十一 馬匹ノ手入ハ朝夕二回行フヲ例トス

水與ハ一日數回、飼付ハ一日通常三回乃至四回

ニ行フモノトス

第二百四十二 厩ニ於テハ特ニ火災ノ豫防ニ注意スヘシ又厩及其ノ周圍ニ於テハ裸火ノ使用及喫烟ヲ禁ス

第二十五章 炊事場及浴場

第二百四十三 軍隊ノ食事ハ榮養ヲ主トシ簡易ヲ旨トスヘシ

第二百四十四 經理委員ハ絶エス兵業ノ實情、物價、食品ノ配合、調理法、嗜好等ニ注意シテ給養ヲ良好ナラシムルコトヲ勉メ翌週ニ於ケル獻立豫定表ヲ調製シ聯隊長ニ差出スヘシ又日々糧食品ノ原料ヲ検査スルノ外時々試食ヲ行フモノトス

第二百四十五 食中毒アリタルトキ検査ニ供スル爲毎食一食分ヲ除クヲ二十四時間炊事場ニ存置スヘシ

第二百四十六 炊事掛下士官日常ノ業務概ネ左

ノ如シ

- 一 炊事專務兵、當番及厨夫等ヲ指揮シ食物ノ調理分配及浴場等ニ關スル業務並炊事專務兵ノ教育ニ從事シ又糧食品、薪炭類及備付諸物品ノ監守ニ任シ且計算記簿ノ事務ニ服ス
- 二 毎朝炊事專務兵、當番及厨夫等ノ人員檢査ヲ行ヒ其ノ健康狀態ニ注意シ又服務中病氣其ノ他ノ事故ニ依リ交代ヲ要スル者アルトキハ之ヲ中隊ニ請求ス
- 三 炊事中及食事分配ノ際ハ成ルヘク現場ニ在リテ之ヲ監視ス
- 四 日々殘飯、殘菜等廢物ノ數量ヲ記牒シ經理委員ニ報告ス
- 五 炊事場ノ清潔整頓ニ注意ス
- 六 特ニ火元取締ニ注意シ煙突ハ其ノ使用ノ度ニ應シテ屢、掃除セシメ消火後ハ火氣ノ消滅ヲ確ム
- 七 出入商人ハ用務終レハ速ニ炊事場ヲ立去

ヲシム

第二百四十七 炊事場 蒸汽機關及浴場ニ於テ守ルヘキ規定ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ經理委員之ヲ定ムヘシ

第二十六章 命課布達式及告別

第二百四十八 將校新ニ命課セラレタルトキハ之ヲ隊内ニ布達スル爲命課布達式ヲ行フモノトス但シ同一部隊内ニ於テ同職務ヲ以テ配屬ヲ變更セラレタル場合及其ノ隊ニ於テ常時服務セサル場合ヲ除ク

將校相當官ノ命課ハ要スレハ各隊長適宜紹介ノ方法ヲ講スルモノトス

第二百四十九 命課布達式ニハ所屬聯隊整列聯隊、布達者以外ノ上級シ聯隊長布達スヘシ但先任ノ將校之ヲ指揮ス

シ聯隊長ノ爲ニハ軍旗ヲ樹テ旅團長、旅團編制ナキモノ及旅團編制ヲ有スルモ該司令部ト衛戍

地ヲ異ニシ師團司令部所在地ニ在ルモノハ師團長、師、旅團長在ラサルトキ及分屯隊ニ在リテハ該隊内上級先任ノ將校之ヲ布達スルモノトス

第二百五十 布達セララルル將校ハ聯隊ノ中央前ニテ之ニ面シ肩刀ヲ爲シ布達者ノ左側ニ位置ス是ニ於テ布達者ハ「氣ヲ著ケ」ノ號音ヲ吹カシメ軍隊ハ「注目」ノ號令ヲ以テ布達セララルル將校ニ注目シ布達者ハ概ネ左ノ例ニ依リ布達スヘシ

天皇陛下ノ命ニ依リ陸軍何兵何官何爵何某令般何職ニ補セララルル因テ同官ニ服從シ各軍紀ヲ守リ職務ニ勉勵シ其ノ命令ヲ遵奉スヘシ

布達者布達セララルル者ヨリ下級ナルトキハ其ノ左側ニ位置シ敬稱ヲ附シ且「因テ同官ニ服從シ」ノ代リニ「因テ我等一同同官ニ服從シ」ト唱フヘシ

布達終レハ軍隊ハ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニシ捧銃(捧刀)ヲ爲シ布達セラレタル將校ニ注目シ喇叭手ハ「皇御國」ヲ吹奏ス布達者及布達セラ

レタル者ハ相對向シ刀ヲ以テ敬禮ヲ行フ以上ノ式終リタル後布達セラレタル者聯、大、中隊長ナルトキハ其ノ部下軍隊戰車隊、自動車砲兵隊、飛行隊ハ新隊長ニ對シ分列式ヲ行フヘシ

第二百五十一 第一期教育ヲ終ラサル初年兵及之ニ類スル者ハ本隊ノ後方ニ整列スルヲ例トス

第二百五十二 聯、大、中隊長他ニ轉スルトキハ其ノ部下タリシ軍隊ヲ集メ告別ノ辭ヲ述ヘ軍隊戰車隊、自動車又ハ徒歩編制ノハ之ニ對シ分列式ヲ行フヲ例トス

第二十七章 入隊兵取扱

第二百五十三 聯隊長ハ聯隊區司令部ヨリ送付スル現役兵壯丁名簿及身上明細書ニ依リ入隊兵ノ素養、職業、體格、本籍地ノ關係等ヲ顧慮シ豫メ之ヲ各大隊ニ、大隊長ハ更ニ之ヲ各中隊ニ

配當シ其ノ名簿及書類ヲ各中隊ニ交付ス各中隊ハ之ニ基キ現役兵連名簿ヲ調製シ大隊ヲ經テ聯隊ニ報告シ置クヘシ

第二百五十四 現役兵入隊スルトキハ聯隊副官ハ前條ノ現役兵連名簿ニ基キ直ニ各中隊ノ受領者ニ交付ス大隊副官ハ之ニ立會フモノトス

第二百五十五 中隊長ハ入隊兵ヲ受領セハ豫メ受ケタル名簿ト本人ノ所持セル現役兵證書トヲ照合シ不參者アルトキハ其ノ所屬聯隊區、本籍地、氏名ヲ調査シ大隊長ヲ經テ聯隊長ニ報告スヘシ

聯隊長ハ前項ノ報告ヲ集メ其ノ本籍地、氏名ヲ當該聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第二百五十六 各中隊ニ入隊兵ノ引渡ヲ終レハ聯隊長ハ軍醫ヲシテ身體檢査ヲ行ハシムヘシ

第二百五十七 中隊長ハ入隊兵ヲ内務班ニ編入シ被服其ノ他所要ノ物品ヲ支給スヘシ各自ノ私服ハ聯隊長ノ許可シタルモノノ外成ルヘク本人ヨリ附添人ニ渡サシメ又ハ本人ノ望ニ依リ一時

中隊ニ預リ置クコトヲ得

第二百五十八 中隊長ハ現役兵入隊ノ後中隊ヲ上級先任ノ將校ノ指揮ヲ以テ整列セシメ入隊兵ニ對シ中隊ニ編入セラレタル旨ヲ告達シ所要ノ訓示ヲ爲ス但シ徒手帶劍(刀)ニシテ入隊兵ヲ第一列ニ配ス

右終リタル後入隊兵ヲシテ御眞影ヲ拜セシム

第二百五十九 聯隊長ハ左ノ方法ニ依リ入隊式ヲ行フヘシ

- 一 聯隊ハ上級先任ノ將校ノ指揮ヲ以テ式場ニ徒歩整列ス但シ入隊兵ハ徒手帶劍(刀)ニシテ第一列ニ配ス
- 二 聯隊長聯隊ノ中央前ニ至レハ軍旗ハ隊列ヲ離レ聯隊長ノ右側ニ至ル
- 三 聯隊長ハ明治十五年及昭和元年陸海軍人ニ賜リタル勅諭ヲ奉讀シ所要ノ訓示ヲ爲ス
- 四 聯隊長ノ訓示終レハ軍旗ハ定位ニ復ス
- 第二百五十 入隊式ヲ行フハ現役兵定期入隊ノトキニ限ル

入隊式ヲ行ハサルトキ勅諭ノ奉讀ハ中隊ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二百六十一 中隊長ハ入隊兵ノ人員、事故者、入隊ノ景況、教育ノ程度、思想ノ狀況、體格及健康狀態等ノ概況ヲ大隊長ヲ經テ聯隊長ニ報告スヘシ

聯隊長ハ前項ノ報告ヲ纏メ順序ヲ經テ師團長ニ報告スルモノトス

第二百六十二 士官候補生、短期現役兵、短期在營ノ現役兵及演習又ハ教育ノ爲召集セラレタル者等ノ入隊ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用スヘシ

第二十八章 除隊兵取扱

第二百六十三 聯隊長ハ現役兵定期除隊前ニ於テ差ノ方法ニ依リ除隊式ヲ行フヘシ

- 一 聯隊ハ隊内上級先任ノ將校ノ指揮ヲ以テ式場ニ徒歩整列ス
- 二 聯隊長式場ノ中央前ニ至レハ軍旗ハ隊列

ヲ離レ聯隊長ノ右側ニ移ル

- 三 聯隊長ハ除隊ノ旨ヲ告達シ次ニ大正三年在郷軍人ニ賜リタル勅諭ヲ奉讀シ且所要ノ訓示ヲ爲ス
- 四 訓示終レハ聯隊長ハ善行證書、適任證書及伎倆證明書等ヲ付與ス
- 五 右終レハ步兵聯隊及騎兵聯隊ハ軍旗ニ對シ其ノ他ノ徒歩部隊、戰車隊、徒歩編成シタル徒歩編制ノ砲兵隊、ハ隊長ニ對シ分列式ヲ行フ

飛行隊及氣球隊ヲ除ク

第二百六十四 除隊式ヲ行フハ現役兵 同日除隊 他ノ者 定期除隊ノ時ニ限ル臨時ニ除隊スル者ヲ含ム

ルトキハ除隊前所屬隊長ハ證書付與ノ手續ヲ爲シ且所要ノ訓示ヲ爲ス

第二百六十五 中隊ハ除隊兵ノ兵籍ニ關スル書類及在隊間成績調書ヲ大隊本部ヲ經テ聯隊本部

へ提出スヘシ  
償勤者アルトキハ同年次ノ現役兵定期除隊ノ際  
其ノ旨ヲ併セ報告スルモノトス  
第二百六十六 除隊兵ノ軍隊手牒ハ其ノ所屬部  
隊ニ於テ所要ノ記入ヲ爲スモノトス  
第二百六十七 幹部候補生、短期現役兵、短期  
在營ノ現役兵及演習又ハ教育ノ爲召集セラレタ  
ル者等ノ除隊ニ關シテモ亦本章ノ規定ヲ準用ス  
ヘシ

第二十九章 酒保

第二百六十八 酒保ハ營内居住者ニ質素ニシテ  
品質良好且廉價ナル日用品及飲食物等ヲ販賣ス  
ル所トス  
聯隊長ハ酒保ニ裝飾ヲ爲シ又圖書、新聞、雜誌  
並娛樂及運動器具等ヲ備付クルコトヲ得  
第二百六十九 酒保ノ販賣日時及其ノ物品ハ聯  
隊長之ヲ規定スヘシ  
第二百七十 營外居住者ニハ酒保ノ物品ヲ販賣

スルコトヲ得ルモ之カ爲特種ノ賣品ヲ置クコト  
ヲ得ス  
第二百七十一 酒保ハ軍隊ニ於テ自營スルヲ例  
トス但シ聯隊長ハ一部ノ物品ヲ受託販賣セシメ  
若ハ嚴選シタル商人ヲシテ請負販賣セシムルコ  
トヲ得  
第二百七十二 行軍、演習中其ノ他一時衛戍地  
ヲ離レ駐屯スル軍隊ハ必要ニ應シ酒保ヲ携行シ  
又ハ商人ヲ指定シテ酒保ヲ開設セシムルコトヲ  
得  
第二百七十三 酒保ニ於テ販賣スル飲食物ハ下  
士官ニ在リテハ其ノ集會所、兵ニ在リテハ酒保  
ニ於テ飲食スルヲ例トス但シ聯隊長ヨリ特ニ許  
サレタル場所及飲食物ハ此ノ限ニアラス  
第二百七十四 飲食物ハ委員時々之ヲ試食シ且  
食中毒アリタルトキ検査ニ供スル爲毎日必要ノ  
數量ヲ二十四時間存置スヘシ  
第二百七十五 處罰中及犯行取調中ノ者並診斷  
ニ依リ禁セラレタル患者ハ酒保ニ就キ飲食物ヲ

買フコトヲ得ス  
第二百七十六 賣品價格及酒保内ニ於ケル規定  
ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ酒保委員首座之ヲ定ムヘ  
シ  
第二百七十七 酒保金ハ當座用ノ外聯隊長ノ名  
義ヲ以テ確實ナル銀行又ハ郵便局等ニ預ケ置ク  
ヘシ  
第二百七十八 酒保委員助手ハ委員ノ命ヲ承ケ  
酒保ニ關スル業務及其ノ取締ニ從事ス  
酒保委員助手日常ノ業務概ネ左ノ如シ  
一 上等兵以下ヲ指揮シテ酒保内一般ノ取締  
及物品ノ販賣ニ從事シ又請負商人ヲ監督ス  
二 書類及諸帳簿ノ整理保存ニ任シ備付諸物  
品ヲ監守ス  
三 日々閉鎖後賣上金高ト殘品トヲ對照シテ  
精算記牒シ其ノ賣上金ハ酒保當座用金櫃ニ  
收藏シテ風紀衛兵司令ニ保管ヲ託シ翌日  
休日ナルトキ 正午マテニ委員主計ノ認證ア  
ハ其ノ翌日

ル賣上日計表ト對照シテ共有金保管委員ニ  
納付ス  
四 賣品ノ仕入ヲ要スルトキハ委員ノ指示ヲ  
承ケ注文傳票發行ノ手續ヲ爲ス  
五 仕入賣品ヲ受領シタルトキハ委員ノ検査  
ヲ請ケ簿表ニ記入ノ上之ヲ保管ス  
六 請負販賣品ハ委員ノ検査ヲ終リタル後日  
々其ノ持込高、賣上高及殘高ヲ検査シ之ヲ  
簿表ニ記入シ委員ノ認證ヲ請ケ  
七 日朝、日夕點呼ノ際ハ酒保及准士官下士  
官集會所ノ人員ヲ検査シテ其ノ結果ヲ週番  
司令ニ報告ス又兩所ニ於ケル火元取締ニ注  
意シ消燈後ハ火氣ノ消滅ヲ確ム  
臨時點呼ノ際ハ週番副官ノ立會ヒヲ待テ兩  
所ノ人員ヲ検査ス  
八 毎月賣品仕入高、同賣上高、同殘高等ヲ  
調査記牒シ翌月五日 休日ナルトキ 委員ニ差  
出シ現品ト共ニ検査ヲ受ケ



第二百七十九 週番司令ハ取締上又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ一時某品ノ販賣ヲ停止シ若ハ酒保ヲ閉鎖セシムルコトヲ得然ルトキハ速ニ聯隊長ニ報告シ酒保委員ニ通報スヘシ

第三十章 將校集會所及准士官

下士官集會所

第二百八十 將校集會所ハ將校團員 見習士官及ヲ含 相會シ團樂和樂ノ中ニ徳性ヲ陶冶シ一致團結ヲ圖リ兼テ學術ヲ講習スル所トス

第二百八十一 將校集會所ニ賣品所ヲ設クルコトヲ得其ノ實施ニ關シテハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

第二百八十二 准士官下士官集會所ハ准士官、下士官相會シ品位ヲ進メ徳性ヲ陶冶スルト共ニ相互ノ親睦ヲ圖リ兼テ學術ヲ講習スル所トス

第二百八十三 將校、同相當官、見習士官、少尉候補者及士官候補生ハ將校集會所ニ於テ又准

士官、下士官及第二年度下士官候補者ハ准士官下士官集會所ニ於テ外人ニ面會スルヲ例トス

第二百八十四 集會所ニハ聯隊長ノ許可ヲ請ケテ裝飾ヲ施シ又ハ圖書、新聞、雜誌並娛樂及運動器具等ヲ備付クルコトヲ得

第二百八十五 集會所ノ費用ハ特ニ規定アルモノノ外各自ノ餘金ヲ以テ辨スルモノトス

第二百八十六 將校集會所ノ規約ハ將校團長、准士官下士官集會所ノ規約ハ聯隊長ノ認可ヲ請ケ

第二百八十七 備付諸物品ノ監守ハ委員助手ニ任ス又將校集會所委員助手ハ火元取締ニ注意シ消火後ハ火氣ノ消滅ヲ確ム

第三十一章 郵便物及電報取扱

第二百八十八 郵便物及電報ノ受渡ハ確實迅速ヲ旨トシ苟モ紛失盜難等ノコトナキヲ期ス、シ

總テ信書ハ秘密ヲ守ルヲ要スト雖軍ノ紀律ヲ維持スル爲眞ニ必要ト思料スル場合ニ於テハ所屬隊長ハ之ヲ開披スルコトヲ得

第二百八十九 聯隊長ハ爲シ得レハ其ノ地ノ郵便局長ト協議シ爲替ノ盜難ヲ豫防スル方法ヲ設クルヲ要ス

第二百九十 郵便物及電報ノ受渡擔任者ハ聯、大隊本部ニ在リテハ當該副官ノ指定スル書記、中隊ニ在リテハ曹長 不在ノトキハトシ各本部、

中隊毎ニ郵便受取函ヲ備ヘ置クモノトス但シ聯、大隊本部ハ郵便受取函ヲ共用ト爲スコトヲ得

第二百九十一 郵便物及電報ノ受渡手續概ネ左ノ如シ

- 一 受渡擔任者ハ郵便受取函ノ鍵ヲ保管シ副官又ハ中隊長ノ定ムル時刻ニ開函シ受取人ニ分配ス但シ封書ニ在リテハ受渡簿ニ差出人ノ住所、氏名及受取人ノ氏名ヲ記シ受取

人ノ認證ヲ受ク

特定ノ宛名人ナキ郵便物ハ副官又ハ特務費長ノ指示ヲ請クルモノトス

二 電報及速達郵便物ハ受渡擔任者之ヲ受取リ直ニ受取人ニ交付ス

三 書留、價格表記、別配達、配達證明及小包ハ受渡擔任者受取人ニ代リテ受領シ其ノ種類、差出人ノ住所、氏名及受取人ノ氏名ヲ受渡簿ニ記入ノ上受取人ニ交付シ其ノ認證ヲ受ク

四 受渡擔任者ノ受領シタルモノニシテ他ニ轉送ヲ要スルモノアルトキハ速ニ之ヲ處置シ前各號ニ準シテ授受ヲ明ニシ置クヘシ但シ隊内ニ在リテハ通常會報時ニ於テ授受ヲ行フモノトス

五 郵便料未納又ハ不足ノ郵便物及料金追徴ヲ要スル電報ハ受取人ノ諾否ヲ質シタル後處置スルヲ例トス

六 受渡擔任者ハ常ニ郵便物ノ性質ニ注意シ

取締上必要ト認ムルトキハ郵便物又ハ電報ヲ受取人ニ交付スルニ先テ副官又ハ特務曹長ノ指示ヲ請クルモノトス

第三十二章 報告

第二百九十二 報告ノ要ハ上司ヲシテ適時軍隊ノ狀況ニ通曉セシムルニ在リ故ニ報告者ハ事ノ緩急輕重ヲ顧慮シテ機宜ノ處置ヲ採リ苟モ形式ニ拘泥シテ時機ヲ失スルカ如キコトナキニ注意スルヲ要ス

第二百九十三 特ニ規定アルモノ、重要ナルモノ又ハ將來參考ト爲ルヘキモノハ筆記報告スルハ勿論ナリト雖其ノ他ノ事項ハ勉メテ口頭又ハ覺紙ヲ以テシ事務ノ簡捷ヲ期スヘシ

事急ヲ要スルモノニ在リテハ簡記シテ提出スルモノニ在リテモ取敢ヘス口頭其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ報告スルヲ要ス

第二百九十四 日報ハ隊長ヲシテ軍隊ノ現狀ヲ知悉セシムル爲聯大隊本部及中隊毎ニ調製シ前

日ノ起床ヨリ當日ノ起床マテニ於ケル事故及豫報事項ヲ記載スルモノトス但シ報告事項ナキトキハ覺紙ニテ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第二百九十五 日報ノ差出時刻ハ聯隊長之ヲ規定スヘシ

大、中隊ノ日報ハ用濟ノ上之ヲ當該隊ニ返却スルモノトス

第二百九十六 風紀衛兵報告ハ衛兵司令之ヲ作リ交代ノ際週番司令ニ差出スヘシ同官ハ日々之ヲ聯隊長ニ差出スモノトス

風紀衛兵報告ノ様式附表第二ノ如シ本報告ハ聯隊本部日報ト共ニ聯隊本部ニ保存スルモノトス

第二百九十七 准士官ノ命課及下士官ノ異動ニシテ師團司令部未知ノモノ、賞罰ノ著シキモノ、逃亡、收禁、留置等ハ官等級、氏名ト共ニ其ノ都度順序ヲ經テ師團司令部ニ報告シ行軍、演習等ニシテ二日以上ニ互ルモノハ豫メ之ヲ報告スヘシ

將校同相當官准士官職員表ハ隨時差出スヘシ

第三十三章 文書及帳簿

第二百九十八 軍人ノ文書用語ハ簡明確切ニシテ平易ナルヲ要ス

第二百九十九 文書ハ永久ニ互リ效力ヲ有スルモノト一時限一箇年ヲノモノトニ分チ其ノ種類毎ニ綴込ムモノトス

第三百 軍隊ニ備フヘキ帳簿ノ種類及其ノ保存期限ヲ定ムルコト附表第三ノ如シ但シ聯隊長ハ必要已ムヲ得サルモノニ限り補助簿ヲ設クルコトヲ得

第三百一 諸帳簿ニハ其ノ卷首ニ凡例ヲ掲ケ之ニ記スヘキ要件ヲ示スヘシ又帳簿及書類綴ニハ索引ヲ附ケ置クモノトス

第三百二 聯隊本部主任書記ハ公用書翰ニシテ封筒上ニ「親展」「秘」「秘人」ノ表記ナキモノハ之ヲ開キ其ノ要旨、宛名、發翰者及發翰番號ヲ

「親展」「秘」「秘人」ノ表記アルモノハ其ノ宛名、發翰者及發翰番號ノ封筒上ニ發翰番號ナキモノヲ共ニ來翰受付配付簿ニ記シ親展書ハ其ノ儘宛名ノ者ニ届ケ其ノ他ハ副官ニ差出スヘシ

副官ハ前項ノ書類ヲ關係者ニ送り若ハ閱覽者ヲ定メ同覽セシムヘシ

第三百三 總テ文書ヲ閱覽シタルトキハ其ノ證トシテ捺印若ハ花押スルモノトス

第三百四 隊外ニ發送スル文書ハ聯隊長若ハ聯隊ノ名ヲ以テシ職印又ハ部隊印ヲ捺スヲ普通トス但シ特ニ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第三十四章 雜則

第三百五 聯隊副官ノ代理者タル將校ハ通常週番及衛戍勤務ヲ、大、中隊長ノ代理者タル將校ハ通常衛戍勤務ヲ免スルモノトス

第三百六 士官候補生ノ見習士官ヲ除ク

尉候補者將校銓衡會議可、甲種幹部候補生ニハ勤務上ノ責任ヲ負擔セシメサルモノトス  
 下士官候補者ハ衛兵勤務ノ外、初年兵ハ第一期間不寢番ノ外諸勤務ニ服セシメサルヲ例トス  
 第三百七 士官候補生、幹部候補生及短期現役兵ハ特ニ明文アルモノノ外其ノ階級ニ相當スル取扱ヲ爲スモノトス  
 聯隊長ハ士官候補生及下士官ノ居室ノ掃除、物品ノ清拭等ノ爲當番ヲ服務セシムルコトヲ得  
 第三百八 給與ノ爲聯、大隊本部附下士官及馬匹ハ聯、大隊長ノ指定スル中隊ニ分屬スルモノトス  
 第三百九 公務運賃割引證、下士官兵旅客運賃割引證又ハ乗船證ヲ要スル者ハ中隊ニ在リテハ内務班長ヲ經テ曹長ニ、聯、大隊本部ニ在リテハ當該副官退管後ハニ請求スルモノトス  
 大隊副官及曹長ハ公務運賃割引證、下士官兵旅

客運賃割引證、乗船證ノ受渡簿ヲ以テ聯隊副官退管後ハニ請求シ同官ハ公務運賃割引證、下士官旅客運賃割引證、乗船證ニ本人ノ官等級、氏名、年齢及番地等必要ノ記入ヲ爲シ付與スルモノトス  
 第三百十 叙位、叙勳、任免、補職、等身上ニ異動アリタル場合ニ於テハ關係上官ニ對シ申告ヲ爲スモノトス

附 則

本令ハ昭和九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 編制、制度ノ改正等ノ爲必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ陸軍大臣ハ一時所要ノ規定ヲ設クルコトヲ得

一、本令ハ昭和九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 二、編制、制度ノ改正等ノ爲必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ陸軍大臣ハ一時所要ノ規定ヲ設クルコトヲ得  
 三、本令ハ昭和九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 四、編制、制度ノ改正等ノ爲必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ陸軍大臣ハ一時所要ノ規定ヲ設クルコトヲ得

歩兵第何聯隊第何中隊日報		中隊長何某 認	
階級	數	階級	數
大尉		大尉	
中尉		中尉	
少尉		少尉	
曹長		曹長	
一等兵		一等兵	
二等兵		二等兵	
兵		兵	
計		計	

尉候補者 將校銓衡會議可、甲種幹部候補生ニハ  
 勤務上ノ責任ヲ負擔セシメサルモノトス  
 下士官候補者ハ衛兵勤務ノ外、初年兵ハ第一期  
 間不寢番ノ外諸勤務ニ服セシメサルヲ例トス  
 第三百七 士官候補生、幹部候補生及短期現役  
 兵ハ特ニ明文アルモノノ外其ノ階級ニ相當スル  
 取扱ヲ爲スモノトス  
 聯隊長ハ士官候補生及下士官ノ居室ノ掃除、物  
 品ノ清拭等ノ爲當番ヲ服務セシムルコトヲ得  
 第三百八 給與ノ爲聯、大隊本部附下士官及馬  
 匹ハ聯、大隊長ノ指定スル中隊ニ分屬スルモノ  
 トス  
 第三百九 公務運賃割引證、下士官兵旅客運賃  
 割引證又ハ乗船證ヲ要スル者ハ中隊ニ在リテハ  
 内務班長ヲ經テ曹長ニ、聯、大隊本部ニ在リテ  
 ハ當該副官 退管後ハニ請求スルモノトス  
 大隊副官及曹長ハ公務運賃割引證、下士官兵旅

客運賃割引證、乗船證ノ受渡簿ヲ以テ聯隊副官  
 退管後ハニ請求シ同官ハ公務運賃割引證、下士  
 官旅客運賃割引證、乗船證ニ本人ノ官等級、氏  
 名、年齢及番地等必要ノ記入ヲ爲シ付與スルモ  
 ノトス  
 第三百十 叙位、叙勳、任免、補職、等身上ニ  
 異動アリタル場合ニ於テハ關係上官ニ對シ申告  
 ヲ爲スモノトス

附 則

本令ハ昭和九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 編制、制度ノ改正等ノ爲必要已ムヲ得サル場合  
 ニ於テハ陸軍大臣ハ一時所要ノ規定ヲ設クルコ  
 トヲ得

一 本令ハ昭和九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 二 編制、制度ノ改正等ノ爲必要已ムヲ得サル場合  
 三 ニ於テハ陸軍大臣ハ一時所要ノ規定ヲ設クルコ  
 四 トヲ得  
 五 本令ハ昭和九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 六 編制、制度ノ改正等ノ爲必要已ムヲ得サル場合  
 七 ニ於テハ陸軍大臣ハ一時所要ノ規定ヲ設クルコ  
 八 トヲ得

歩兵第何聯隊第何中隊日報		中隊長何某 認 證	
階級	姓名	階級	姓名
大尉		大尉	
中尉		中尉	
少尉		少尉	
曹長		曹長	
班長		班長	
上等兵		上等兵	
二等兵		二等兵	
計		計	





備考		備考									
一	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
三	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
四	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
五	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
六	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

週番(日直)勤務用帳簿

名	職	官階	官階	官階
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...

附表第三五二

名	種	保存期限	備	名	種	保存期限	備
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...

附表第三五四

風紀衛兵所備付帳簿		
名	種	保存期限
...	...	...
...	...	...
...	...	...
...	...	...
...	...	...
...	...	...
...	...	...
...	...	...
...	...	...

附表第三五三

獸醫事務室備付帳簿

名	稱	保存期限	備
馬匹衛生簿	水	久	
病馬	簿	五	年
馬匹診療簿	用	濟	業
馬匹保育簿	簿	五	年
馬匹體重表	表	五	年
馬匹治療日誌	日誌	五	年
診療書類	類	十	年
藥物消耗品交帳簿	簿	三	年
儀器材料器械簿	簿	三	年
備付物品簿	簿	三	年
驗盤工場作業簿	簿	三	年
基礎簿	簿	三	年
保護裝蹄簿	簿	五	年
裝蹄刷毛器械簿	簿	三	年
驗工場材料交帳簿	簿	三	年
蹄鐵工兵出場簿	簿	用	濟
命令簿	簿	一	年
命令指示簿	簿	五	年
講習簿	簿	二	年
教育書類	類	二	年
報告簿	簿	二	年
發給未領簿	簿	二	年
送達簿	簿	一	年
修理申立帳	帳	用	濟
備用帳	帳	二	年

●印字用紙ノハ蹄鐵工長ノ配屬シタル部隊ニ在リテ備付スルモノトス



朕衛戍條例改正ノ件ヲ裁可シ茲  
ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年三月十八日

内閣總理大臣 侯爵 桂 太郎  
陸軍大臣 子爵 寺内正毅

勅令第二十六號

衛 戍 條 例

改正 大正九年八月七日  
加除 勅令第二百三十三號

朕衛戍勤務令ヲ改定シ之カ施行  
ヲ命ス

御名 御璽

昭和三年十一月二日

陸軍大臣 白川義則

軍令陸第三號

衛 戍 勤 務 令

改正 大正五、三、七軍令陸第五號  
加除 大正九、八、七軍令陸第一號  
昭和大正一〇、六、三軍令陸第五號  
昭和三一、一、八、九軍令陸第四號  
昭和三、一、三軍令陸第七號

衛戍條例

**第一條** 陸軍軍隊ノ永久一地ニ駐屯スルヲ衛戍ト稱シ當該軍隊ニ於テ其ノ地ノ警備及陸軍ノ秩序軍紀風紀ノ監視竝陸軍ニ屬スル建築物等ノ保護ニ任ス

**第二條** 衛戍勤務ハ東京ニ在リテハ先任 師團長、要塞所在地 師團司令部所ニ在リテハ要塞司令官其ノ他ニ在リテハ其ノ地駐屯團隊 憲兵隊ノ高級團隊長 朝鮮軍司令官及臺灣衛戍司令官ト爲リ之ヲ管轄スルニトス

要塞所在地ニ於テ前項ノ規定ニ依リ難キトキハ其ノ地所管ノ師團長使宜處置スルコトヲ得

**第三條** 衛戍勤務執行ノ區域ハ衛戍司令官之ヲ定メ其ノ區域ヲ衛戍地ト稱シ其ノ地名ヲ冠シテ某衛戍地ト謂フ

衛戍勤務ニ關シ師團長ハ師管內 朝鮮ニ在リテハル區ノ各衛戍司令官 東京衛戍司令官ヲ除ク、臺灣守備隊司令官ハ其ノ守備區域內ノ各衛戍司令官 要塞司令官ニシテ衛戍司令官ヲ、臺灣軍司令官ハ臺灣ニ於ルタルモノヲ除ク、臺灣守備隊司令官ノ監督シ朝鮮軍司令官ハ第十九、第二十師團長ヲ、臺灣軍司令官ハ臺灣守備隊司令官ヲ統督ス

**第四條** 團隊長又ハ要塞司令官ニシテ衛戍司令官ナルトキハ其ノ部隊ノ副官ハ衛戍副官ヲ兼ヌルモノトス

**第五條** 衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關シテハ其ノ地駐屯ノ軍隊 憲兵隊ヲ指揮シ衛兵ノ部署及其ノ編成ヲ定ム但シ衛戍勤務ハ近衛師團ノ禁闕守衛勤務ヲ妨クルコトナシ

**第六條** 衛戍司令官ハ警備上必要ト認ムルトキ

ハ其ノ管轄ニ屬セサル軍隊ト雖其ノ衛戍地ニ在  
ルモノニ對シ援助ヲ請求シ又ハ憲兵ヲシテ地方  
ノ狀況ヲ報告セシメ且緊急ノ場合ニハ直ニ之ヲ  
命令スルコトヲ得

第七條 前條ノ請求ヲ受ケタル團隊長ハ正當ノ  
理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 衛戍地ニ在ル軍隊ハ衛戍司令官ノ管轄  
ニ屬セサルモノト雖衛戍司令官ノ定メタル衛戍  
ニ關スル諸規則ヲ遵守スヘキモノトス

第九條 衛戍司令官ハ災害又ハ非常ノ際治安維  
持ニ關スル處置ニ付テハ當該地方官ト協議スル  
モノトス

衛戍司令官ハ災害又ハ非常ノ際地方官ヨリ兵力  
ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコト  
ヲ得

其ノ事地方官ノ請求ヲ待ツノ違ナキトキハ兵力  
ヲ以テ便宜處置スルコトヲ得

第十條 衛戍司令官ハ豫メ災害又ハ非常ノ際陸  
軍ニ屬スル諸建築物其ノ他ノ物件ノ救防及警戒

ニ關スル處置ヲ規定シ置クヘシ皇族邸宅、官衙、  
公署等ノ救防及警戒ニ關シ必要アルトキ亦同シ  
東京衛戍司令官ハ前項ノ事項ニシテ宮闕ニ關聯  
スルモノハ近衛師團長ト協議スヘシ

第十一條 軍隊ハ衛戍地外ニ在ルトキト雖其ノ  
任務ニ妨ナキ限リ本令ニ準シ衛戍勤務ヲ行フヘシ

第十二條 關東州及南滿洲ニ在ル軍隊ハ本令ニ  
準シ衛戍勤務ヲ行フヘシ

條二十第一條七第

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令ハ大正九年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

衛戍勤務令

目次

第一章 總則	一
第二章 衛戍司令官ノ職務	一
第三章 衛戍勤務	二
第一款 通則	二
第二款 衛戍衛兵	三
第三款 衛戍巡察	六
第四款 暗號	八
第五款 削除	八
第四章 雜則	八

目次終

衛戍勤務令

第一章 總則

第一 衛戍勤務ハ本令及衛戍條例ニ依リテ之ヲ行フ

第二 本令ニ於テ師團長ト稱スルハ臺灣軍司令官及臺灣守備隊司令官ヲ含ム

第二ノ二 朝鮮ニ在ル師團長若ハ臺灣守備隊司令官ノ統轄スル衛戍司令官ノ兵力ノ使用、衛戍勤務執行ノ區域及兵器ノ使用ニ關スル報告ハ第七、第八及第十二ニ依ルノ外朝鮮軍司令官若ハ臺灣軍司令官ニ報告シ又ハ同官ヲ經ヘキモノトス

第二章 衛戍司令官ノ職務

第三 衛戍司令官ハ衛兵ヲ以テ警備スヘキ箇所、衛兵差遣部隊、衛兵ノ編成並其服務ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

第四 衛戍司令官ハ巡察ヲ出スヘキ兵科、部隊、巡察ノ人員、日時及地域ニ關スル事項ヲ定ムヘシ

第五 衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關シ衛戍地ニ在ル諸部隊ノ長官ニ對シ移牒、命令、訓示ヲ發シ所要ノ通報、報告ヲ求ムルコトヲ得但シ其内務ニ及フコトナシ

衛戍司令官ハ警備上必要ト認ムル諸情報ヲ機ヲ失セス之ヲ所要ノ部隊長並ニ地方官ニ通報スヘシ

第六 衛戍司令官ハ衛戍勤務ニ關スル規定中必要ナル事柄ハ地方官及憲兵ニ通報スヘシ

第六ノ二 衛戍司令官ハ豫メ災害又ハ非常ノ際ニ方リ必要ナル衛戍地ノ警備並治安維持ノ方法ヲ計畫スヘシ

第七 衛戍司令官ハ災害又ハ非常ノ際ニ方リ兵力ヲ用キムトスルトキ若ハ用キタルトキハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ師團長ノ統轄ニ屬スル衛戍司令官ニ在リテハ之ト同時ニ當該師團長ニ報告スヘシ

第八 衛成勤務執行ノ區域ハ衛成司令官之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ師團長ノ統轄ニ屬スル衛成司令官ニ在リテハ當該師團長ヲ經ヘキモノトス  
第九 衛成司令官ハ衛兵所備付物品ノ品目員數ヲ定ムヘシ  
第十 軍港、要港又ハ海軍部隊所在地ノ衛成司令官ハ職務ノ執行ニ關シ海軍ニ關聯スル事柄ハ豫メ海軍官憲ト協議スヘシ

第三章 衛成勤務

第一款 通則

第十一 衛成勤務ハ主トシテ衛成衛兵及衛成巡察ヲ以テ之ヲ行フ  
衛成勤務ニ服スル者ハ其必要ニ應シ各兵科憲兵除ノ者ヲ以テ之ニ充ツ  
第十二 衛成勤務ニ服スル者ハ左ニ記スル場合

ニ非サレハ兵器ヲ用ユルコトヲ得ス  
一 暴行ヲ受ケ自衛ノ爲止ムヲ得サルトキ  
一 多衆聚合シテ暴行ヲ爲スニ當リ兵器ヲ用ユルニ非サレハ鎮壓スルノ手段ナキトキ  
一 人及土地其他ノ物件ヲ防衛スルニ兵器ヲ用ユルニ非サレハ他ニ手段ナキトキ  
衛成勤務ニ服スル者兵器ヲ用キタルトキハ直ニ衛成司令官ニ報告シ衛成司令官ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ師團長ノ統轄ニ屬スル衛成司令官ニ在リテハ之ト同時ニ當該師團長ニ報告スヘシ  
第十三 衛成勤務ニ服スル者ハ其任務ニ妨ナキ限リ左ニ掲クル者ヲ逮捕スルコトヲ得又軍人外ノ犯罪者ト雖之ヲ逮捕ノ爲憲兵又ハ警察官ヨリ援助ノ請求アルトキハ之ニ應スルコトヲ得但シ衛兵司令及其衛兵ノ約半數ハ何レノ場合ニ於テモ衛兵所ヲ離ルルコトヲ許サス  
一 暴行、殺人、逃亡、放火、賭博、強盜、竊盜等ノ現行犯人

一 營内居住ノ下士兵卒勤務ニ依ラス又ハ規定ニ反シテ營外ニ在ル者  
總テ逮捕シタル者ハ軍人軍屬又ハ常人タルトニ依リ成ルヘク速ニ憲兵、警察官又ハ所屬部隊ニ引渡スヘシ  
第十四 衛兵司令及巡察勤務ニ服スル者ハ軍人軍屬ノ現行犯ヲ認ムルトキハ其氏名所屬部隊ヲ尋問シ必要アルトキハ憲兵又ハ所屬部隊ニ引渡スヘシ

第二款 衛成衛兵

第十五 衛成衛兵ハ其警備スル官衙等ノ名稱ヲ冠シ某衛成衛兵ト稱ス  
第十六 衛成衛兵ノ服務ハ通常二十四時間トシ一哨所ニ兵卒三名ヲ充テ單哨ニシテ概ネ一時間毎ニ交代スルモノトス但シ衛成司令官ハ必要ニ應シ其兵數ヲ増加シ哨所ノ數ヲ増シ又ハ複哨下士哨ト爲スコトヲ得

第十七 衛成司令官ハ衛成衛兵ヲ衛成地外ニ在ル彈藥庫火藥庫等ニ備フルトキト稱ス又ハ警備上其他必要ト認ムルトキハ衛成衛兵ヲシテ約一週間若ハ必要期間連續服務セシムルコトヲ得  
第十八 衛成衛兵ノ服裝ハ陸軍服裝規則ノ定ムル所ニ依ル  
第十九 衛成衛兵ハ其服務中通常背囊ヲ負ハサルモノトス  
第二十 衛成衛兵ハ衛成司令官ノ指定セル書籍ノ外閱讀スヘカラス又許可ナクシテ衛兵所ヲ離ルヘカラス衛兵司令官離ルルヲ要スルトキハ代理者ヲ命シ置クヘシ(內務一四九)  
第二十一 衛成司令官ハ夜間衛兵ノ約三分ノ一ニ衛兵所ニ於テ假眠ヲ許シ又毛布、枕、蚊帳ノ使用ヲ許スコトヲ得  
第二十二 衛成司令官ハ數日間連續服務スル衛成衛兵ニシテ必要ト認メタルモノニ限リ其人員ヲ指定シテ之ニ晝夜共就眠又ハ假眠ヲ許スコト

ヲ得  
前項ノ衛兵所ニ在リテハ寢具ヲ備付クルコトヲ得  
第二十三 衛兵所ニハ非常用トシテ實包ヲ備フ但シ其彈藥函ノ鍵ハ衛兵司令之ヲ保管シ衛兵司令官ノ命令アルカ又ハ萬已ムヲ得サルニ非サレハ實包ヲ分配スヘカヲ  
第二十四 緊急ノ場合ニ備フル爲衛兵所ニハ衛兵司令官、最寄軍隊、憲兵隊、警察署、消防署等ノ所在及之ニ通スル道路ヲ示シタル要圖ヲ備ヘ必要ナル電話番號等ヲ記シ置クヘシ  
第二十五 衛兵司令ハ勤務ノ輕重ニ應シ將校、准士官又ハ下士ヲ以テ之ニ充テ衛舍掛歩哨掛ハ下士若ハ上等兵ヲ以テ之ニ充ツ  
衛兵ノ人員少キトキハ一名ヲシテ衛舍掛歩哨掛ヲ兼ネシメ又上等兵ヲ以テ衛兵司令ト爲スコトヲ得  
第二十六 衛兵司令ハ衛兵司令官ノ命ヲ承ケ其任務ニ服シ且衛兵所及備付物品ノ清潔保存ノ責

ニ任ス  
第二十七 衛兵司令ハ歩哨ヲ出スヘキ哨所ノ數、巡察若ハ斥候ノ規定、災害又ハ非常ノトキニ於ケル處置竝門ノ出入ヲ許スヘキ者及物品持出ニ付テハ豫メ衛兵司令官ノ指示ヲ受クヘキモノトス  
第二十八 衛兵交代ノ際下番衛兵ハ通常衛兵所ノ前ニ於テ其左方ニ上番衛兵ノ爲餘地ヲ置キ整列シ兩衛兵ハ部隊相互ノ敬禮ヲ行ヒ下番衛兵司令ハ必要ノ申送ヲ爲シ歩哨ノ交代、物件ノ受渡ヲ了ヘタル後再ヒ部隊相互ノ敬禮ヲ行ヒ下番衛兵ハ退場ス  
第二十九 衛兵司令ハ衛兵交代後直ニ各哨所ヲ巡視シ歩哨ニ其守則ヲ試問スヘシ爾後屢ニ巡察シ歩哨ノ勤惰ヲ監視シ非違ヲ戒メ特ニ火災豫防ニ注意スヘシ  
第三十 衛兵司令ハ門ノ出入若ハ倉庫ノ開扉等ヲ請フ者アルトキハ自ラ之ヲ檢シ疑ナキコトヲ確認スルニ非サレハ許スヘカラス但シ守警若ハ守衛ニ於テ之ヲ檢スルノ規定アルモノハ此限ニ

在ラス  
第三十一 衛兵司令ハ門ノ出入多キトキ又ハ倉庫開扉中等必要ト認ムルトキハ一時哨兵ヲ増スヘシ  
第三十二 數日間連續服務スル衛兵司令官ハ警備ニ差支ナキ限リ衛兵ヲシテ教練ヲ行ハシムヘシ  
第三十三 衛兵司令ハ衛兵中勤務ニ堪ヘ難キ病者ヲ生シ又ハ刑法ニ該ル犯人アリテ交代ヲ要スルトキハ直ニ當該所屬隊ニ交代者ヲ請求スヘシ  
第三十四 衛兵司令ハ衛兵所備付物品中修理又ハ交換ヲ要スルモノ及消耗品ハ之ヲ衛兵所屬ノ官廳ニ請求スヘシ但シ故意又ハ過失ニ依ル破損損失ニ付テハ始末書ヲ徴シ衛兵司令官ニ差出スヘシ  
第三十五 衛兵司令ハ火災及非常ノ際等至急ヲ要スルモノハ即時、其他服務中ノ出來事ハ衛兵交代ノトキ報告表ニ記入シ衛兵司令官ニ報告スヘシ

下番衛兵司令ハ服務中ノ狀態ヲ歸隊ノ後週番司令ニ報告スヘシ  
第三十六 衛舍掛ハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ當番卒ヲ指揮シ衛兵所竝之ニ屬スル建物等内外ノ清潔保存ニ任シ備付物品ヲ監守シ特ニ火元取締ニ任スヘシ  
第三十七 上番衛舍掛ハ衛兵交代ノトキ下番衛舍掛立合ニテ衛兵所哨舍其他諸物品ヲ檢シ之ヲ受領スヘシ若シ破損損失アルトキハ下番衛舍掛ヨリ其證明書ヲ徴シ之ヲ衛兵司令ニ差出スヘシ  
第三十八 歩哨掛ハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ歩哨ノ交代ヲ掌リ哨舍ノ清潔保存ニ任シ歩哨ヲシテ服裝ヲ正フシ守則ヲ熟知シ且嚴密ニ之ヲ實施セシムヘシ  
第三十九 衛兵交代ノトキ歩哨掛ハ上番歩哨ヲ率キテ哨所ニ至リ下番歩哨ニ向キ合ヒ又ハ之ニ竝ハシメ下番歩哨掛立合ニテ守則ノ申繼及其服務中見聞セシ事件ノ傳告ヲ受ケシムヘシ  
衛兵交代ノ場合ニ非サル歩哨ノ交代モ亦之ニ準

ス  
 第四十 步哨ハ嚴ニ守則ヲ守リ常ニ耳目ヲ働カシ警戒ヲ怠ルヘカラス  
 第四十一 步哨ハ常ニ姿勢動作ヲ正クシ用務ノ外他人ト談話スヘカラス又頭巾ヲ冠ルコトヲ禁ス  
 第四十二 步哨ハ雨雪ノトキ哨舎ニ入ルコトヲ得但シ特ニ警戒ヲ要スルトキ又ハ敬禮ヲ行フ際ハ哨舎ヨリ出ツヘシ  
 第四十三 步哨ハ衛戍勤務ニ關係アル上官及直屬系統ノ團隊長ニ非サレハ之ニ守則ヲ語ルヘカラス  
 第四十四 步哨ハ特ニ定メラレタル場合ノ外哨所ノ位置ヨリ三十歩以外ノ地ニ行動スルコトヲ禁ス  
 第四十五 步哨ハ衛兵所又ハ鄰リ步哨ニ警報セムトスルトキハ「氣ヲ著ケ」ト呼ヒ且機ヲ失セス携帯スル警報器其他固定警報器ヲ使用スル等ノ手段ニ依リ迅速ニ目的ヲ達成スルコトニ努ムヘシ

シ  
 第四十六 步哨ハ左ノ場合ヲ除クノ外銃ニ劍ヲ著クヘカラス  
 一 夜間  
 一 警備上必要アルトキ  
 一 別命アルトキ  
 第四十七 步哨ノ敬禮ハ哨所ノ位置ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ其位置ニ復スルノ違ナキトキハ現位置ニ於テ行フモ妨ナシ  
 衛舎前ニ在ル步哨ハ陸軍禮式ニ依リ衛兵整列ノ敬禮ヲ受クヘキ者來ルトキハ「整列」ト呼フヘシ(陸禮七五)  
 第四十八 衛兵ノ勤務ニ關シテハ本款ノ外陣中要務令前哨勤務ノ規定ヲ準用ス  
 第三款 衛戍巡察  
 第四十九 衛戍巡察ハ衛兵ノ勤惰ヲ監察シ定メラレタル場所ヲ巡回シ軍人軍屬ノ非違ヲ戒メ又災害若ハ非常ノ際ニ方リテ治安維持ノ爲指定ノ

地域ヲ監視スルモノトス  
 第五十 衛戍巡察ハ將校又ハ准士官ヲ以テ之ニ充テ必要ニ應シ之ニ下士兵卒ヲ附屬ス  
 第五十一 衛戍司令官ハ巡察ノ數、種類、日時及巡察スヘキ場所又ハ區域ヲ定ム若シ巡察スヘキ區域廣キトキハ數箇ニ分チ巡察セシム  
 第五十二 衛戍巡察ヲ分チテ第一種巡察第二種巡察トス  
 第五十三 第一種巡察ハ主トシテ衛兵ノ勤惰ヲ監察シ兼テ軍人軍屬ノ非違ヲ戒ムルモノトス  
 第一種巡察ハ通常一週間服務スルモノニシテ毎日少クモ一回定メラレタル箇所ヲ巡察ス  
 第五十四 第二種巡察ハ主トシテ軍人軍屬ノ非違ヲ戒ムルモノニシテ休日其他臨時ニ外出ヲ許シタル場合ニ於テ定メラレタル區域ヲ各隊ヨリ巡察セシムルモノトス(内務書一〇五ノ三)  
 第五十五 衛戍巡察勤務ニ服スル者ノ服裝ハ第十八ニ同シ  
 第五十六 衛戍巡察ハ衛兵ヲ監視シ若シ過誤懈

怠等ノ所爲アリタルトキハ之ヲ矯正シ其狀況ヲ當該衛兵司令ニ通告スヘシ  
 衛戍巡察ハ衛兵ヲ整列セシメ之ヲ検査スルコトヲ得但シ衛兵司令ニシテ衛戍巡察ヨリ上級ナルトキハ次級ノ者其整列ノ指揮ヲ執ルモノトス  
 第五十七 衛戍巡察ハ必要ト認メタルトキハ定メラレタル地域外ト雖監視スヘキモノトス  
 第五十八 衛戍巡察ハ軍人軍屬ノ非違ヲ認メタルトキ下級者ニ在リテハ直ニ之ヲ矯正シ必要アルトキハ其違反者ヲ最寄憲兵若ハ所屬部隊ニ引渡シ上級者ニ在リテハ其非違ノ行爲ナルコトヲ進言シ官職氏名ヲ聞キ取り其顛末ヲ衛戍司令官ニ報告スヘシ  
 第五十九 衛戍巡察ハ其巡察中ノ出來事ニシテ至急ヲ要スルモノハ即時其他ハ勤務ヲ終リタル後衛戍司令官ニ報告スヘシ  
 第六十 衛戍勤務ニ服スル者ノ直屬系統ノ團隊長ハ部下服務ノ状態ヲ監視スル爲時々監視スヘシ

前項ノ巡視ヲ爲シタルトキ必要ト認メタル事柄ハ之ヲ衛戍司令官ニ報告スヘシ  
第六十一 軍隊内務書ノ規定ニ依リ各隊ヨリ出シタル巡察ハ第二種巡察ニ屬ス(内務書一〇五ノ三)

第四款 暗 號

第六十二 暗號ハ特別ノ場合ニ於テ夜間之ヲ用ユルモノトス  
第六十三 衛戍司令官ハ暗號及之ヲ用ユルノ時機並其傳達方ヲ定ムヘシ  
第六十四 暗號ヲ用ユルトキ歩哨、巡察等ノ間查法ハ陣中要務令前哨勤務ノ規定ヲ準用スヘシ(陣中一八八及二二八)

第五款 削 除

第六十五 削 除  
第六十六 削 除

第四章 雜 則

第六十七 現役軍人ハ當該衛戍地外ニ居住スルコトヲ得ス但シ衛戍司令官必要ニ應シ衛戍地外ノ居住ヲ許可スルコトヲ得  
第六十八 衛戍司令官ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外儀式、禮式、祭典等ノ爲軍隊及軍人軍屬集合スルトキ其集合所ヲ指定シ且靜肅及秩序ヲ維持スル爲必要ノ處置ヲ爲スヘシ  
第六十九 衛戍司令官ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外儀式、禮式、祭典等ノ爲出場スヘキ軍隊、軍人及制服ヲ著スヘキ軍屬ノ服裝ヲ定ムヘシ  
第七十 衛戍司令官ハ儀式、禮式、祭典等ノ際ニ於ケル儀仗兵、總代及禮砲ニ關シテハ各其規定ニ從ヒ之カ處置ヲ爲スヘシ  
第七十一 衛戍司令官ハ必要ニ應シ街路ノ雜沓及危害ヲ避クル爲行軍隊形、行進速度等ヲ制限シ其他所要ノ方法ヲ定メ且風紀ニ害アリト認ム

ル場所及傳染病流行地域ニ軍人軍屬ノ出入ヲ禁スルコトヲ得  
第七十二 衛戍司令官ハ衛戍地及其附近ニ於テ兵器、俘虜、囚人、刑事被告人ノ護送及法廷又ハ死刑執行ノ場所ヲ警衛スル等ノ爲護衛兵ノ請求ヲ受ケタルトキハ衛戍地ノ軍隊ヨリ所要ノ護衛兵ヲ出サシムヘシ  
第七十三 衛戍司令官ハ命令及報告等ノ傳達ニ任スル爲衛戍地ノ軍隊ヨリ所要ノ人員ヲ出サシムルコトヲ得  
第七十四 一時衛戍地ニ宿營スル軍隊ノ指揮官ハ其目的及豫定日時ヲ衛戍司令官ニ通報シ且衛戍上ニ關スル指示ヲ受クヘシ  
第七十五 關東州及南滿洲ニ在ル軍隊ハ本令ニ準シ衛戍勤務ヲ行フヘシ

附 則

本令ハ昭昭三年十一月二日ヨリ之ヲ施行ス



陸達第三十六號  
陸軍禮式別冊ノ通改正ス  
明治四十三年九月二十二日  
陸軍大臣 子爵 寺内正毅

軍令陸第五號  
陸軍禮式

陸達第三十六號  
陸軍禮式附錄別冊ノ通改正ス  
明治四十三年九月二十二日  
陸軍大臣 子爵 寺内正毅

軍令陸第五號  
陸軍禮式附錄

陸軍禮式目次

1 次 目

第一編 總則	一
第二章 敬禮	二
第一章 通則	二
第二章 軍人ノ敬禮	四
第一節 最敬禮	四
第二節 室內ノ敬禮	四
第三節 室外ノ敬禮	六
第三章 軍隊ノ敬禮	九
第一節 停止間ノ敬禮	九
第二節 行進間ノ敬禮	一
第三節 教練間ノ敬禮	二
第四章 衛兵ノ敬禮	三
第五章 步哨敬禮	四
第三編 儀式	五
第一章 通則	五
第二章 儀	五
第三章 堵列	六

第四章 伺候式	一七
第五章 觀兵式	一七
第六章 禮砲式	一八
第七章 軍旗迎送式	一九

# 陸軍禮式

## 第一編 總 則

**第一條** 本令ハ陸軍軍人、軍隊ノ敬禮及陸軍ノ儀式ヲ定ム

**第二條** 本令中禮式ト稱スルハ敬禮及儀式ヲ總稱ス

軍人ト稱スルハ陸軍ノ制服ヲ着用シタル將校、同相當官、准士官、下士及兵卒ヲ謂フ

將校ト稱スルハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外將校相當官ヲ含ム

上官ト稱スルハ官等級ノ上ナル軍人ヲ謂フ

隊長ト稱スルハ獨立隊長及之ヨリ以上ノ軍隊ノ長ヲ謂フ

軍隊ト稱スルハ引率者アル軍人ノ隊伍ヲ謂ヒ隊長ト稱スルハ軍隊ヲ引率スル者ヲ謂フ

衛兵ト稱スルハ衛戍衛兵及風紀衛兵ヲ謂ヒ歩哨ト稱スルハ野外勤務以外ノ歩哨ヲ謂フ

野戰砲兵ト稱スルハ野砲兵、騎砲兵ヲ合シ及山砲兵ヲ謂フ

**第三條** 皇后、太皇太后及皇太后ニ對スル禮式ハ天皇ニ對スル禮式ニ準ス

前項以外ノ皇族及天皇ノ御名代ニ對シテハ公式ノ場合ニ限り前項ニ準シ禮式ヲ行フ但シ特ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

**第四條** 外國ノ元首及皇族ニ對シテハ公式ノ場合ニ限り其ノ時時ノ命令ニ依リ前條ニ準シ禮式ヲ行フ

**第五條** 武官タル皇族ハ官等相當ノ禮式ニ從フ

**第六條** 將校ニシテ上級ノ職務ヲ執リ又ハ之ヲ代理スル者ハ其ノ本官相當ノ禮式ニ從フ但シ上級ノ職務ヲ執リタル場合ニ於テハ其ノ部下ニ限リ職務相當ノ禮式ヲ行フ

**第七條** 准士官及見習士官 見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官ハ將校ノ禮式ニ從フ

第八條 士官候補生及主計候補生 見習士官、見  
 ハ其ノ階級ニ應シ下士又ハ兵卒ノ禮式ニ其ノ他  
 ノ陸軍諸生徒ハ兵卒ノ禮式ニ從フ  
 上等兵及上等看護卒ニシテ下士勤務ニ在ル者ハ  
 下士ノ禮式ニ從フ  
 第九條 重砲兵隊中繫駕スルモノハ野戰砲兵隊  
 ノ禮式ニ從スルモノハ歩兵隊ノ禮式ニ準ス  
 第十條 皇室ノ祭儀及禮典ニ際シ特ニ行フヘキ  
 禮式及近衛守衛隊ノ禮式ハ別ニ定ムル所ニ依ル  
 第十一條 軍人海軍所屬ノ艦艇ニ乗組ミ又ハ公  
 然之ヲ訪問スル場合ニ於ケル特種ノ禮式ハ海軍  
 所定ノ禮式ニ依ル

第二編 敬 禮

第一章 通 則

第十二條 軍人ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外  
 上官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同級

者ハ互ニ敬禮ヲ交換スヘシ(一四、一八ノ三、  
 二〇ノ四)  
 敬禮ヲ行フトキハ通常受禮者ノ答禮終ルヲ待チ  
 舊姿勢ニ復スルモノトス  
 答禮ハ場合ニ依リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ且  
 注目スルコトヲ以テ舉手注目又ハ刀ノ禮ニ代ウ  
 ルコトヲ得  
 第十三條 軍人廉アル場合ニ於テ「君カ代」ノ奏  
 樂ヲ聞クトキハ其ノ間姿勢ヲ正スヘシ  
 第十四條 軍人職務上皇族又ハ上官ニ隨從スル  
 トキハ通常敬禮ヲ行フトナシ  
 第十五條 官等等級ノ識別ニ困難ナル場合ニ在  
 リテハ先後ヲ論セス互ニ敬禮ヲ行フヘシ  
 第十六條 軍人單獨ノ敬禮ハ面識アル上官ニ對  
 シテハ其ノ著服ノ如何ニ關セス之ヲ行フヲ禮ト  
 ス  
 第十七條 海軍軍人、軍隊及和親國ノ陸海軍將  
 校ニハ陸軍軍人、軍隊ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ  
 行フヘシ

第十八條 二人以上ノ上官ニ對スル敬禮ハ特ニ  
 規定アル場合ヲ除クノ外軍隊ニ在リテハ最高級  
 ノ人ニ對シテ之ヲ行ヒ軍人ニ在リテハ先ツ最高  
 級ノ人ニ對シテ行ヒ次ニ他ノ上官一同ニ對シテ  
 之ヲ行フヘシ  
 前項ノ場合ニ於テハ最高級ノ人ノミ答禮スルヲ  
 例トス  
 職務上皇族又ハ上官ニ隨從スル軍人ニ對シテハ  
 敬禮ヲ行フトナシ  
 第十九條 軍旗ハ天皇ニ對スルトキ及拜神ノ場  
 合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フトナシ  
 旗手、軍旗衛兵及軍旗中隊ハ軍旗ノ敬禮ヲ行フ  
 場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行ハス  
 第二十條 天皇ニ對スル儀式及祭典ノ爲整列シ  
 アル軍隊ハ天皇ニ對スル場合ヲ除クノ外敬禮ヲ  
 行フトナシ  
 一般ノ觀兵式ニ整列シタル軍隊ハ天皇及觀閱者  
 ニ對スル場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行ハス  
 儀仗服務中ノ儀仗兵並會葬ノ儀仗兵ハ特ニ規定

アル場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フトナシ但シ儀  
 仗衛兵ノ歩哨ハ此ノ限ニ在ラス(九六、九七)  
 軍人、軍隊及衛兵ハ前三項ノ軍隊ニ對シテ敬禮  
 ヲ行ハサルモノトス  
 第二十一條 軍人及軍隊行進間ノ敬禮ハ速歩 乘  
 ノトキニ於テ行フモノトス但シ軍人ニシテ武器  
 ハ常歩ニ於テ行フモノトス但シ軍人ニシテ武器  
 ヲ携持セサルトキハ歩調ヲ取ルコトナク敬禮ス  
 ルモノトス  
 前項ノ者至急ノ用務ヲ帶フルトキハ其ノ旨ヲ告  
 ケ 駈歩 乘馬ノトキハ 儘敬禮ヲ行フモ妨ナシ  
 第二十二條 軍隊及衛兵停止間ニ於テ敬禮ヲ爲  
 スニハ目迎目送ヲ行フヘシ目迎目送ハ捧銃、捧  
 刀等ヲ爲ス場合ニ其ノ操作ヲ終リタル後直ニ頭  
 ヲ右(左)ニ向ケ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノ  
 ニ注目シ立銃、肩刀等ノ動令ニテ頭ヲ正面ニ復  
 シ立銃、肩刀ノ儘若ハ單ニ姿勢ヲ正シテ敬禮ヲ  
 行フ場合ニハ頭右(左)ノ號令ニ依リ目迎目送ヲ

爲シ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正而ニ復スルモノトス  
位置ノ關係ニ依リ目迎目送ヲ爲ス能ハサルトキハ頭ヲ敬禮ヲ受クヘキモノニ向ケ注目ヲ爲スヘシ

第二十三條 大隊以上ハ騎兵ニ在リテハ軍隊敬禮ハ停止間ニ在リテハ大隊騎兵ニ在リテハ聯隊ニ在リテハ中隊毎ニ之ヲ行フヲ例トス

第二十四條 軍隊及衛兵ノ敬禮ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外夜間之ヲ行フコトナシ

第二章 軍人ノ敬禮  
第一節 最敬禮  
第二十五條 天皇ニ拜謁スルトキ室内ニ於テハ最敬禮ヲ行フヘシ  
最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ取り先ツ天皇ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ前約四十五度ニ傾ケ頭ヲ正シク上

第二章 軍人ノ敬禮

第一節 最敬禮

第二十五條 天皇ニ拜謁スルトキ室内ニ於テハ最敬禮ヲ行フヘシ  
最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ取り先ツ天皇ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ前約四十五度ニ傾ケ頭ヲ正シク上

體ノ方向ニ保チ帽ハ右手ニテ其ノ庇ヲ摘ミ之ヲ右股ニ接シテ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシム刀ヲ佩フルトキハ柄ヲ後ニシ左手ニテ銀部ヲ握ルモノトス

第二十六條 前條ノ最敬禮ハ玉座ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ之ヲ行フモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ先ツ御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入りテ直ニ敬禮ヲ行ヒ更ニ進ミテ最敬禮ヲ爲シ最敬禮終リタルトキハ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スヘシ

前項ノ敬禮ハ最敬禮ヲ除クノ外總テ體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チテ行フモノトス

第二十七條 賢所參拜其ノ他拜神ノトキハ拜禮ヲ行フヘシ  
拜禮ノ方法ハ神靈ニ對シ最敬禮ト同一ノ方法ヲ以テ行フモノトス

第二節 室内ノ敬禮

第二十二條 上官ヨリ書類其ノ他ノモノヲ受ケ又ハ上官ニ之ヲ呈セムトスルトキハ敬禮ノ後適宜前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈シタル後舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ但シ銃又ハ槍ヲ携フルトキハ左手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈ス若シ捧銃、捧槍ヲ爲スコト困難ナルトキハ立銃、立槍ノ儘敬禮スルコトヲ得(五〇)

前項ノ場合ニ於テ返簡若ハ受領證ヲ受クヘキトキハ適宜ノ位置ニ退キ之ヲ待ツヘシ

上官ヨリ書類ヲ受ケ其ノ場ニ於テ披見ヲ要スルトキハ左手ヲ副ヘテ披見スヘシ但シ銃又ハ槍ヲ携フルトキハ之ヲ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ騎銃ニ在リテハ銃身ヲ右 右手ヲ副ヘテ披見スヘシ負革ヲ右臂ニ懸ク

上官ヨリ官記、位記、勳記、功記及辭令書、賞

第二十八條 室内トハ居室、寢室、事務室及應接所等ヲ謂ヒ衛兵所、廊下、炊事場及厩等ハ室外トス但シ行幸、行啓アリタルトキニ限り廊下モ亦室内ト看做ス

第二十九條 室内ノ敬禮ハ體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾ケ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目スルノ外最敬禮ニ同シ

室内ニ入ラムトスルトキハ室外ニ於テ脱帽スヘシ

下士兵卒銃又ハ槍ヲ携フルトキハ前二項ニ依ラ

ス室外ノ敬禮ヲ行フモノトス(三七ノ二、三)

將校ニシテ下士兵卒ノ室内ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ナシ此ノ場合ニハ室外ノ敬禮ヲ行フモノトス(三六)

第三十條 參内及參殿ノ節ハ昇殿ノ際ヨリ脱帽スヘシ

賢所參拜其ノ他祭典ニ參列スルトキハ賢所正門又ハ祭場ニ入ルトキヨリ脱帽スヘシ

第三十一條 上官ノ室内ニ入ルトキハ上官ニ面

シ入口ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ其ノ室ヲ去ルトキ亦同シ

第三十二條 上官ヨリ書類其ノ他ノモノヲ受ケ又ハ上官ニ之ヲ呈セムトスルトキハ敬禮ノ後適宜前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈シタル後舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ但シ銃又ハ槍ヲ携フルトキハ左手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈ス若シ捧銃、捧槍ヲ爲スコト困難ナルトキハ立銃、立槍ノ儘敬禮スルコトヲ得(五〇)

前項ノ場合ニ於テ返簡若ハ受領證ヲ受クヘキトキハ適宜ノ位置ニ退キ之ヲ待ツヘシ

上官ヨリ書類ヲ受ケ其ノ場ニ於テ披見ヲ要スルトキハ左手ヲ副ヘテ披見スヘシ但シ銃又ハ槍ヲ携フルトキハ之ヲ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ騎銃ニ在リテハ銃身ヲ右 右手ヲ副ヘテ披見スヘシ負革ヲ右臂ニ懸ク

上官ヨリ官記、位記、勳記、功記及辭令書、賞

狀等ヲ受クルトキハ其ノ場ニ於テ披見スルヲ例トス  
 命令、訓示等ヲ受ケ又ハ報告ヲ爲サムトスルトキ亦前諸項ニ準ス  
**第三十三條** 上官室内ニ來ルトキハ立チテ敬禮ヲ行ヒタル後各其ノ業務ニ服シ上官其ノ室ヲ去ルトキハ再ヒ立チテ敬禮ヲ行フヘシ但シ上官ニ應答スル者ハ其ノ間起立スルモノトス  
 下士兵卒ノ室内ニ將校來ルトキハ前項ニ拘ラス最初之ヲ認メタル者「敬禮」ト呼ビ其ノ室ニ在ル者皆其ノ場ニ立チ敬禮ヲ行ヒ將校ノ許可アリタル後各其ノ業務ニ服スヘシ但シ検査、點呼等ノ場合ニ在リテハ最高級ノ者號令ヲ以テ一般ニ不勳ノ姿勢ヲ取ラシメ敬禮ヲ行フヘシ  
 講堂等ニ於テ授業若ハ作業中ニ在リテハ教官若ハ監視者ノミ敬禮ヲ行ヒ前二項ノ敬禮ヲ省略セシムルモ妨ナシ  
**第三十四條** 勅使ニ對シテハ上官ト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ

**第三十五條** 廉アル宴會ニ於テ上官ト同席スルトキハ上官ヨリ先ニ椅子ニ倚リ又ハ食卓ニ就キ若ハ之ヲ離レ又ハ喫烟スルコトナキヲ禮トス  
 上官ヨリ廉アル宴會等ニ招カレ其ノ參著及退散ノトキハ帶刀(劍)シテ挨拶スルヲ例トス

第三節 室外ノ敬禮

**第三十六條** 室外ニ於テハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外舉手注目ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ右手ヲ舉クルコト能ハサルトキハ其ノ儘受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ  
 舉手注目ノ禮ハ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ其ノ指ヲ接シテ伸ハシ食指ト中指トヲ帽ノ庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高サニ齊クシ頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目ス  
**第三十七條** 將校拔刀ノ場合ニ於テ天皇又ハ軍旗ニ對シ敬禮ヲ行フトキ其ノ他特ニ規定アル場合ニハ刀ノ禮ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ在リテハ肩

刀ニテ姿勢ヲ正シ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ但シ將校相當官ハ刀ノ禮ヲ行フトコトナシ  
 下士兵卒銃若ハ槍ヲ携ヘ又ハ拔刀シタル場合ニ於テ敬禮ヲ行フトキハ天皇又ハ軍旗ニ對シテハ著劍又ハ起劍捧銃 輜重兵ニ在リ捧刀又ハ捧槍馬ノトキハ立ヲ爲シ目迎目送ヲ行ヒ上官ニ對シテハ行進間ニ在リテハ正規ノ歩法ヲ取り頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ停止間ニ在リテハ將校ニ對シテハ捧銃捧刀又ハ捧槍ヲ爲シ目迎目送ヲ行ヒ下士兵卒ニ對シテハ姿勢ヲ正シ立銃、肩刀又ハ立槍ヲ爲シ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ  
 下士兵卒喇叭ヲ手ニスルトキハ其ノ持方ヲ變スルコトナク銃、刀又ハ槍ニ關スル動作ヲ除ク外前項ニ準シ敬禮スルモノトス  
**第三十八條** 野外ニ於テ天皇ニ奏上スルトキハ玉座ヲ距ル約六歩ノ所ニ至リ敬禮シ適宜ノ距離

ニ進ミテ奏上シ奏上終リタルトキハ玉座ヲ距ル約六歩ノ所迄退歩シテ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ  
**第三十九條** 途上ニ於テ行幸ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ於テ車駕ノ通路ニ面シテ停止シ 乘馬者ハ其ノ儘 車駕約八歩前ニ近ツクトキ敬禮ヲ行ヒ約八歩過去ル迄其ノ姿勢ヲ保シヘシ  
 汽車、汽船等ニテ通御ノ際亦前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ  
**第四十條** 行進間ニ於テ軍旗トキ以下同シ 若ハ上官ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ將校ニ在リテハ其ノ儘敬禮ヲ行ヒ下士兵卒ニ在リテハ軍旗若ハ所屬團隊長、獨立隊内ニ於ケル大隊(隊)有スル學校長タル將官、佐官及ニ對シテ(生徒)隊長、同隊中隊長ヲ含ム 敬禮(生徒)隊長、同隊中隊長ヲ含ム 敬禮ニ對シテハ之ニ面シテ停止シ其ノ他ノ上官ニ對シテハ行進ノ儘頭ヲ受禮者ノ方ニ向ケテ敬禮ヲ行フヘシ

前項ノ團隊長ト他ノ上官ト同行スル場合ニハ下士兵卒ハ停止シ第十八條ニ準シテ敬禮ヲ行フヘシ

**第四十一條** 停止間ニ於テ上官其ノ傍ヲ通過スルトキハ之ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ

上官ノ許ニ至ルトキハ適宜ノ距離ニ於テ之ニ面シテ停止シ敬禮ヲ行フヘシ

**第四十二條** 上官ノ後方ヨリ進ミテ之ヲ通り過キムトスルトキハ其ノ旨ヲ告ケテ通過スヘシ

**第四十三條** 途上ニ於テ勅使ニ遇フトキハ行進ノ儘敬禮ヲ行フヘシ

**第四十四條** 途上ニ於テ軍人ノ葬儀ニ遇フトキハ官職ノ如何ヲ問ハス其ノ概ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

**第四十五條** 上官ノ引率スル軍隊ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ隊長ニ敬禮ヲ行フヘシ

**第四十六條** 軍隊ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ隊長ニ答禮スルモノトス

**第四十七條** 室外ニ於テ上官ノ窓隔内ニ在ルヲ

認メタルトキハ敬禮ヲ行フヘシ室内ニ於テ窓隔外ニ在ル上官ヲ認メタルトキ亦同シ

**第四十八條** 一、二等卒及之ト同級ノ者ハ歩哨ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

**第四十九條** 汽車、電車、馬車、人力車及船等ニ乘リタルトキ上官ニ行遇ヒ若ハ其ノ傍ヲ通過シ又ハ船、車内ニテ上官ニ遇フトキハ乗座ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮スルモ妨ナシ但シ船、車内ニ於テハ成ルヘク上官ニ其ノ席ヲ讓ルヲ禮トス

船、車内ニ於テ敬禮ヲ行フニ危險ヲ感スルトキ又ハ自轉車ニ乘リタルトキハ單ニ注目ヲ以テ敬禮ニ代ウルコトヲ得

船、車等ニ乘レル上官ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ之ニ敬禮ヲ行フヘシ

**第五十條** 室外ニ於テ上官ヨリ書類其ノ他ノモノヲ受ケ又ハ呈セムトスルトキハ室外ノ敬禮ヲ行フノ外其ノ動作ハ室内ニ於ケルモノニ同シ

(三二)

上官ヨリ命令、訓示等ヲ受ケ又ハ報告ヲ爲サム

トスルトキ亦前項ニ準ス

前二項ノ場合ニ於テ乗馬者徒歩ノ上官ニ對スルトキハ野外勤務ニ於ケル傳令ノ場合ヲ除クノ外ハ敬禮ヲ行ヒタル後下馬スヘシ但シ上官ノ許可アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第五十一條** 上官ト同行スルトキハ上官ノ行進ヲ妨ケサル如ク其ノ左側ニ二人以上ナルト又ハ後方ニ就キ上官ノ步調ニ合ハスヲ禮トス但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラス

**第五十二條** 下士兵卒集團シ又ハ同行スルトキ上官ニ行遇ヒ又ハ上官其ノ傍ヲ通過スルトキ其ノ他敬禮ヲ行フヘキ場合ニ於テハ最初之ヲ認メタル者要スレハ「敬禮」ト呼ビ注意スヘシ

**第五十三條** 演習中上官ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ敬禮ヲ行フコトナク單ニ其旨ヲ告知スヘシ

第三章 軍隊ノ敬禮

第一節 停止間ノ敬禮

**第五十四條** 天皇ニ對シテハ車駕ノ通路ニ正面騎兵、野戰砲兵、輜重兵ニシテ途上縱隊シテ隊ナルトキ已ムヲ得サレハ其ノ儘以下同シ

隊列ヲ正シ武裝 軍裝若ハ略裝ニテ武器ヲシタルトキハ步兵、工兵ハ著劍捧銃ヲ行ヒ騎兵ハ起劍捧銃、捧刀、捧槍若ハ立槍シ野戰砲兵ハ姿勢ヲ正シ輜重兵ハ捧銃若ハ捧刀シ馱馬又ハ車輛ヲ牽ク部隊ハ姿勢ヲ正シ當該部隊ニ屬スル將校ハ刀ノ禮ヲ爲シ曹長ハ捧刀シ軍旗亦敬禮ヲ行ヒ喇叭「君カ代」ヲ吹奏スヘシ

前項ノ敬禮ハ車駕隊列ヨリ約三十歩ノ所ニ來ルトキ之ヲ始メ隊列ヲ去ルコト約十五歩ノ所ニ至ルトキ之ヲ止ム

汽車、汽船等ニテ通御ノ際亦前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

**第五十五條** 將官ニ對シテハ武裝セル軍隊ニ在リテハ之ニ正面シ隊列ヲ正シ敬禮ヲ行ヒ隊長將

校ナルトキ刀ノハ禮ヲ爲シ下士兵卒ナルトキハ  
 捧銃、捧刀、捧槍若ハ立槍ヲ爲シ目迎目送ヲ行  
 ヒ左ノ區分ニ從ヒ喇叭「海行カハ」ヲ吹奏スヘシ  
 一、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、  
 陸軍大將及特命檢閱使タル將官 三回  
 二、陸軍中將 二回  
 三、陸軍少將 一回  
 前項ノ敬禮ハ受禮者隊列ヨリ約八歩ノ所ニ來ル  
 トキ之ヲ始メ隊列ヨリ約八歩過キ去ル迄其ノ姿  
 勢ヲ保ツヘシ  
 受禮者突然隊ノ左翼ヨリ來ルトキノ如キハ中隊  
 各箇ニ敬禮ヲ行フモ妨ナシ又喇叭ハ受禮者ノ職  
 名ヲ知ルコト能ハサルトキハ官等ニ應スル回数  
 ヲ吹奏シ若シ官等ヲモ識別シ得サルトキハ單ニ  
 一回吹奏スルモノトス  
 佐尉官ニ對シテハ喇叭ヲ吹奏セサル外前諸項ニ  
 同シ  
 第五十六條 勅使ニ對シテハ武裝シタル軍隊ニ  
 在リテハ之ニ正面シテ隊列ヲ正シ敬禮ヲ行ヒ隊

長將校ナルトキハ刀ノ禮ヲ爲シ下士兵卒ナルト  
 キハ捧銃、捧刀、捧槍若ハ立槍シ目迎目送ヲ行  
 ヒ敬禮スルモノトス  
 第五十七條 他ノ軍隊ニ對シテハ隊列ヲ正シ隊  
 長將校ナルトキハ刀ノ禮ヲ行ヒ下士兵卒ナルト  
 キハ第三十七條ト同一ノ方法ヲ以テ互ニ敬禮シ  
 喇叭「皇御國」一回ヲ吹奏スルモノトス(三七ノ  
 二)  
 軍隊相互ノ敬禮ハ其ノ隊長ノ階級下ナルモノヨ  
 リ先ツ之ヲ行ヒ同級ナルトキハ先後ヲ論セス之  
 ヲ行フモノトス  
 第五十八條 軍旗ヲ有スル軍隊ニ對シテハ隊列  
 ヲ正シテ敬禮シ隊長ハ軍旗ニ對シ第三十七條ノ  
 敬禮ヲ行ヒ喇叭「足曳」一回ヲ吹奏シ軍旗ヲ有ス  
 ル軍隊ハ之ニ對シ答禮シ喇叭「皇御國」一回ヲ吹  
 奏スルモノトス(三七)

タル場合ノ敬禮ニ準ス但シ隊長ハ舉手注目ノ禮  
 ヲ行ヒ喇叭ヲ吹奏スルコトナシ  
 武裝シタル軍隊ニシテ武裝セサル軍隊ニ對スル  
 トキ亦前項ニ同シ但シ隊長ハ第五十七條ト同一  
 ノ敬禮ヲ行フ  
 將校相當官及各部下士兵卒ノ引率スル軍隊ノ敬  
 禮ハ武裝セサル軍隊ノ敬禮ニ同シ  
 第六十條 軍隊ノ軍人ニ對スル敬禮ハ其ノ隊長  
 ヲリ上級ノ者ニ非サレハ之ヲ行フコトナシ  
 將校相當官、各部下士及其ノ引率スル軍隊ニ對  
 シテハ軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ敬禮若ハ答  
 禮スルモノトス  
 第六十一條 將校ノ引率スル軍隊ハ下士兵卒ノ  
 引率スル軍隊ニ對シテ軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長  
 ノミ答禮スルモノトス  
 第六十二條 儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ葬儀ニ遇  
 フトキハ官職ノ如何ヲ問ハス隊長ハ柩ニ對シ敬  
 禮スルモノトス  
 第六十三條 軍隊拜神ノ禮ハ神前ニ整列シ天皇

ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フ但シ喇叭ハ「國ノ  
 鎮メ」一回ヲ吹奏スルモノトス  
 第六十四條 軍隊行軍又ハ教練間隊列ヲ解キ一  
 地ニ休憩シアルトキハ敬禮ヲ行ハサルヲ例トス  
 其ノ他ノ場合ニ於テ隊列ヲ離レタル軍人ハ單獨  
 ノ敬禮ヲ行フヘシ  
 第二節 行進間ノ敬禮  
 第六十五條 天皇ニ對シテハ先驅ノ稍前ヨリ道  
 路ノ一側ニ沿フテ停止シ第五十四條ニ準シ敬禮  
 ヲ行ヒ鹵簿隊列ヲ過キ去リタル後再ヒ行進ヲ始  
 ムヘシ  
 汽車、汽船等ニテ通御ノ際亦前項ニ準シ敬禮ヲ  
 行フヘシ  
 第六十條 軍旗、上官又ハ他ノ軍隊ニ對シテ  
 ハ行進ヲ停止セス「頭右(左)」ノ號令ニテ軍旗、  
 受禮者又ハ隊長ニ注目シ隊長將校ナルトキハ刀  
 ノ禮ヲ行ヒ下士兵卒ナルトキハ頭ヲ向ケテ受禮  
 者ニ注目シ前節ノ規定ニ準シ喇叭ヲ吹奏スヘシ



但シ將官ニ對スル喇叭ハ「海行カハ」一回トス  
 勅使ニ對シテハ喇叭ヲ吹奏セサル外前項ニ準シ  
 敬禮ヲ行フヘシ  
 前二項ノ敬禮ハ其ノ隊ノ先頭受禮者ヲ距ルコト  
 約八歩ノ所ヨリ始メ隊列ヲ過キ去リタル後「直  
 レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復セシムヘシ  
 第六十七條 軍隊整列シタル衛兵ノ前ヲ通過ス  
 ルトキハ他ノ軍隊ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フ  
 ヘシ但シ將校ノ引率スル軍隊ハ下士以下ノ司令  
 タル衛兵ニ對シ軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ答  
 禮スヘシ  
 第六十八條 第五十八條乃至第六十二條ハ軍隊  
 行進間ノ敬禮ニ準用ス  
 第六十九條 途步行進間「徒歩兵ニ在リテハ」途  
 「休メ」ノ號令ニ在リテハ天皇ニ對スル場合ヲ除  
 アリタル場合ニ在リテハ天皇ニ對スル場合ヲ除  
 クノ外軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ敬禮ヲ行フ  
 但シ軍旗、軍隊及高貴ノ人ニ遇フトキハ成ルヘ  
 ク唱歌、喫煙等ヲ止メ靜肅ニ行進スヘシ

軍隊市街ニ於テ途步行進中ナルトキハ先ツ速歩  
 行進徒歩兵ニ在リテハ「速歩」其ノ他ニ在リニ復  
 テハ「氣ヲ付ケ」ノ號令アリタル場合ニ復  
 シテ敬禮ヲ行フヘシ

第三節 教練間ノ敬禮

第七十條 天皇練兵場ニ親臨アリタルトキハ其  
 ノ場ニ在ル最高級ノ將校ハ喇叭手ヲシテ「氣ヲ  
 付ケ」ヲ吹奏セシメ車駕ヲ奉迎シ各隊教練ヲ止  
 メ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行ヒ各團隊毎ニ其ノ最  
 高級ノ將校ハ駟足ニテ車駕ノ許ニ至リ敬禮ヲ行  
 ヒ教練ノ次第ヲ奏上シ勅命アルカ又ハ車駕練兵  
 場ヲ去ルニ非サレハ教練ヲ始ムヘカラス  
 車駕練兵場ヲ去ルニ際シテハ軍隊ハ其ノ位置ニ  
 於テ敬禮ヲ行ヒ其ノ場ニ在ル最高級ノ將校ハ車  
 駕ヲ奉送スヘシ  
 第七十一條 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育  
 總監、陸軍大將及特命檢閱使タル將官練兵場ニ  
 臨場シタルトキハ最初ニ之ヲ認メタル隊長先ツ

喇叭手ヲシテ「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメ各隊教練  
 ヲ止メ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行ヒ各團隊毎ニ其  
 ノ最高級ノ將校ハ駟歩ニテ臨場者ノ許ニ至リ敬  
 禮ヲ行ヒ「拔刀シアルトキ」教練ノ次第ヲ陳ヘ別命  
 ナキトキハ再ヒ教練ヲ始ムヘシ  
 受禮者練兵場ヲ去ルニ際シテハ軍隊ハ其ノ位置  
 ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ  
 臺灣、朝鮮及滿洲ニ在ル軍隊ノ軍司令官ニ對ス  
 ル場合亦前項ニ同シ  
 團隊長 教導(生徒)隊ヲ有スル學校 練兵場ニ來ル  
 長タル將官、佐官ヲ含ム  
 トキハ其ノ部下軍隊ニ限リ前諸項ニ準シ敬禮ヲ  
 行ヒ教練ノ次第ヲ報告スヘシ但シ「氣ヲ付ケ」ノ  
 喇叭ヲ吹奏スルコトナシ  
 第七十二條 軍隊練兵場ニ於テ教練間ハ前二條  
 ノ場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フコトナシ  
 第七十三條 軍隊ハ演習場、射擊場及作業場等  
 ニ於テモ成ルヘク前諸條ニ準シテ敬禮ヲ行フヘ

シ  
 第七十四條 野外ニ於テ演習實施中ハ通常敬禮  
 ヲ行フコトナシ

第四章 衛兵ノ敬禮

第七十五條 衛兵ハ天皇、皇族及左ニ列記スル  
 モノニ對シテハ門外又ハ衛舍前ニ整列シ銃又ハ  
 槍ヲ執リ野戰砲兵ハ不動ノ姿 敬禮ヲ行フヘシ但  
 シ天皇ヲ除クノ外ハ其ノ所在ノ門ヲ出入スルト  
 キニ限ル  
 一、軍 旗  
 二、將校ノ引率スル武裝シタル軍隊  
 三、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、  
 陸軍大將及特命檢閱使タル將官  
 四、衛戍司令官 東京衛戍總督ヲ 及團隊長 教導  
 徒)隊ヲ有スル學校長  
 タル將官、佐官ヲ含ム  
 臺灣、朝鮮及滿洲ニ在ル軍隊ノ衛兵ハ軍司令官

ニ對シテハ前項第三號ニ掲クル者ニ對スルト同  
一ノ敬禮ヲ行フヘシ  
衛戍司令官ニ對シテハ其ノ衛戍地ノ衛戍衛兵團  
隊長ニ對シテハ其ノ部下團隊ノ風紀衛兵ノミ敬  
禮スルモノトス

第七十六條 前條衛兵ノ敬禮ハ軍隊停止間ノ敬  
禮ニ同シ

第七十七條 衛兵司令ヨリ上官タル將校其ノ所  
在ノ門ヲ出入スルトキハ衛兵中最初ニ之ヲ認メ  
タル者「敬禮」ト呼ヒ現在スル者其ノ場ニ立チテ  
姿勢ヲ正シ衛兵司令ハ其ノ將校ニ對シ敬禮ヲ行  
フヘシ

第五章 步哨ノ敬禮

第七十八條 步哨ハ天皇、皇族及左ニ列記スル  
モノニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

- 一、軍旗
- 二、軍隊
- 三、將校

第八十二條 步哨ニシテ兵卒ヨリ敬禮ヲ受ケタ  
ルトキハ立銃又ハ立槍ノ儘姿勢ヲ正シ頭ヲ向ケ  
テ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケテ答禮スヘ  
シ

第八十三條 野戰砲兵ノ步哨ハ舉手注目ノ敬禮  
ヲ行フヘシ

第八十四條 步哨ハ職務執行ノ爲已ムヲ得サル  
場合ニ在リテハ敬禮ヲ行ハサルモ妨ナシ

第三編 儀式

第一章 通則

第八十五條 本令ニ於テ儀式ト稱スルモノ左ノ  
如シ

- 一、儀仗
- 二、堵列
- 三、伺候式
- 四、觀兵式
- 五、禮砲式

四、下士、上等兵及之ト同級ノ者  
第七十九條 天皇、皇族、軍旗及將校ニ對シテ  
ハ著劍又ハ起劍捧銃 著劍又ハ起劍シアラサルト  
キハ將校ニ對シテハ其ノ儘  
之ヲ行ヒ又輻重兵ニ捧槍ノ禮ヲ行ヒ目迎目送ヲ  
在リテハ著劍セズ

爲シ下士、上等兵及之ト同級ノ者ニ對シテハ立  
銃、立槍ノ儘姿勢ヲ正シ頭ヲ敬禮ヲ受クヘキモ  
ノノ方ニ向ケ之ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ  
傾ケ軍隊ニ對シテハ姿勢ヲ正シ其ノ隊長ニ對シ  
テ敬禮ヲ行フヘシ

第八十條 步哨ハ夜間ニ在リテモ敬禮ヲ行フモ  
ノタルコトヲ識別シタルトキハ敬禮スヘシ

第八十一條 步哨敬禮ヲ行フニハ通常其ノ定位  
置ニ立チ之レヨリ出ツヘシ 敬禮ヲ受クヘキモ  
ノ約八步前ニ來ルトキ之ヲ行ヒ約八步過去ル迄  
其ノ姿勢ヲ保ツヘシ但シ動哨ニ在リテハ其ノ位  
置ニ於テ敬禮ヲ行フモ妨ナシ  
複哨ハ同時ニ敬禮ヲ行フヘシ

六、軍旗迎送式

前項第一號乃至第五號ノ儀式ハ天皇、皇族及將  
官外ノ特ニ命令アリタル場合ニ於テ高貴ノ人ニ  
對シ之ヲ行フ但シ受禮者ハ儀式ヲ辭スルコトヲ  
得

第八十六條 儀式軍旗迎送ニ關シテハ特ニ規定  
アルモノヲ除クノ外衛戍司令官ノ力執行ヲ命ス  
ルモノトス

第八十七條 召集中ノ者又ハ現ニ勤務ニ服スル  
者ノ外在郷軍人ニハ儀式ニ關スル規定ヲ適用セ  
ス

第八十八條 本令規定以外ノ陸軍ノ儀式ニ關シ  
テハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二章 儀仗

第八十九條 天皇、皇族及將官衛戍地著發ノト  
キハ儀仗兵ヲ供フ

第九十條 儀仗兵ヲ分チテ二トス

一、儀仗隊  
 儀仗隊ハ途上ノ護衛ニ任シ儀仗衛兵ハ行在所又ハ旅館ノ護衛ニ任スルモノトス

第九十一條 儀仗隊ヲ供フルハ左ニ列記スル場合ノ外特ニ命令アルトキニ限ル

一、衛戍地ニ行幸、行啓又ハ通御アリテ其ノ地著御及發御ノトキ

二、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、軍司令官、陸軍大將及特命檢閱使タル將官公務ヲ行フヘキ衛戍地ニ著發ノトキ

三、軍隊ノ長タル將官初テ部下軍隊ノ衛戍地ニ著シ又ハ轉職等ノ爲其ノ地ヲ發スルトキ

第九十二條 儀仗衛兵ハ前條ノ場合ニ於テ駐紮又ハ滞在間之ヲ供フルモノトス

第九十三條 儀仗隊及儀仗衛兵ノ編成並歩哨ノ種類ハ附表ニ依ル

第九十四條 儀仗隊ハ波止場、停車場又ハ市街ノ入口附近ニ之ヲ出シ行在所又ハ旅館迄途上前

後ニ列シ護衛スルモノトス但シ儀仗隊徒歩隊ニシテ儀仗ヲ受クル者乘馬又ハ乘車ナルトキハ隨從スルコトナシ

第九十五條 儀仗隊ノ敬禮ハ軍隊ノ敬禮ニ依リ儀仗衛兵ノ敬禮ハ衛兵ノ敬禮ニ依ル但シ天皇及其ノ儀仗ヲ受クル者ニ對シテハ夜間ト雖敬禮ヲ行フモノトス

第九十六條 儀仗兵ハ晝夜ノ別ナク何レノ時ト雖之ヲ供フルモノトス

第九十七條 天皇ニ對スル儀仗兵以外ノ儀仗兵ハ軍旗並儀仗ヲ受クル人ヨリ上級者ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第三章 堵 列

第一百條 堵列ノ軍隊ハ波止場、停車場又ハ市街ノ入口ト行在所又ハ旅館トノ間ニ於テ道路ノ一側又ハ兩側ニ整列ス但シ隊列ノ順序ハ受禮者ノ來ルヘキ方ヲ上トス

天皇汽車、汽船等ニテ通御ノトキ亦前項ニ準ス

第一百二條 堵列ノ軍隊ハ受禮者其ノ場ニ來ルトキ軍隊ノ敬禮ヲ行フヘシ

第一百三條 天皇著御ノトキハ師團長、衛戍司令官、憲兵司令官、憲兵隊長及儀仗、堵列並禮砲式ニ加ハラサル上長官以上ニシテ乘馬ヲ有スル者ハ波止場、停車場又ハ市街ノ入口ニ奉迎シ行在所迄陪從ス其ノ發御ノトキ亦之ニ準ス

天皇著御又ハ發御ノトキ該地所在ノ將校中儀仗、堵列又ハ禮砲式ニ加ハル者及前項ニ依リ陪從スル者ヲ除クノ外ハ適宜ノ地ニ整列シテ奉迎又ハ奉送ヲ爲スヘシ

第四章 伺 候 式

該地所在ノ將校ハ行在所又ハ旅館ニ伺候スルモノトス

第一百五條 伺候式ヲ行フ場合ハ儀仗隊ヲ供フル場合ニ同シ

第一百六條 伺候スヘキ將校ノ範圍ハ附表ニ依ル

第一百七條 伺候式ハ受禮者發著ノ前後二十四時間以内ニ於テ時ヲ定メ之ヲ行フモノトス

第一百八條 伺候式ニハ拜謁又ハ面謁ヲ爲スヲ例トス

拜謁又ハ面謁ヲ爲ストキハ敬禮ヲ行フノ後直ニ退去スルモノトス

時宜ニ依リ拜謁ヲ賜ラス又ハ受禮者面謁ヲ辭スルトキハ伺候者ハ官爵氏名ヲ帳簿ニ記スルカ又ハ官爵氏名ヲ帳簿ニ記シタル名刺ヲ呈スヘシ

第五章 觀 兵 式

第一百四條 天皇、皇族及將官衛戍地著發ノトキ

第九九條 觀兵式ハ天長節祝日及陸軍始其ノ他特ニ規定アルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限り之ヲ行フモノトス

第一百十條 觀兵式ヲ分チテ閱兵式及分列式トス  
第一百十一條 觀兵式ハ天皇、皇族及左ニ列記スル者ニ對シテ行フモノトス

一、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、軍司令官、陸軍大將及特命檢閱使タル將官

二、衛戍司令官タル將官及軍隊ノ長タル將官

第一百十二條 天皇、皇族並前條第一號ノ者ニ對シテ觀兵式ヲ行フトキハ其ノ地高級團隊長諸兵ノ指揮ヲ爲スヘシ但シ二師團以上ヲ合シテ之ヲ行フトキハ特ニ諸兵指揮官ヲ定ムルモノトス

前條第二號ノ者ニ對シテハ觀閱者ノ次級者タル團隊長又ハ隊附將校諸兵ノ指揮ヲ爲スヘシ

第一百十三條 天長節祝日及陸軍始ニ於ケル觀兵式ハ各衛戍地ニ於テ之ヲ行ヒ天皇ニ對スルモノノ外通常其ノ地衛戍司令官タル將官ニ對シテ行フモノトス但シ將官ノ在ラサル衛戍地ノ軍隊ニ於テハ前條第二項ニ準シ分列式ノミヲ行フヘシ

第一百十四條 天皇ニ對シ觀兵式ヲ行フトキ並天長節祝日及陸軍始ニ於ケル觀兵式ニハ當該地所

在ノ將校悉ク出場スヘシ  
第一百十五條 觀兵式ニ關スル細部ノ規定ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六章 禮砲式

第一百十六條 禮砲式ハ敬禮又ハ表祝ノ爲之ヲ行フモノトス

第一百十七條 禮砲式ヲ行フハ紀元節、天長節祝日及左ニ列記スル場合ノ外特ニ命令アルトキニ限ル

一、衛戍地ニ行幸、行啓又ハ通御アリテ其ノ地著御及發御ノトキ

二、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、軍司令官、陸軍大將及特命檢閱使タル將官公務ヲ行フヘキ衛戍地ニ著發ノトキ

三、師團長初テ部下軍隊ノ衛戍地ニ著シ又ハ轉職等ノ爲其ノ地ヲ發スルトキ

前項各號ノ場合ニ於ケル禮砲式ハ野戰砲兵其ノ地ニ駐屯スルトキニ限り之ヲ施行スルモノトス

第一百十八條 發射スヘキ禮砲ノ數ハ附表ニ依ル  
第一百十九條 禮砲式ハ晝間ニ非サレハ之ヲ行フコトナシ  
第一百二十條 紀元節及天長節祝日其ノ他臨時ノ祝日ニ於テスル禮砲式ハ特ニ命令アル場合ヲ除クノ外各野戰砲兵隊駐屯ノ衛戍地ニ於テ當日正午ニ之ヲ行フモノトス

第一百二十一條 同一衛戍地ニ數箇ノ野戰砲兵隊集團シアル場合ニハ衛戍司令官禮砲式ヲ行フヘキ砲兵隊ヲ指定スヘシ

第一百二十二條 重砲兵隊ハ特ニ命令アル場合ヲ除クノ外禮砲式ヲ行フコトナシ

第七章 軍旗迎送式

第一百二十三條 軍旗其ノ安置ノ場所ヲ出入スルトキハ之ニ對シテ迎送式ヲ行フ

第一百二十四條 軍旗ノ迎送ニハ軍旗中隊ヲ用ウ

軍旗中隊ハ步兵ニ在リテハ一中隊ト一大隊分ノ喇叭手騎兵ニ在リテハ中隊長ノ指揮スル半中隊

ト二中隊分ノ喇叭手トヲ以テ之ヲ編成ス  
第一百二十五條 軍旗ヲ誘導スルニハ中(少)尉一人及護衛下士二人ヲ用ウ

第一百二十六條 行軍中宿營地ニ於テハ軍旗迎送式ヲ行ハス旗手及護衛下士ノ外將校ノ率ユル一分隊ヲ以テ誘導スルヲ常トス

第一百二十七條 軍旗迎送式ニ關スル細部ノ規定ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附表

元帥、陸軍大臣、參謀總長、	皇族	天皇	儀仗隊	儀仗衛兵	堵列軍隊	伺候將校	禮砲
	中隊長ノ指揮	中隊長ノ指揮	聯隊長ノ指揮 スル騎兵一中隊若ハ歩兵一中隊トシ軍旗ヲ樹ツ	大隊長ノ指揮 スル歩兵一中隊トシ軍旗ヲ樹ツ	當該地衛戍兵 悉皆	將校悉皆	百零一發
中隊長ノ指揮	中隊長ノ指揮	中隊長ノ指揮	中隊長ノ指揮	中隊長ノ指揮	當該地衛戍兵 約二分ノ一	將校悉皆	二十一發

教育總監、總督、軍司令官、陸軍大將及特命檢閱使タル將官	軍隊ノ長タル中(少)將	中(少)尉又ハ准尉ノ指揮スル騎兵半小隊若ハ歩兵一小隊トス	中(少)尉又ハ准尉ノ指揮スル歩兵一小隊トス	當該地衛戍兵 兵約三分ノ一	上長官以上	十九發
	當該地屯在ノ部下軍隊悉皆	當該地所在ノ所屬將校 悉皆	當該地屯在ノ部下軍隊悉皆	當該地衛戍兵 兵約三分ノ一	上長官以上	十九發

備考

一 儀仗兵ニ要スル人員ヲ充足スルコト能ハサルトキ又ハ歩騎兵以外ノ兵種ヲ用ウルトキハ本表ニ準シ其ノ編成ヲ定ムヘシ  
二 紀元節及天長節祝日ニ於ケル禮砲ノ數ハ百零一發トス

陸軍禮式附錄目次

第一章 觀兵式……………	一
第一節 通則……………	一
第二節 閱兵式……………	二
第三節 分列式……………	三
第二章 軍旗迎送式……………	六

第一章 觀兵式……………	一
第一節 通則……………	一
第二節 閱兵式……………	二
第三節 分列式……………	三
第二章 軍旗迎送式……………	六
第一節 軍旗之種類……………	六
第二節 軍旗之迎送……………	七
第三節 軍旗之陳列……………	八
第四節 軍旗之收貯……………	九
第五節 軍旗之修理……………	十
第六節 軍旗之損壞……………	十一
第七節 軍旗之遺失……………	十二
第八節 軍旗之焚燒……………	十三
第九節 軍旗之埋藏……………	十四
第十節 軍旗之其他……………	十五

陸軍禮式附錄

第一章 觀兵式

第一節 通則

**第一條** 本章ニ於テ團隊長ト稱スルハ師團長、旅團長、聯隊長及獨立隊長ヲ謂フ

**第二條** 交通兵隊ニ對シテハ工兵隊、重砲兵隊、中緊駕スルモノニ對シテハ野砲兵隊、繫駕セサルモノニ對シテハ步兵隊ノ爲ニ定メタル規定ヲ準用ス

**第三條** 閱兵式及分列式ノ整頓ハ常ニ右方ヲ基準トス

**第四條** 團隊附將校、特務曹長、見習士官、曹長及騎兵者ヲ除ク 輜重兵ハ肩刀シ步兵、工兵ハ著劍ス但シ喇叭手ハ著劍スルコトナシ

**第五條** 觀閱者徒歩ナル時ハ將校ハ乘馬セサルヲ例トス但シ騎兵、野戰砲兵及輜重兵隊ノ將校

ハ觀閱者ニ隨從スル者ヲ除クノ外乘馬スルモノトス

工兵隊ノ小隊長ハ觀兵式ニ在リテハ徒歩スルモノトス

**第六條** 閱兵式ニ於テハ團隊ニ附屬セサル將官、佐官及陪觀ヲ許サレタル外國將校ニシテ乘馬ノ者ハ天皇又ハ觀閱者ニ扈從又ハ隨從スルコトヲ得

**第七條** 輜重輪卒ハ閱兵式ニノミ列セシムルモノトス

行李、彈藥小隊、段列及縱列等ハ別命アルニ非サレハ觀兵式ニ列セサルヲ例トス

**第八條** 中隊以下ノ小部隊ニシテ大ナル部隊ト共ニ觀兵式ニ列スルトキハ之ヲ同兵種ノ聯隊若ハ大隊ニ編入シ其ノ隊長ノ指揮ヲ受ケシムルコトヲ得

**第九條** 分列式ニ於テハ山砲兵隊ハ常歩ヲ以テ其ノ他ハ速歩ヲ以テ之ヲ行フヲ例トス但シ時宜ニ依リ山砲兵隊ハ速歩ヲ以テ其ノ他ハ駈歩ヲ以

テ之ヲ行フコトヲ得  
第十條 分列中軍樂ヲ奏スル場合ニハ喇叭ヲ吹奏スルコトナシ

第二節 閱兵式

第十一條 閱兵式ニ於ケル諸兵整列ノ順序左ノ如シ

- 一、歩兵隊
  - 二、工兵隊
  - 三、交通兵隊
  - 四、山砲兵隊
  - 五、野砲兵隊
  - 六、騎兵隊
  - 七、輜重兵隊
- 教導隊ハ其ノ兵種ノ右翼、重砲兵隊中徒歩スルモノハ山砲兵隊ノ右翼、繫駕シタルモノハ野砲隊ノ右翼、騎砲兵隊ハ野砲兵隊ノ左翼ニ整列スルモノトス
- 第十二條 閱兵ノ隊形ハ各兵操典ニ依ル

隊形ノ如何ニ論ナク諸兵指揮官ハ最右翼ノ指揮官ヨリ師團長ハ其ノ師團ノ最右翼ノ指揮官ヨリ各十六歩ニシテ第一線、各參謀長ハ其ノ長官ノ後方第二線、各幕僚ハ參謀長ノ後方第三線、其ノ他ノ司令部附將校、同相當官ハ幕僚ノ後方第四線ニ整列ス

軍樂隊ハ諸兵指揮官幕僚ノ後方適宜ノ所ニ整列ス

團隊ノ間隔ハ師團間ヲ六十四歩、旅團及異兵種間ヲ三十二歩トシ右方團隊ノ左翼ヨリ左方團隊ノ右翼迄ヲ測ルモノトス

諸兵指揮官ハ前諸項ノ間隔ヲ適宜伸縮スルコトヲ得

第十三條 天皇式場ニ臨御アラムトスルトキハ其ノ稍前ニ於テ諸兵指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ吹奏セシム此ノ號音ニ依リ各團隊ハ第四條ノ動作ヲ爲ス

天皇臨御アリタルトキハ諸兵指揮官ハ前進シテ車駕ヲ奉迎シ軍樂隊及諸隊ノ喇叭手群ハ「君カ

代」一回ヲ吹奏シ各隊ハ敬禮ヲ行フ

第十四條 觀閱者タル將官臨場ノ際ニ於ケル各團隊ノ動作ハ前條ニ準ス但シ軍樂隊及喇叭手群ハ其ノ官職ニ應スル回数ニ從ヒ「海行カハ」ヲ吹奏スルモノトス

第十五條 閱兵ヲ施行セラルトキ諸兵指揮官ハ前進シテ天皇ヲ奉迎シ又ハ觀閱者ヲ迎ヘ刀ノ禮ヲ行ヒ當日出場ノ總人員「將校以下何名」ヲ奏上又ハ報告シ天皇又ハ觀閱者ノ右方後ニ在リテ閱兵ノ奉導若ハ誘導ヲ爲ス

第十六條 天皇團隊ノ最右翼ニ到ラルトキハ軍樂隊ハ「君カ代」三回ヲ奏ス

天皇師團、旅團ノ右翼ニ到ラルトキハ師團長、旅團長ハ前進シテ天皇ヲ奉迎シ刀ノ禮ヲ行フ

天皇各聯隊、獨立隊ヲ含ム右翼約二十歩ノ所ニ到ラルトキハ各隊ハ敬禮ヲ行ヒ聯隊長ヲ含ム以

下同ハ直ニ前進シテ天皇ヲ奉迎シ刀ノ禮ヲ行ヒ該隊ノ出場人員ヲ奏上ス

天皇各隊ヨリ約十五歩過キ去ラレタルトキハ敬禮ノ止ム但シ甲隊喇叭手群ノ吹奏ハ乙隊喇叭手群ノ吹奏ヲ始メタル時ニ止ムモノトス

團隊長ハ其ノ團隊ノ閱兵中諸兵指揮官ノ右側後ニ於テ天皇ニ扈從ス

第十七條 觀閱者タル將官ニ對スル各團隊ノ動作ハ前條ニ準ス但シ軍樂隊ノ敬禮ハ「頭右(左)」ノ號令ニ從ヒ目迎目送ヲ爲シ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復シ軍樂隊及喇叭手群ハ其ノ官職ニ應スル回数ニ從ヒ「海行カハ」ヲ吹奏シ團隊長ノミ刀ノ禮ヲ行フモノトス

第十八條 閱兵式ニ列シ分列ヲ爲ササル軍隊ハ諸兵指揮官ノ定ムル位置ニ整列スルモノトス

第三節 分列式

第十九條 分列式ニ於ケル諸兵ノ順序ハ閱兵式



ニ同シ  
**第二十條** 分列ノ隊形ハ各兵操典ニ依ル  
 諸兵指揮官ハ先頭ノ團隊長ヨリ前方三十二歩、  
 師團長ハ其ノ師團先頭ノ團隊長ヨリ前方二十四  
 歩、各參謀長ハ其ノ長官ノ後方一步、其ノ他ノ  
 幕僚ハ各參謀長ノ後方一步ニ於テ一列ニ位置ス  
 軍樂隊ハ諸兵指揮官ノ前方二十四歩ニ位置ス  
 各團隊ノ距離ハ師團間ヲ八十歩、旅團間ヲ六十  
 四歩、異兵種間ヲ四十歩トス但シ乘馬隊速歩ヲ  
 用ウルトキハ徒歩隊ヨリ約四百歩、旅團又ハ聯  
 隊ト異兵種間トヲ二百歩トシ駐歩ヲ用ウルトキ  
 ハ之ヲ倍ス  
 前項ノ距離ハ先行團隊ノ後尾ヨリ後續團隊ノ團  
 隊長又ハ喇叭手群迄トス  
 諸兵指揮官ハ前諸項ノ距離ヲ適宜伸縮スルコト  
 ヲ得

作ル  
 時宜ニ依リ閱兵終ル毎ニ各隊ヲシテ先頭部隊ニ  
 距離ヲ縮メ分列ノ隊形ヲ作ラシムルコトヲ得  
**第二十二條** 諸兵指揮官ハ敬禮點ニ標兵參照ヲ  
 置カシメタル後分列行進ヲ命ス但シ命令ニ代ウ  
 ルニ記號又ハ號音ヲ以スルコトヲ得  
 前進ノ命令ニ依リ軍樂隊又ハ先頭部隊ノ喇叭手  
 群ハ前進ヲ起シ吹奏ヲ始メ各大隊長、中隊長ハ  
 所定ノ距離ヲ得ルヲ待テ分列行進ノ號令ヲ下ス  
 但シ行進中刀ヲ保持スル者ハ肩刀ヲ爲スモノト  
 ス  
**第二十三條** 諸兵指揮官ハ敬禮點ニ到リタルト  
 キ刀ノ禮ヲ行ヒ敬禮點ヲ過キタルトキハ直ニ肩  
 刀ニ復シ駐歩ヲ以テ右方ニ進出シ天皇又ハ觀閱  
 者ノ右側後ニ到リ刀ノ禮ヲ行ヒタル後肩刀ニ復  
 シ分列式全ク終ル迄同所ニ位置ス  
**第二十四條** 軍樂隊又ハ喇叭手群ハ敬禮點第一  
 標兵ヨリ約二十歩ノ所ニ到リタルトキハ左側面

行進ヲ爲シ適當ノ距離ニ於テ右ニ方向ヲ換ヘ天  
 皇又ハ觀閱者ニ正對シテ止リ連續吹奏ス  
 喇叭ヲ吹奏スル分列式ニ於テ後續隊ノ喇叭手群  
 ハ先行隊ノ後尾敬禮點ヲ通過シ終リタルトキ先  
 行隊喇叭手群ノ節調ニ準シテ吹奏ヲ始ムヘシ此  
 ノ場合ニ於テ先行隊喇叭手群ハ直ニ吹奏ヲ止メ  
 捷路ヲ經テ所屬隊ニ復歸スヘシ  
 軍樂ヲ奏スル分列式並騎兵、野戰砲兵輜重兵隊  
 ノ速歩若ハ駐歩ヲ以テ行フ分列式ニ於テハ喇叭  
 手群ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク直行ス  
**第二十五條** 各團隊長ハ敬禮點ニ到リタルトキ  
 ハ刀ノ禮ヲ行ヒ敬禮點ヲ過キタルトキハ直ニ肩  
 刀ニ復シ駐歩ヲ以テ右方ニ進出シ順次諸兵指揮  
 官ノ右方ニ到リテ併列シ刀ノ禮ヲ行ヒタル後肩  
 刀ニ復シ其ノ團隊通過シ終リタルトキハ再ヒ其  
 ノ場ニ於テ刀ノ禮ヲ爲シ駐歩ヲ以テ其ノ團隊ニ  
 復歸スヘシ  
 天皇ニ對シテハ聯隊長ハ側方ニ進出シタル後天  
 皇ノ左側後ニ移リ聖旨ヲ俟タス諸兵指揮官ノ定

ムル所ニ從ヒ大隊長又ハ中隊長ノ職符氏名ヲ奏  
 上スルモノトス  
**第二十六條** 各團隊長ハ敬禮點ニ到リタルトキ將  
 校ハ刀ノ禮ヲ行ヒ軍旗亦敬禮シ各大隊長、中隊長  
 其ノ隊長ノ下ス「頭右」ノ號令ニテ天皇ニ注目ス  
 其ノ隊ノ後尾敬禮點ヲ過キタルトキハ軍旗並將  
 校ハ敬禮ヲ止メ大隊、中隊長ハ「直レ」ノ號令ニテ  
 頭ヲ正面ニ復ス但シ嚮導タル小隊長若ハ下士野  
 砲兵ニ在リテハ右翼砲  
 車ノ車長及馭者ヲ含ムハ終始正面ヲ直視スルモ  
 ノトス  
 觀閱者ニ對シ各隊ノ注目ハ前項ニ準ス但シ團隊  
 長ノミ刀ノ禮ヲ行フ  
**第二十七條** 分列全ク終リタルトキハ諸兵指揮  
 官ハ天皇又ハ觀閱者ノ前面ニ到リ刀ノ禮ヲ爲シ  
 聖旨又ハ命令ヲ俟ツ  
**第二十八條** 分列終リタルトキハ各隊ハ逐次諸  
 兵指揮官ノ定ムル位置ニ到リ徒歩隊ハ距離ヲ縮  
 メタル縱隊ヲ作りテ左向ヲ爲シ野戰砲兵隊ハ間

隔ヲ開キ各中隊左方ニ砲車縱隊ヲ作り騎兵隊ハ左ニ集團橫隊ヲ作り輜重兵隊ハ左ニ大隊縱隊ヲ作り天皇ノ還御又ハ觀閱者ノ退場ニ對スル敬禮ノ準備ヲ爲ス但シ場合ニ依リ前記ノ隊形ヲ換ヘ若ハ分列終リタルトキハ各隊ハ直ニ退場スルコトアルヘシ

第二章 軍旗迎送式

第三十條 軍旗奉迎ノ爲軍旗中隊ハ軍旗ヲ安置シタル家屋ノ前ニ到リ中隊縱隊 騎兵ニ在リテハヲ作ルヘシ但シ喇叭手群ハ先頭小隊ノ右方ニ在リ

リテハ中ニ整列スルモノトス  
隊ノ右方ニ整列スルモノトス  
旗手ハ拔刀又ハ著劍シタル誘導ノ將校及護衛下士ト共ニ家屋内ニ入リテ軍旗ヲ迎フ  
第三十一條 軍旗中隊ハ著劍又ハ拔刀シテ軍旗ノ出ツルヲ待チ旗手ハ軍旗ヲ捧持シ誘導ノ將校ハ其ノ左側前、護衛下士ハ旗手ノ兩側ニ從ヒ共ニ家屋ヲ出テ中隊ニ面シテ停止ス此ノ場合ニ於テ軍旗中隊ハ軍旗ニ對シテ敬禮ス其ノ方法ハ步兵ニ在リテハ著劍捧銃騎兵ニ在リテハ捧刀若ハ立槍シ將校ハ刀ノ禮ヲ行ヒ曹長ハ捧刀シ喇叭「足曳」一回ヲ吹奏スルモノトス  
前項敬禮ノ後旗手ハ誘導將校及護衛下士ト共ニ中隊ノ前方四歩ニ移リタル後誘導ノ將校ハ中隊ノ定位ニ復シ喇叭手ハ軍旗ノ前方四歩ニ移リ中隊長ハ行進ヲ起サシム此ノ場合ニ於テ喇叭手ハ喇叭ヲ吹奏シ中隊長ハ軍旗ノ直前ニ在リテ行進ス但シ道路狭少ナルトキハ側面縱隊 騎兵ニ在リ

隊ト爲スコトヲ得

第三十二條 軍旗中隊ニシテ聯隊集合場ニ到リタルトキハ聯隊ノ中央前約四十歩ノ所ニ於テ之ニ面シテ中隊縱隊ニ整列シ旗手ハ誘導ノ將校及護衛下士ト共ニ中隊ノ前方約十歩ノ所ニ前進ス此ノ場合ニ於テ聯隊長ハ其ノ聯隊ヲシテ軍旗ニ對シ前條ト同一ノ敬禮ヲ爲サシメ軍旗ノ前ニ到リ刀ノ禮ヲ行フ

敬禮終リタルトキ軍旗ハ聯隊ノ定位ニ就キ護衛下士ハ軍旗衛兵ト代リテ其ノ所屬中隊ニ復歸ス軍旗定位ニ就キタル後軍旗中隊ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク其ノ定位ニ就クヘシ

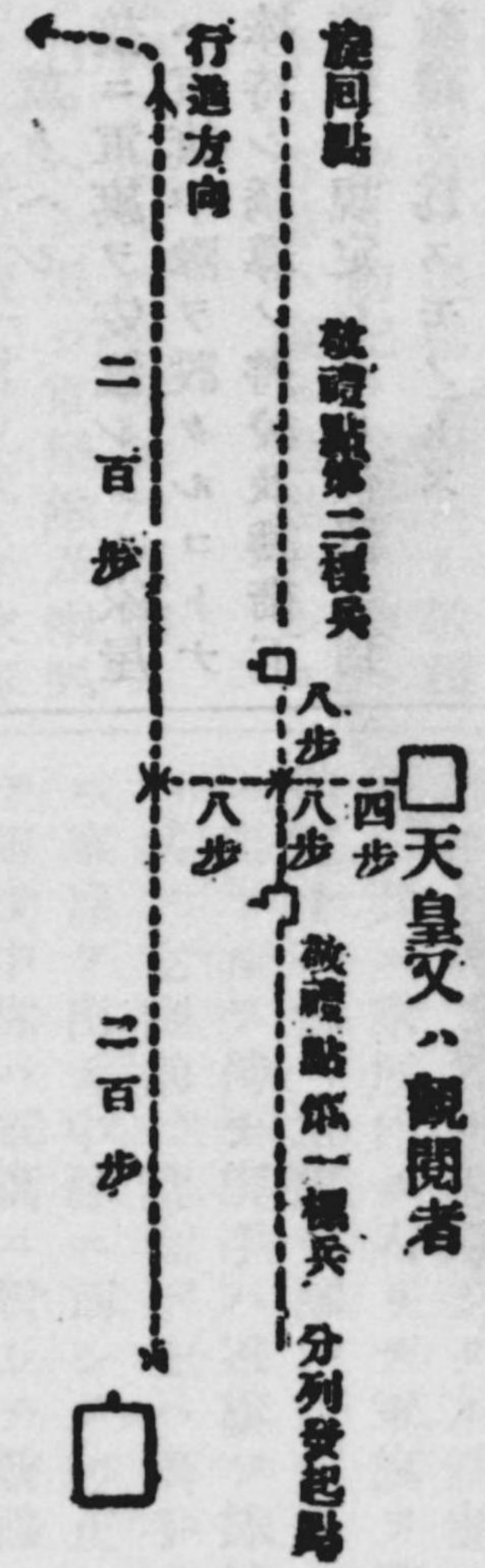
第三十三條 聯隊直接ニ軍旗ヲ安置シタル家屋ノ前ニ整列スルトキハ軍旗中隊ヲ設ケルコトナク旗手ニ於テ軍旗ヲ捧持シ誘導ノ將校及護衛下士ト共ニ家屋ヲ出テ前條ニ規定シタル位置ニ到リ聯隊ハ軍旗ニ對シ敬禮ヲ爲スモノトス  
第三十四條 軍旗ノ奉送ハ奉迎ノトキト反對ノ

順序ニ從ヒ同一ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

附則

操典ニ於テ觀兵式ノ隊形ヲ規定セラレサル兵種ニ在リテハ其ノ隊形ハ舊陸軍禮式附錄ニ依ル

(附圖)



備考

- 一、本附圖ノ步數ハ適宜之ヲ伸縮スルコトヲ得
- 二、標兵ハ徒歩兵又ハ乘馬兵ヲ用ウ但シ乘馬兵ヲ用キタルトキハ馬ノ頭ヲ以テ標線トス
- 三、分列發起點及旋回點ニハ標兵ヲ置クコトヲ得

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル陸軍刑法ヲ裁可  
シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣 侯爵 西園寺公望  
陸軍大臣 子爵 寺内正毅

陸軍刑法

陸軍刑法目次

次目

第一編 總則	一
第一章 叛亂ノ罪	三
第二章 擅權ノ罪	五
第三章 辱職ノ罪	五
第四章 抗命ノ罪	八
第五章 暴行脅迫ノ罪	八
第六章 侮辱ノ罪	一
第七章 逃亡ノ罪	一
第八章 軍用物損壞ノ罪	二
第九章 掠奪ノ罪	三
第十章 俘虜ニ關スル罪	三
第十一章 違令ノ罪	三
附則	四

陸軍刑法

第一編 總則

- 第一條 本法ハ陸軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
- 第二條 本法ハ陸軍軍人ニ非スト雖左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
  - 一 第六十四條乃至第六十七條ノ罪及此等ノ罪ノ未遂罪
  - 二 第七十四條ノ罪
  - 三 第七十九條乃至第八十五條ノ罪
  - 四 第八十六條乃至第八十九條ノ罪
  - 五 第九十一條乃至第九十三條ノ罪及第九十一條、第九十二條ノ未遂罪
  - 六 第九十五條第一項、第九十六條、第九十七條第二項及第九十九條ノ罪
- 第三條 本法ハ前二條ニ記載シタル者帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキト雖之ヲ適用ス
- 第四條 帝國軍ノ占領地ニ於テ陸軍軍人刑法又

ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ帝國內ニ於テ犯シタルモノト看做ス

陸軍軍人ニ非スト雖帝國臣民、從軍外國人及俘虜ノ犯シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條 帝國外ニ在ル部隊ニ屬シ若ハ從フ者又ハ之ニ俘虜タル者其ノ部隊ノ所在地ニ於テ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前條ニ同シ

第六條 陸軍ト共同作戰ニ從フ海軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

第七條 陸軍ト共同作戰ニ從フ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 陸軍軍人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ謂フ

- 一 陸軍ノ現役ニ在ル者但シ未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク

二 召集中ノ在郷軍人  
 三 召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人  
 四 前二號ニ記載シタル者ノ外陸軍ノ制服着用中又ハ現ニ服役上ノ義務履行中ノ在郷軍人  
 五 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

第九條 左ニ記載シタル者ハ陸軍軍人ニ準ス

一 陸軍所屬ノ學生、生徒  
 二 陸軍軍屬  
 三 陸軍ノ勤務ニ服スル海軍軍人  
 前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第十條 陸軍將校相當官、陸軍准士官、海軍將校、同相當官、海軍候補生及海軍准士官ハ陸軍將校ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者亦同シ  
 第十一條 陸軍士官ノ候補者ニシテ下士ノ階級

ニ在リ士官ノ勤務ニ服セサル者ハ陸軍下士ニ準ス

第十二條 陸軍ノ兵役ニ在リテ官等、等級ヲ有セサル者ハ兵卒ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ兵卒ノ階級ニ在ル者亦同シ  
 第十三條 在郷軍人ト稱スルハ陸軍ノ現役以外ノ役ニ在ル者、陸軍ノ現役ニ在リテ未タ入營セサル者、陸軍ノ歸休兵及退役陸軍將校、同相當官、准士官ヲ謂フ

第十四條 陸軍軍屬ト稱スルハ陸軍文官、同待遇者及宣誓シテ陸軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ但シ豫備又ハ退職ノ文官ハ此ノ限ニ在ラス  
 第十五條 海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法ニ於テ海軍軍人ト爲ス者ヲ謂フ

第十六條 上官ト稱スルハ命令關係アル陸軍軍人間ニ於テ命令權ヲ有スル者ヲ謂フ  
 第十七條 命關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ兵卒ハ下士勤務上等兵ヲ除クノ外總テ同等トス

第十七條 司令官ト稱スルハ軍隊ノ司令ニ任スル陸軍軍人ヲ謂フ

第十八條 哨兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守地ニ在ル陸軍軍人ヲ謂フ

第十九條 部隊ト稱スルハ陸軍ノ軍隊、官衙、學校、特務機關及戰時ニ於ケル陸軍ノ特設機關ヲ謂フ

第二十條 軍中ト稱スルハ左ニ記載シタル部隊ニ在ル場合ヲ謂フ

一 戰時ノ體勢ヲ執リタル部隊但シ留守部隊、衛戍勤務ニ服スル後備又ハ國民諸隊、戰地以外ノ地ニ在ル輸送又ハ補給諸機關ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク  
 二 戰時ノ體勢ヲ執ラサルモ對敵狀態ニ在ル部隊  
 三 事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎮定ニ從事スル部隊

第二十一條 陸軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ陸軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃

殺ス

第二十二條 多衆共同ノ暴行ヲ鎮壓スル爲又ハ敵前ニ在ル部隊ノ急迫ニ臨ミ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十三條 前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ト爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二十四條 本法及海軍刑法ニ於テ俱ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ陸軍軍人ニ準スル者ト雖海軍軍人ニ對シテハ海軍刑法ヲ適用ス

第二編 罪

第一章 叛亂ノ罪

第二十五條 黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
 一 首魁ハ死刑ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十六條 反亂ヲ爲ス目的ヲ以テ黨ヲ結ビ兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十七條 左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一 軍隊又ハ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト

二 敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スルコト

三 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スルコト

四 敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スルコト

五 敵國ニ降ラシムル爲司令官ヲ強要スルコト

六 敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又ハ之ヲ逃走セシムルコト

第二十八條 敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一 要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルコト

二 水陸ノ通路、橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ軍隊、艦船ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト

三 司令官軍隊ヲ率キテ守地若ハ配置ノ地ニ就カス又ハ其ノ地ヲ離ルルコト

四 隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ其ノ連絡集合ヲ妨害スルコト

五 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト

六 命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虛偽ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト

七 造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

第二十九條 前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第三十條 反亂者又ハ内亂者ヲ利スル爲前三條ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十一條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十二條 第二十五條乃至第三十條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十三條 第二十五條又ハ第二十六條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ事ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第三十四條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル

行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二十章 權權ノ罪

第三十五條 司令官外國ニ對シ故ナク戰鬥ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十六條 司令官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰鬥ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十七條 司令官權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ軍隊ヲ進退シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十八條 命令ヲ待タズ故ナク戰鬥ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三章 辱職ノ罪

第四十條 司令官其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ又ハ要塞ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處ス

第四十一條 司令官野戰ノ時ニ在リテ隊兵ヲ率



キ敵ニ降りタルトキハ其ノ盡スヘキ所ヲ盡シタル場合ト雖六月以下ノ禁錮ニ處ス

退去シタルトキハ死刑、無期若八十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四十二條 司令官敵前ニ於テ其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ隊兵ヲ率キ逃避シタルトキハ死刑ニ處ス

第四十六條 部下多衆共同シテ罪ヲ犯スニ當リ鎮定ノ方法ヲ盡ササル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十三條 司令官軍隊ヲ率キ故ナク守地若ハ配置ノ地ニ就カス又ハ其ノ地ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

第四十七條 哨兵故ナク守地ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十四條 司令官出兵ヲ要求スル權アル官憲ヨリ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十八條 哨兵睡眠又ハ酩酊シテ其ノ職務ヲ怠リタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

第四十五條 將校部隊若ハ一部ノ兵員ヲ率キ又ハ之ニ屬シ輸送船舶ニ在リテ敵ノ艦船ニ遭遇シタル際其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ其ノ船舶ヲ

一 敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

若ハ隊伍ヲ離レタルトキ又ハ到ルヘキ場所ニ到ラサルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若八十年以上ノ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十二條 軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡ササルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十條 故ナク規則ニ依ラスシテ哨兵ヲ交代セシメ其ノ他哨令ニ違反シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

第五十三條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

一 敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十四條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十五條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十一條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ斥候、巡察又ハ偵察ノ勤務ニ服スル者虛僞ノ報

告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳達ヲ掌ル者其ノ命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故ナク之ヲ傳達セサルトキ亦前項ニ同シ

若ハ隊伍ヲ離レタルトキ又ハ到ルヘキ場所ニ到ラサルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

第五十二條 軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡ササルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若八十年以上ノ禁錮ニ處ス

第五十三條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十四條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十五條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處

告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳達ヲ掌ル者其ノ命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故ナク之ヲ傳達セサルトキ亦前項ニ同シ

若ハ隊伍ヲ離レタルトキ又ハ到ルヘキ場所ニ到ラサルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

第五十二條 軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡ササルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若八十年以上ノ禁錮ニ處ス

第五十三條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十四條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十五條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處

斷ス

- 一 敵前ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四章 抗命ノ罪

- 第五十七條 上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
  - 一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處ス
  - 二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス
  - 三 其ノ他ノ場合ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五章 暴行脅迫ノ罪

- 第五十八條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
  - 一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
  - 二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
  - 三 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
- 第五十九條 暴行ヲ爲スニ當リ上官ノ制止ニ從ハサル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス
- 第六十條 上官ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
  - 一 敵前ナルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
  - 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十一條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ首魁ハ無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ五年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第六十四條 哨兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
  - 一 敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
  - 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第六十五條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
  - 一 敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
  - 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條 哨兵ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

斷ス

一 敵前ナルトキハ無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條 上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者

ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條 上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十一條 職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十二條 第六十條乃至第七十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六章 侮辱ノ罪

第七十三條 上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

文書、圖畫若ハ偶像ヲ公示シ又ハ演說ヲ爲シ其ノ他公然ノ方法ヲ以テ上官ヲ侮辱シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十四條 哨兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七章 逃亡ノ罪

第七十五條 故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

處ス

三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十六條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十七條 敵ニ奔リタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

第七十八條 第七十五條第一號、第七十六條第

一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八章 軍用物損壞ノ罪

第七十九條 陸軍ノ工場、船舶、戰闘ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若ハ橋梁又ハ陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

第八十條 露積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
- 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十一條 火藥、汽罐其ノ他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

第八十二條 第七十九條ニ記載シタル物又ハ陸軍戰闘ノ用ニ供スル鐵道、電線若ハ水陸ノ通路

ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十三條 兵器、彈藥、糧食、被服、馬匹其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條 第七十九條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十五條 本章ノ規定ハ陸軍ト共同作戰ニ從フ外國陸海軍ノ軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第九章 掠奪ノ罪

第八十六條 戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十七條 戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ褫奪シタル者ハ一年以上ノ

有期懲役ニ處ス

第八十八條 前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章 俘虜ニ關スル罪

第九十條 俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條 俘虜ヲ逃走セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 俘虜ヲ奪取シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條 逃走シタル俘虜ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條 第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十一章 違令ノ罪

第九十五條 哨兵ヲ欺キテ哨所ヲ通過シ又ハ哨兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス
- 二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス
- 三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ外哨兵ニ對シ哨令ヲ犯シタル者亦前項ニ同シ

第九十六條 在郷軍人故ナク召集ノ期限ニ後レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル

召集ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十七條 兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

在郷軍人召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第九十八條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル虚偽ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百條 禮砲、號砲其ノ他空包ヲ發スヘキ場合ニ於テ彈丸、瓦石其ノ他ノ物ヲ裝填シテ發シタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百一條 哨兵又ハ衛兵故ナク銃砲ヲ發シタルトキハ二年以下ノ禁固ニ處ス

第一百二條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ急呼ノ號報アリタル場合ニ故ナク來會セサル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百三條 政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁固ニ處ス

第一百四條 服從ノ義務ニ違フヘキ事ヲ目的トシテ黨ヲ結ヒタルトキハ首魁ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十四年第六十九號布告陸軍刑法ハ之ヲ廢止ス

陸軍刑法終

朕陸軍懲罰令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名 御璽

明治四十四年十月十三日

陸軍大臣 男爵 石本新六

軍令陸第四號

陸軍懲罰令

改正加除〔軍令陸第八號〕  
大正十年八月五日

次 目

陸軍懲罰令目次

第一章	總則	自第一	七	條	一
第二章	罰目	自第三	八	條	二
第三章	罰權	自第二	十	條	三
第四章	處罰	自第三	十一	條	七
雜則		自第四	十二	條	九
附則		自第五	十三	條	九
		至第五	十六	條	

陸軍懲罰令

第一章 總則

第一條 陸軍軍人ニシテ其ノ本分ニ背キ又ハ軍事ノ定則ニ違ヒ其ノ他軍紀ヲ害シ風紀ヲ紊リ其ノ犯行陸軍刑法ノ罪ニ該ラサルトキハ本令ニ依リ之ヲ懲罰ス  
陸軍刑法以外ノ法令ノ刑ニ處セラレタル軍人ハ軍事ノ必要ニ依リ更ニ本令ニ依リ懲罰スルコトヲ得

第二條 本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ之ヲ適用ス

- 一 現役ニ在ル者但シ待命、休職、停職中ノ者並未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク
- 二 召集中ノ在郷軍人
- 三 召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人
- 四 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

五 陸軍所屬ノ學生及生徒但シ陸軍幼年學校生徒及各部依託學生同生徒ヲ除ク

六 第二號及第三號ニ記載シタル者ノ外現ニ服役上ノ義務履行中又ハ陸軍軍人ノ身分ヲ表彰シ得ヘキ服裝ヲ爲スル在郷軍人

第三條 本令ニ於テ在郷軍人ト稱スルハ待命、休職、停職中ノ者、現役以外ノ役ニ在ル者、現役ニ在リテ未タ入營セサル者、歸休兵及退役將校、同相當官、准士官ヲ謂フ

第四條 將校相當官、准士官、見習士官見習主計、見習醫官、見習藥劑官、及陸軍經理學校卒業後ノ三等主計候補者タル下士ハ將校ニ、士官候補生見習士官ヲ主計候補生ヲ除ク一年志願兵及一年現役兵ハ各其ノ階級ニ應シ下士又ハ兵卒ニ準ス陸軍ノ兵役又ハ兵籍ニ在リテ官等等級ヲ有セサル者ハ兵卒ニ準ス



第五條 故ナク徵集又ハ召集ノ期ニ遅レタル者ハ入營後ニ於テ之ヲ懲罰スルコトヲ得

第六條 犯行アル者懲罰處分ヲ經ス其ノ職務ヲ去リ除隊若ハ召集解除ト爲リ又ハ第二條第六號ニ該當セサルニ至リタルトキト雖仍之ヲ懲罰ス但シ兵役ヲ免シ又ハ兵籍ヲ除キタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第九條ノ罰目ヲ科ス

第七條 懲罰處分ノ言渡ヲ受ケタル者其ノ執行前又ハ執行中其ノ職務ヲ去リ又ハ除隊若ハ召集解除ト爲リタル場合ニ在リテハ其ノ懲罰ノ執行ヲ免除ス但シ歸休又ハ召集解除ト爲ルヘキ下士兵卒ニ在リテハ徵兵令、陸軍軍人服役令其ノ他法令ニ定ムル現役期限若ハ召集期日ノ範圍内ニ於テ必要ニ應ジ其ノ懲罰期間歸休又ハ召集解除ヲ延期スルコトヲ得

前項ニ依リ歸休又ハ召集解除ヲ延期セムトスルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル上官師團長 寮長 守備隊司令官 又ハ之ト同等以上ノ權アル

上官ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 罰 目

第八條 第二條第一號乃至第五號ノ者ニ科スヘキ罰目左ノ如シ

將校

- 一 重謹慎
- 二 輕謹慎
- 三 譴責
- 四 下士

免官

- 一 重謹慎
- 二 輕謹慎
- 三 譴責
- 四 兵卒

降等

- 一 重營倉
- 二 輕營倉

第九條 第二條第六號ノ者ニ科スヘキ罰目左ノ

如シ

將校

- 一 禮遇停止
- 二 譴責

下士

- 一 免官
- 二 譴責

兵卒

- 一 降等
- 二 譴責

第十條 重謹慎輕謹慎ハ各其ノ日數一日以上三十日以内トシ勤務ニ服セシメス居室ニ在リテハ懲罰ノ言渡ヲ爲シタル者ニ在リテ謹慎セシム但シ輕謹慎ニ處セラレタル者ハ聯隊長 下士ニ在リ及之ト同等以上ノ權ヲ有スル上官之ニ演習教育等ノ爲特ニ出務ヲ命スルコトヲ得

重謹慎輕謹慎ニ處セラレタル者ハ罰期間重謹慎

ニ在リテハ俸給十分五、輕謹慎ニ在リテハ俸給十分二ヲ減ス

第十一條 免官ハ其ノ官ヲ免シ一等卒ト爲シ降等ハ一階級ヲ下ス

第十二條 重營倉ハ其ノ日數一日以上三十日以内トシ營倉ニ鋼シ寢具ヲ貸與セス飯、湯及鹽ノミヲ給シ演習及教育ノ場合ヲ除クノ外勤務ニ服スルコトヲ禁ス但シ三日ノ内一日ハ寢具ヲ貸與シ通常ノ糧食ヲ給スルモノトス

氣候風土疾病等ニ依リ必要アルトキハ聯隊長及之ト同等以上ノ權ヲ有スル上官竝獨立、分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長ハ重營倉ニ處セラレタル者ニ對シ特ニ寢具ノ使用ヲ許スコトヲ得

第十三條 輕營倉ハ其ノ日數一日以上三十日以内トシ營倉ニ鋼シ演習及教育ノ場合ヲ除クノ外勤務ニ服スルコトヲ禁ス

第十四條 重營倉輕營倉ニ處セラレタル者ハ罰期間左ノ例ニ依リ俸給ヲ減ス

重營倉營内居住者ニ在リテハ十分八、營外居

住者ニ在リテハ十分五  
輕營倉 營内居住者ニ在リテハ十分五、營外  
居住者ニ在リテハ十分二

第十五條 重營倉及輕營倉ハ勤務其ノ他ノ必要  
アルトキハ左ノ各號ニ依リ禁足又ハ苦役ヲ以テ  
之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テモ重營倉又  
ハ輕營倉ニ對スル減俸ヲ行フモノトス

一 兵卒ノ階級ニ在ル學生、生徒ニ在リテハ  
重營倉一日ヲ禁足三日、輕營倉一日ヲ禁足  
二日ニ換算ス

二 兵卒ニ在リテハ重營倉一日ヲ苦役三日、  
輕營倉一日ヲ禁足二日ニ換算ス但シ營外居  
住者ニ在リテハ重營倉一日ヲ禁足三日ニ換  
算ス

第十六條 禁足ハ勤務、演習及教育ノ場合ヲ除  
クノ外營内居住者ハ營外ニ、營外居住者ハ居宅  
外ニ出ツルコトヲ禁ス

第十七條 苦役ハ勤務演習及教育ノ場合ヲ除ク  
ノ外營外ニ出ツルコトヲ禁シ營内ノ雜役ニ服セ

シムルモノトス

第十八條 誹責ハ犯行ヲ糺シ將來ヲ戒飭スルモ  
ノトス

第十九條 禮遇停止ハ一日以上一年以内トシ召  
集ノ場合ヲ除クノ外陸軍制服ノ着用ヲ禁シ軍人  
ノ待遇ヲ停止スルモノトス

第二十條 同一ノ上官ハ一箇ノ犯行ニ對シ罰目  
ヲ併科スルコトヲ得ス

第三章 罰 權

第二十一條 師團長及之ト同等以上ノ權アル軍  
隊ノ長ハ部下ニ對シ本令ニ規定スル一切ノ罰目  
ヲ科スルノ權ヲ有ス

第二十二條 旅團長聯隊長並獨立、分屯若ハ分  
遣セル軍隊ノ長タル將官及佐官ハ部下ニ對シ本  
令ニ規定スル一切ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス但  
シ免官及降等ニ付テハ師團長又ハ之ト同等以上  
ノ權アル上官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 大隊長及獨立、分屯若ハ分遣セル

軍隊ノ長タル大尉ハ部下ニ對シ左ノ罰權ヲ有ス

一 士官准士官ニ對シテ十日以内ノ重謹慎輕  
謹慎並誹責

二 下士ニ對シテ二十日以内ノ重謹慎輕謹慎  
並誹責

三 兵卒ニ對シテ三十日以内ノ重營倉並輕營  
倉

第二十四條 中隊長及獨立、分屯若ハ分遣セル  
軍隊ノ長タル中少尉ハ部下ニ對シ左ノ罰權ヲ有  
ス

一 士官准士官ニ對シテ誹責

二 下士ニ對シテ十日以内ノ重謹慎輕謹慎並  
誹責

三 兵卒ニ對シテ二十日以内ノ重營倉並輕營  
倉

第二十五條 前四條以外ノ各長官ハ左ノ各號ニ  
依リ部下ニ對シ罰權ヲ有ス

一 師團長ト同等以上ノ權アル將官ハ師團長  
ノ罰權

二 前號以外ノ將官同相當官ハ旅團長ノ罰權

三 大中佐同相當官ヲ以テ充ツヘキ職ニ在ル  
者並獨立ノ職ニ在ル少佐同相當官ハ聯隊長  
ノ罰權

四 前號ノ外少佐同相當官ヲ以テ充ツヘキ職  
ニ在ル者並獨立ノ職ニ在ル大尉同相當官ハ  
大隊長ノ罰權

五 前號ノ外大尉同相當官ヲ以テ充ツヘキ職  
ニ在ル者並中少尉同相當官ハ中隊長ノ罰權

第二十六條 學生、生徒及分遣中ノ下士兵卒等  
ニ對スル學校長、教導(生徒)隊長、同中隊長ノ  
罰權並臨時ノ部下ニ對スル上官ノ罰權ハ前五條  
ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 兼職者其ノ他部下ニ非サルモ事務  
上指揮ヲ受クヘキ者ノ長官ハ其ノ職務上ノ犯行  
ニ關シ前條ニ準シ罰權ヲ有ス

第二十八條 患者ヲ收容スル衛生機關ノ長官ハ  
下士以下ノ患者ニ對シ部下ニ對スルト同一ノ罰  
權ヲ有ス

**第二十九條** 衛戍司令官及要塞司令官其ノ他一地域ニ於ケル陸軍ノ秩序ヲ維持シ警備ニ任スル司令官ハ其ノ職權ニ基ク命令規則ニ對スル犯行者アルトキハ下級官等ノ軍人ニ對シ部下ニ對スルト同一ノ罰權ヲ有ス

**第三十條** 師團長及聯隊區司令官ハ其ノ所管内ニ現住スル在郷軍人ニシテ第二條第六號又ハ第六條ニ該當スル者ニ對シ第九條ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス但シ上長官以上ノ懲罰、士官准士官ノ禮遇停止ハ師團長之ヲ行ヒ聯隊區司令官ニ於テ下士兵卒ノ免官降等ヲ行ハムトスルトキハ師團長ノ認可ヲ受クヘシ朝鮮、臺灣、樺太又ハ滿洲ニ現住スル在郷軍人ノ犯行ニ對シテハ各其ノ地域ニ從ヒ朝鮮軍司令官、臺灣軍司令官、關東軍司令官、第七師團長第九條ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス

**第三十一條** 上級職務心得勤ノ者及二官等ヲ通シテ充ツルコトヲ得ル職ニ在ル下級者ノ罰權ハ上級官等ノモノニ同シ

三官等以上ヲ通シテ充ツルコトヲ得ル職ニ在ル者ノ罰權ハ其ノ官等相當ノモノトス

**第三十二條** 將校相當官ノ部下ニ屬スル各兵科將校ノ犯行ハ該上官ノ具申ニ基キ其ノ長官タル將官又ハ各兵科將校之ヲ懲罰スルモノトス

**第三十三條** 直屬上官ニ非サル長官部下ノ犯行ヲ現認シタルトキハ必要ニ應ジ直ニ自己ノ權限ニ依リ之ヲ懲罰スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受罰者ノ直屬上官ニ通牒スヘシ

**第三十四條** 上官ニシテ自己ノ權限以上ノ處分ヲ要スル犯行者アルトキハ先ツ其ノ權限ニ依リ之ヲ懲罰シ意見ヲ附シテ自己ノ直屬上官ニ上申スヘシ

**第三十五條** 懲罰處分ヲ爲シタル各上官ハ其ノ直屬上官ニ報告シ受罰者第二十六條第二十八條又ハ第二十九條ニ該當スルトキハ仍受罰者ノ直屬上官ニ通牒スヘシ

受罰者在郷軍人ニシテ官公吏ナルトキハ之ヲ本人所屬ノ官公署長ニ通牒スヘシ

所管内ニ現住スル在郷軍人ニシテ他所管ニ屬スル者ナルトキハ前二項ノ外受罰者本籍地ノ陸軍關係諸官ニ通牒スヘシ

**第三十六條** 前二條ノ申報ヲ受ケタル上官及直屬上官ニ非サル長官ハ其ノ懲罰ニシテ輕キニ失スルモノト認メタルトキハ其ノ權限ニ依リ懲罰期間ヲ増加シ又ハ新ニ罰目ヲ附料スルコトヲ得但シ附料スヘキ罰目ハ第八條及第九條ノ區分ニ從ヒ前罰目ニ比シ重キモノヲ加フルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第九條ノ罰目ヲ除クノ外各官ノ懲罰日數 下級上官ノ初ヲ通算シ三十日ヲ超過スルコトヲ得ス但シ重營倉若ハ輕營倉ニ代ヘ禁足又ハ苦役ヲ科シタルトキハ其ノ重營倉又ハ輕營倉ノ日數ヲ通算スルモノトス

**第三十七條** 上官ハ部下ノ懲罰處分及其ノ執行ヲ監督スヘシ其ノ懲罰處分ニシテ本令ノ規定ニ反スルモノアルトキハ其ノ罰目罰期ヲ變更シ若ハ懲罰處分ヲ取消スコトヲ得但シ故意過失等犯

行ノ性質ニ對シ認定ヲ異ニシタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第三十八條** 前條ニ依リ罰目罰期ヲ變更シタルトキハ既ニ服罰シタル日數 禁足又ハ苦役ヲ執行服罰日數ニ相當スルハ新罰目ノ日數ニ通算ス但シ重營倉輕營倉ノ日數ハ新罰目ノ日數ニ通算ス但シ重謹慎輕謹慎又ハ重營倉輕營倉ヲ通算スル場合ニハ重謹慎又ハ重營倉一日ヲ輕謹慎又ハ輕營倉二日ニ換算ス

**第三十九條** 親補職タル將官ニ對シテハ本令ヲ適用セス

第四章 處 罰

**第四十條** 懲罰處分ヲ爲スニハ犯行ノ事實ヲ審查シ其ノ弊害ノ程度、犯行ノ情狀其ノ他受罰者ノ性行等ヲ斟酌シテ罰ヲ定ムヘシ但シ第二十七條ニ依リ懲罰處分ヲ爲ス場合ニ於テハ本屬長官

ニ協議スルモノトス  
第四十一條 免官降等ハ犯行重キ者又ハ屢刑罰若ハ懲罰ノ處分ヲ受ケ仍改悛ノ狀ナキ者ニ科ス  
第四十二條 重謹慎重管倉ハ故意ニ係ル犯行ニ科シ輕謹慎輕管倉ハ過失ニ係ル犯行ニ科スルヲ例トス

第四十三條 懲罰處分ヲ爲スニハ口頭ヲ以テ詳ニ犯行ヲ示シ其ノ懲罰ヲ言渡スヘシ若シ犯行者ノ所在地遠隔スルトキハ言渡書ヲ作り之ヲ其ノ直屬上官ニ送付シ同官之ヲ讀開カスヘシ但シ直屬上官在ラサルトキハ本人ニ送付スルモノトス前項懲罰ノ言渡ハ必要ニ應シ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ所屬部隊中ニ公示スルコトヲ得  
第四十四條 懲罰ノ言渡ニハ受罰者ノ直屬上官若ハ受罰者ト同官等同等以上ノ者ヲ陪列セシムルヲ例トス  
第四十五條 懲罰ハ言渡後直ニ之ヲ執行ス但シ勤務其ノ他ノ必要ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得

前項猶豫又ハ停止ノ日數ハ懲罰期間ニ算入セス  
第四十六條 戰時又ハ事變ノ場合ニハ裁罰ノ儘服務セシムルコトヲ得但シ其ノ服務日數ハ懲罰期間ニ之ヲ算入ス  
第四十七條 重管倉輕管倉ニ處セラレタル者ハ其ノ所屬部隊ノ管倉ニ編シ所屬部隊ニ管倉ナキトキハ附近ニ在ル部隊ノ管倉又ハ憲兵隊ノ留置所ニ編スルモノトス  
第四十八條 懲罰執行中疾病ニ罹リタルトキハ醫師ノ診斷ヲ受ケ水火等ノ災害ニ際シテハ防救遷徒スルコトヲ得  
疾病中ノ者ハ診斷ノ結果ニ依リ懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止日數ハ公務ニ基因スル疾病ニ依ル場合ヲ除クノ外懲罰期間ニ算入セス

第四十九條 犯行アル者轉職又ハ轉隊スルトキハ懲罰ノ言渡ヲ爲シ之ヲ執行シタル後出發セシムルモノトス但シ第四十五條但書及第四十六條ノ場合ニ在リテハ裁罰ノ儘轉職又ハ轉隊セシムルコトヲ得

ルコトヲ得  
第五十條 轉職又ハ轉隊シタル者ノ舊所管ニ於ケル犯行發覺シタルトキハ新舊上官協議シ新上官之ヲ懲罰スヘシ  
前項ノ規定ハ第六條及第二十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第五十一條 免官降等ニ處セラレタル者懲罰執行中ノ者又ハ懲罰執行猶豫若ハ停止中ノ者ニシテ特ニ功績、勤勞アルトキ若ハ改悛ノ狀顯著ナルトキハ其ノ官等級ヲ復シ又ハ其ノ懲罰ノ執行ヲ減免スルコトヲ得但シ之ヲ復スルノ手續ハ官等ニ在リテハ任官、等級ニ在リテハ進級ノ例ニ依ル  
第五十二條 懲罰ノ執行ヲ終リタルトキハ第四十四條ニ定ムル者ヲ陪列セシメ受罰者ヲシテ將來ノ改悛ヲ誓言セシムヘシ

第五十三條 犯行ヲ審理スル場合ニ於テ犯行者

雜 則

ヲ管倉ニ留置シ又ハ其ノ勤務ヲ停止スルコトヲ要スルトキハ其ノ罰權ヲ有スル上官之ヲ命シ該上官在ラサルトキハ犯行者ヨリ上級ノ者假ニ之ヲ命スルコトヲ得  
第五十四條 懲罰期間ノ計算ニハ執行ノ初日ハ時間ニ拘ラス一日トシテ算入シ重管倉輕管倉ノ解網ハ其ノ期間滿了ノ翌日午前ニ於テ之ヲ行フ  
第五十五條 軍人ニシテ軍紀風紀ニ有害ナル行爲アルトキ之ヲ現認シタル上級者ハ訓誡制止シ尙懲罰ニ處スルノ必要アリト認メタルトキハ本人所屬ノ上官ニ申告スヘシ  
第五十六條 俘虜ノ懲罰ハ免官降等ニ關スルモノヲ除クノ外其ノ官等級及身分ニ應シ第八條ノ罰目ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍軍隊符號

陸軍第二十八號  
陸軍軍隊符號冊ノ通改正ノ  
大正十三年八月十三日

陸軍大臣 宇垣 一成

(甲)

--	--

陸軍軍隊符號

目次

第一 通則	一
第二 野戰ノ部	四
一 各兵共通	四
二 步兵	七
三 騎兵	九
四 野戰砲兵	一一
五 工兵	一三
六 通信、照明	一四
七 航空及防空	一七
八 行李、輜重	二〇
九 警戒及宿營	二三
十 作業	二六
十一 鐵道、船舶關係	二九
十二 兵站關係	三二
第三 攻守城ノ部	三九
第四 海軍ノ部	四六

目次

一〇二

陸軍軍隊符號

第一通則

- 一、符號ハ着色スルヲ常トシ彼我兩軍ヲ標示スルニハ通常敵軍ニ赤色ヲ、我軍ニ藍色ヲ用フルモノトス
- 二、本書ノ符號ハ使用ノ目的ニ適シ適宜取捨シ使用者ノ意思ヲ簡明ニ表示スル如ク活用スヘキモノトス之カ爲符號ノ一部ヲ省略シ或ハ數種ヲ彼此接合シ要スレハ註記及臨時符號ニ依リ補足スルコトヲ得
- 三、近衛師團ニ在リテハ略字ノ頭ニGノ字ヲ、獨立ノ名稱ヲ冠スル部隊ニ在リテハ略字ノ後尾ニSノ一字ヲ附記ス後備隊ニ在リテハ略字ノ下ニ一ヲ、國民軍隊ニ在リテハ二ヲ附スルモノトス
- 四、地區ノ境界、特定ノ地域ノ限界等ヲ標示スルニハ適宜ノ線號ヲ用ヒ射方向、攻撃ノ重點、部隊ノ移動方向等ヲ表示スルニハ適宜ノ矢↑ ↓ ↗ ↘ノ如キモノヲ用フ
- 五、編制上ノ番號ヲ示スニハ聯隊内ノ大隊號ニ限リ羅馬數字ヲ用ヒ其ノ他ノ部隊ハ總テ亞利比亞數字ヲ用フ例ハ21. 18Pノ如シ
- 六、部隊數又ハ銃、砲、機銃等ヲ表示スルニハ數字(要スレバ)

編制ノ部 各兵共通

三〇四

第二野戰ノ部

一 各兵共通

- 略字註記ヲ併記スニ括弧ヲ附シ之ヲ示スモノトス例ハ：
- i(五六)
  - K(四中)
  - A(三大)
  - p(一少)
  - (2)
  - (6)
  - (2)
- 七、上級部隊ノ番號ヲ併記スルヲ要スルトキハ斜線ヲ以テ相隔テ下級部隊ヲ上ニ上級部隊ヲ下ニ記スルモノトス例ハ歩兵第二聯隊ノ第三大隊ハ III/2iノ如シ
- 八、小隊、分隊ヲ示スニハ通常中隊ヲ單位トスル分數ヲ以テス例ハ騎兵第五聯隊第二中隊ノ一分隊ハ 5/2Kノ如シ
- 九、部隊ノ一部ヲ缺キタル部隊ヲ示スニハ負號ヲ附シ括弧内ニ之ヲ示ス例ハ歩兵第二聯隊(第八、第十二中隊欠)ハ 22(8,12)ノ如シ
- 隊標 略字名稱
- 大本營
  - 總軍司令部
  - 方面軍司令部
  - A 軍

<p>TK 戰車</p> <p>SM 擲彈筒</p> <p>LM 重迫擊砲</p> <p>MG 輕迫擊砲</p> <p>機關銃</p> <p>機關銃(中)隊</p> <p>同兵卒</p> <p>部隊ノ集團</p>	<p>C 軍司令部</p> <p>D 軍團</p> <p>R 師團</p> <p>B 旅團</p> <p>聯隊</p> <p>各兵中隊長</p> <p>各兵中隊長</p> <p>同下士</p>

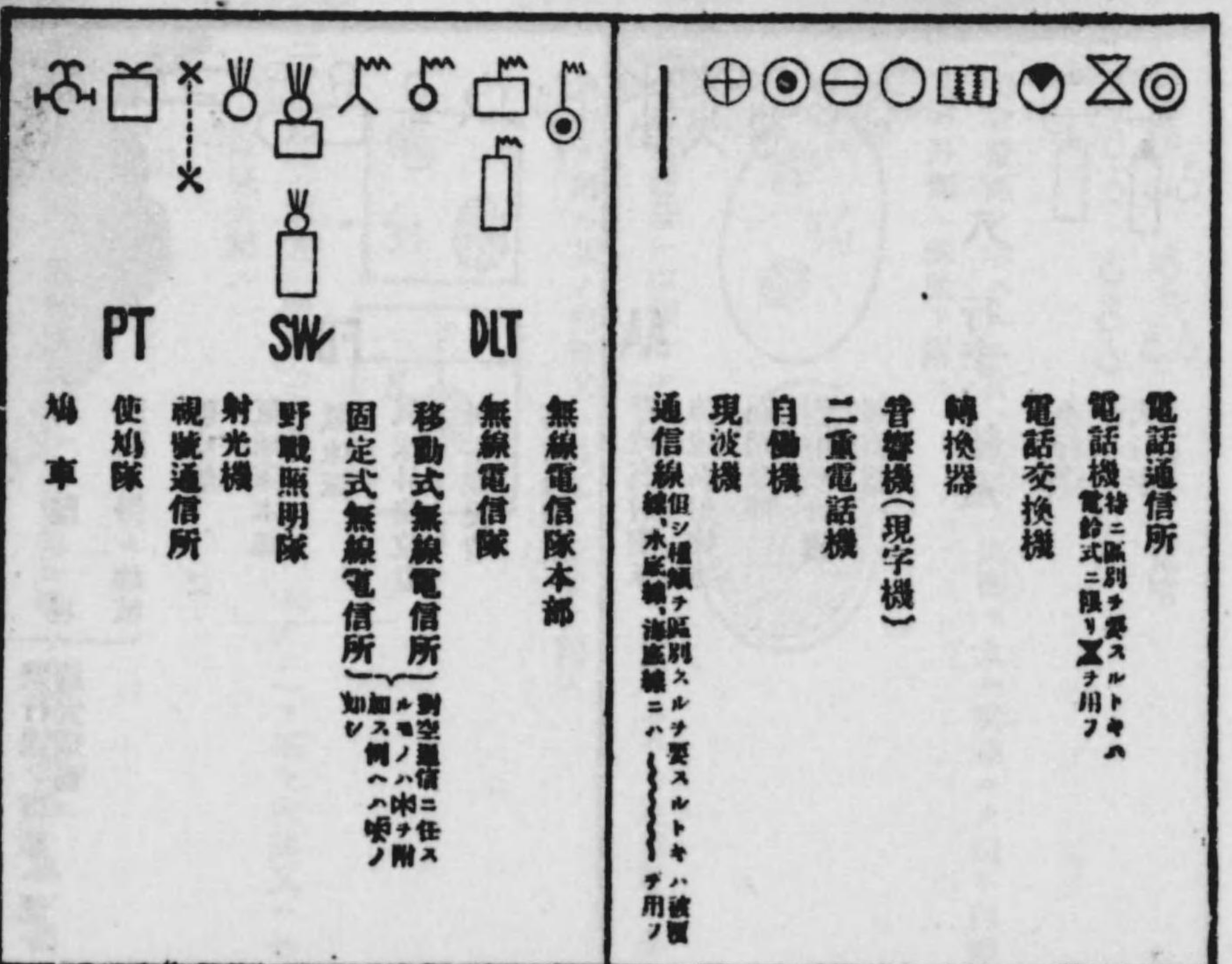
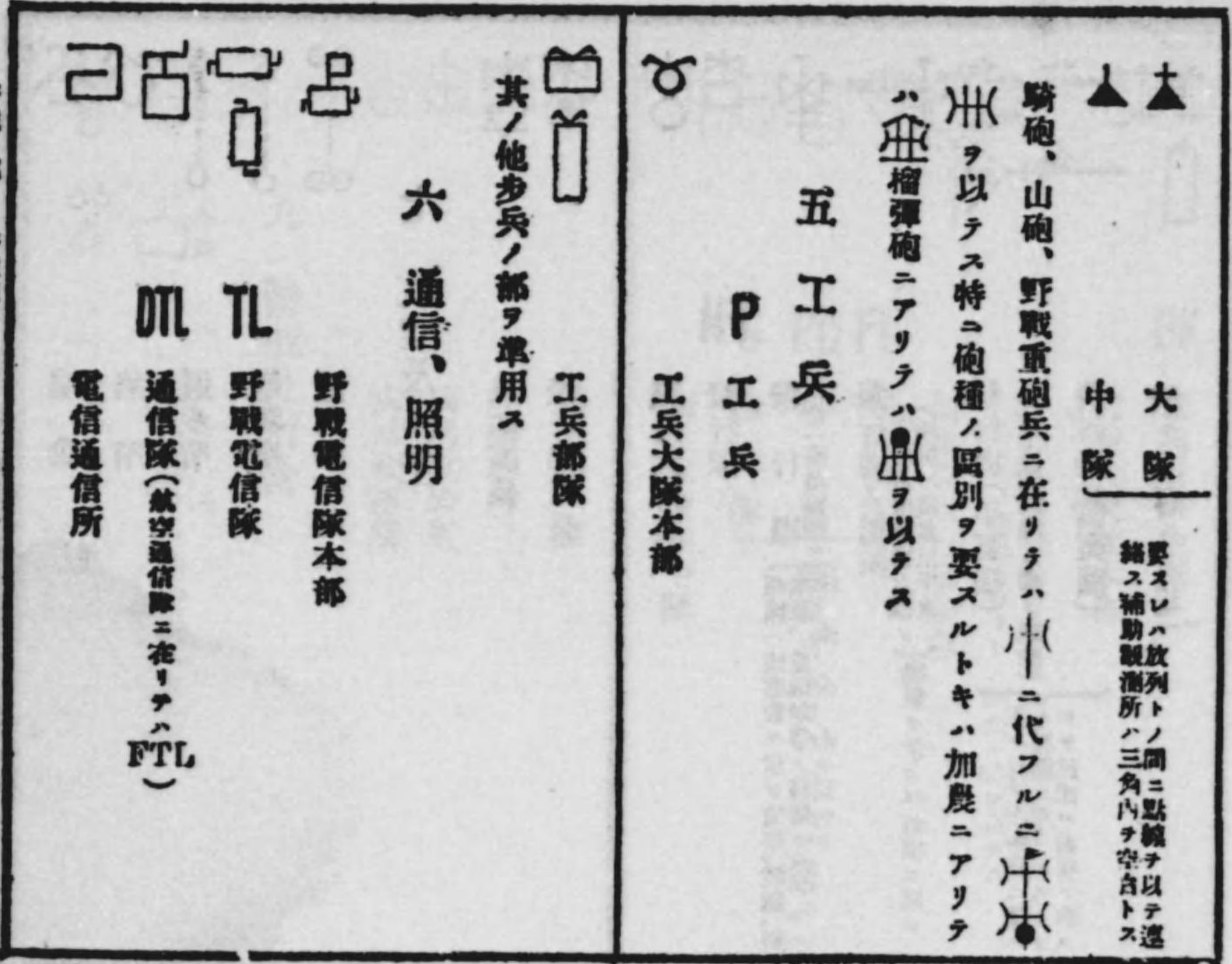
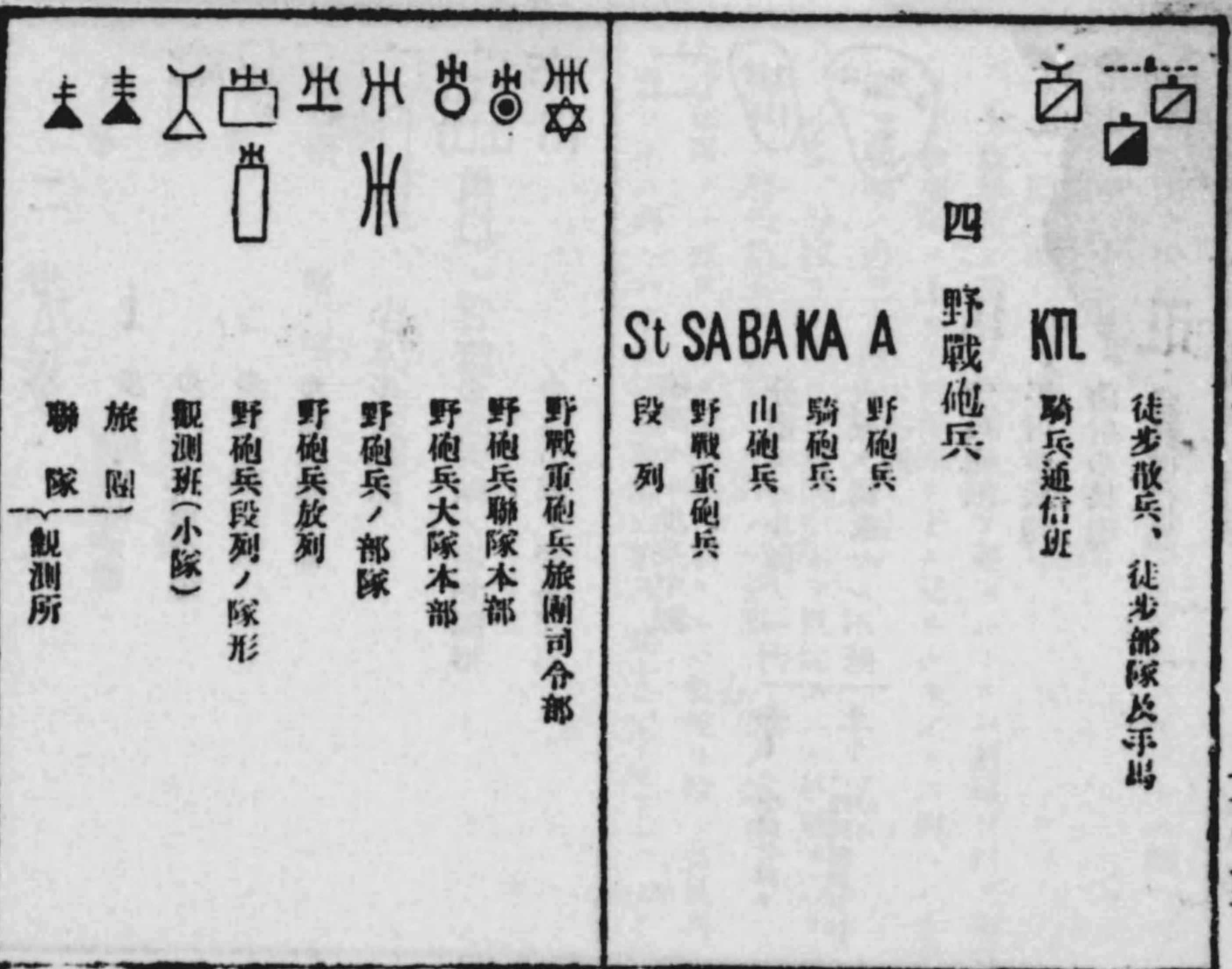
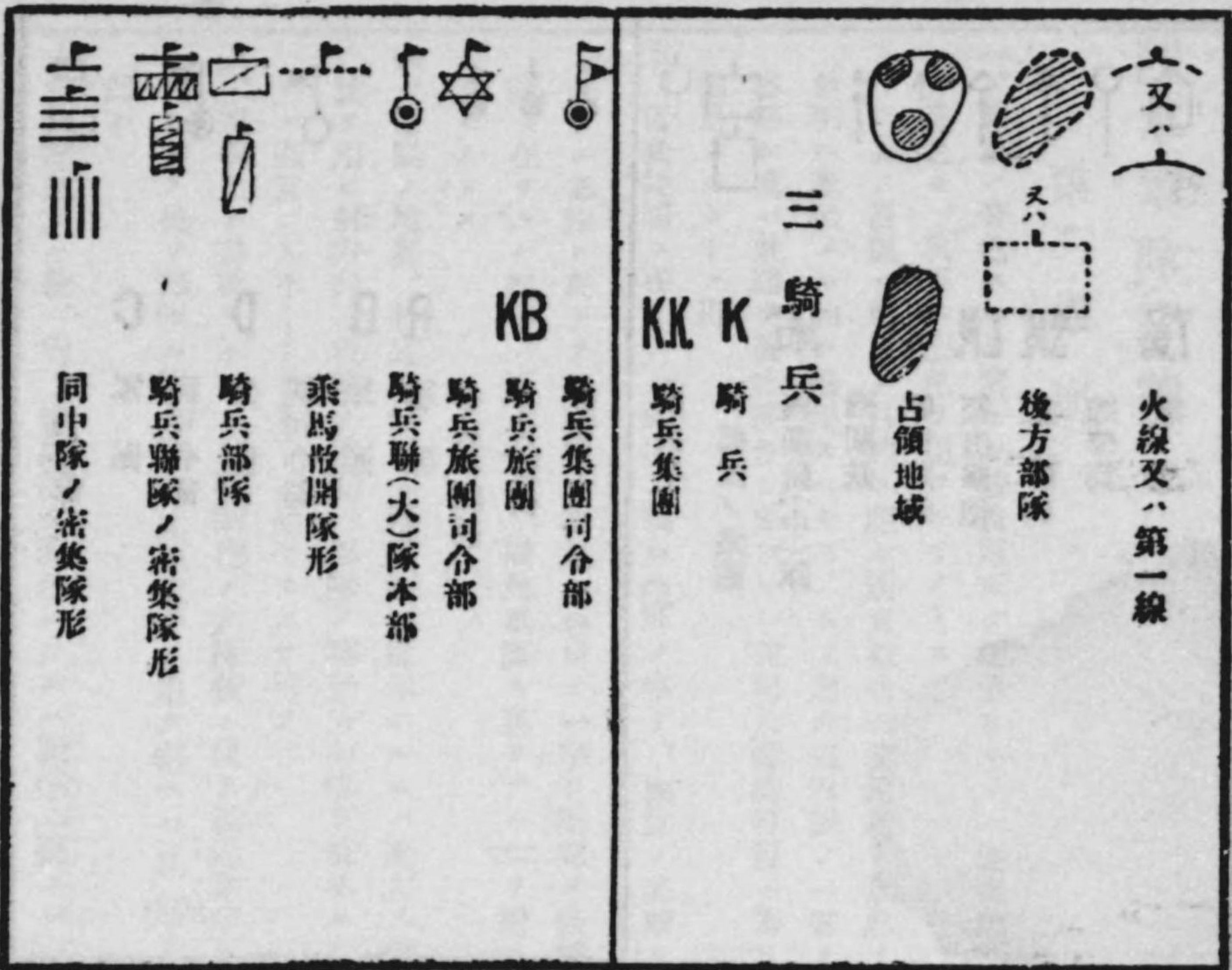
編制ノ部 各兵共通

三〇六

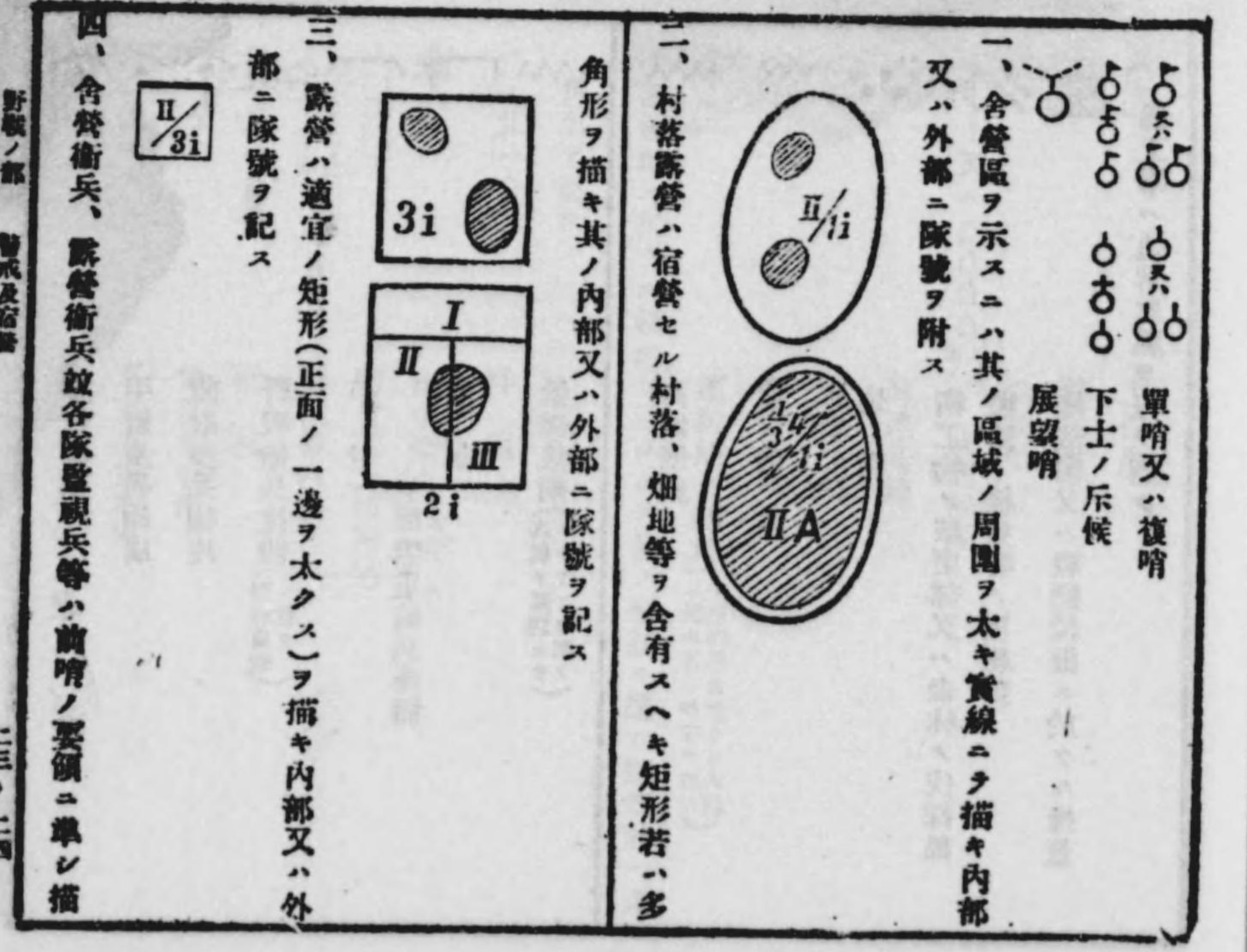
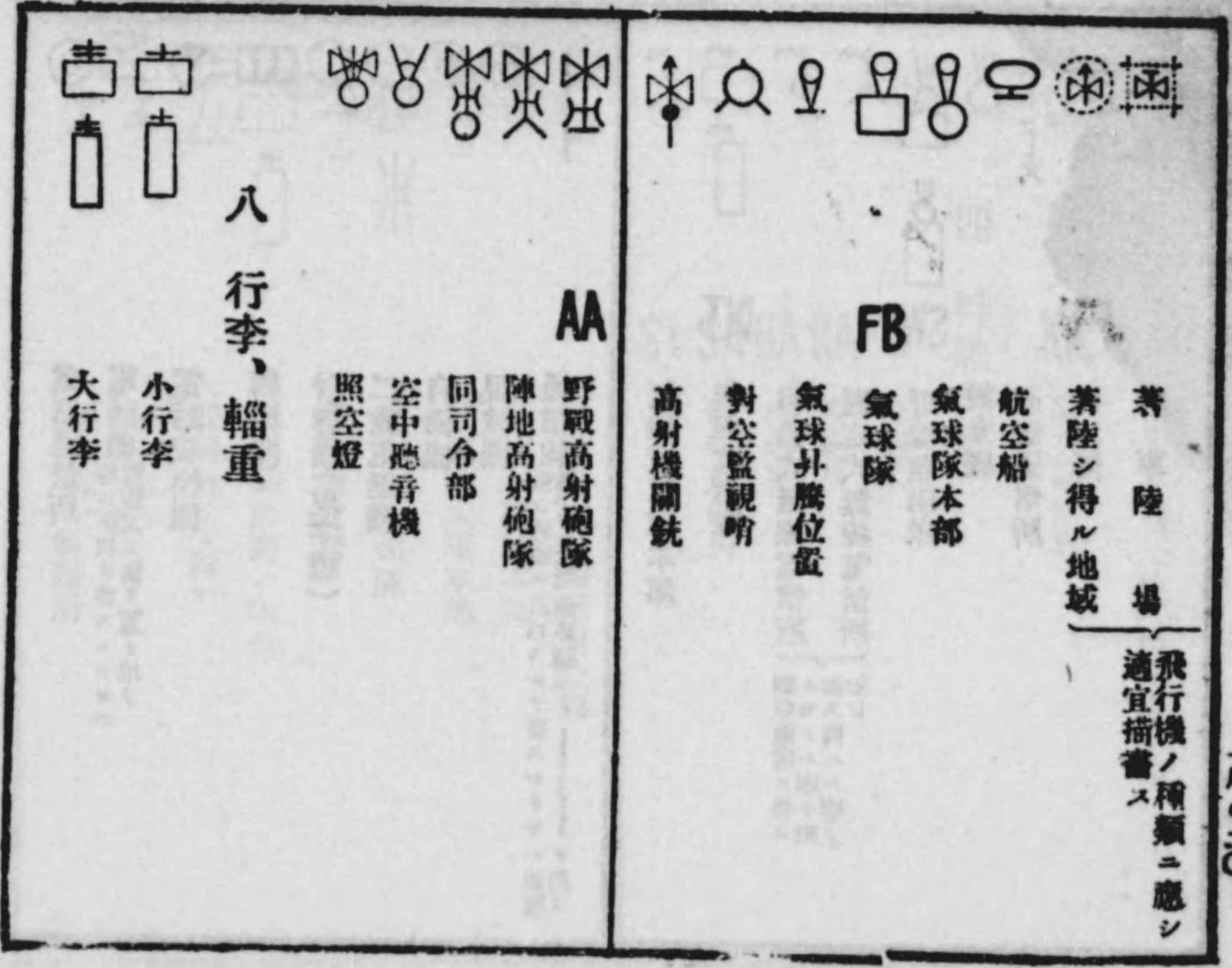
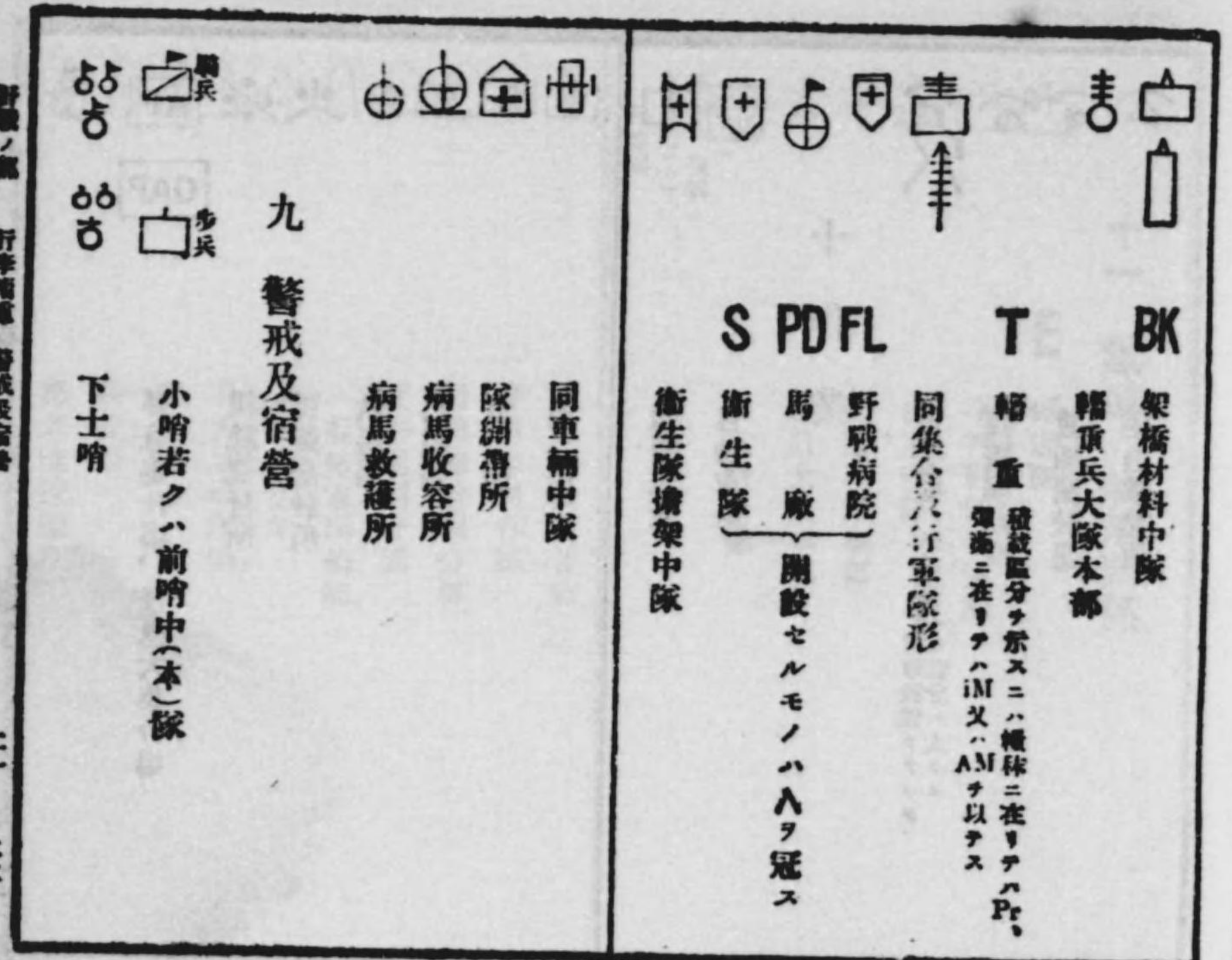
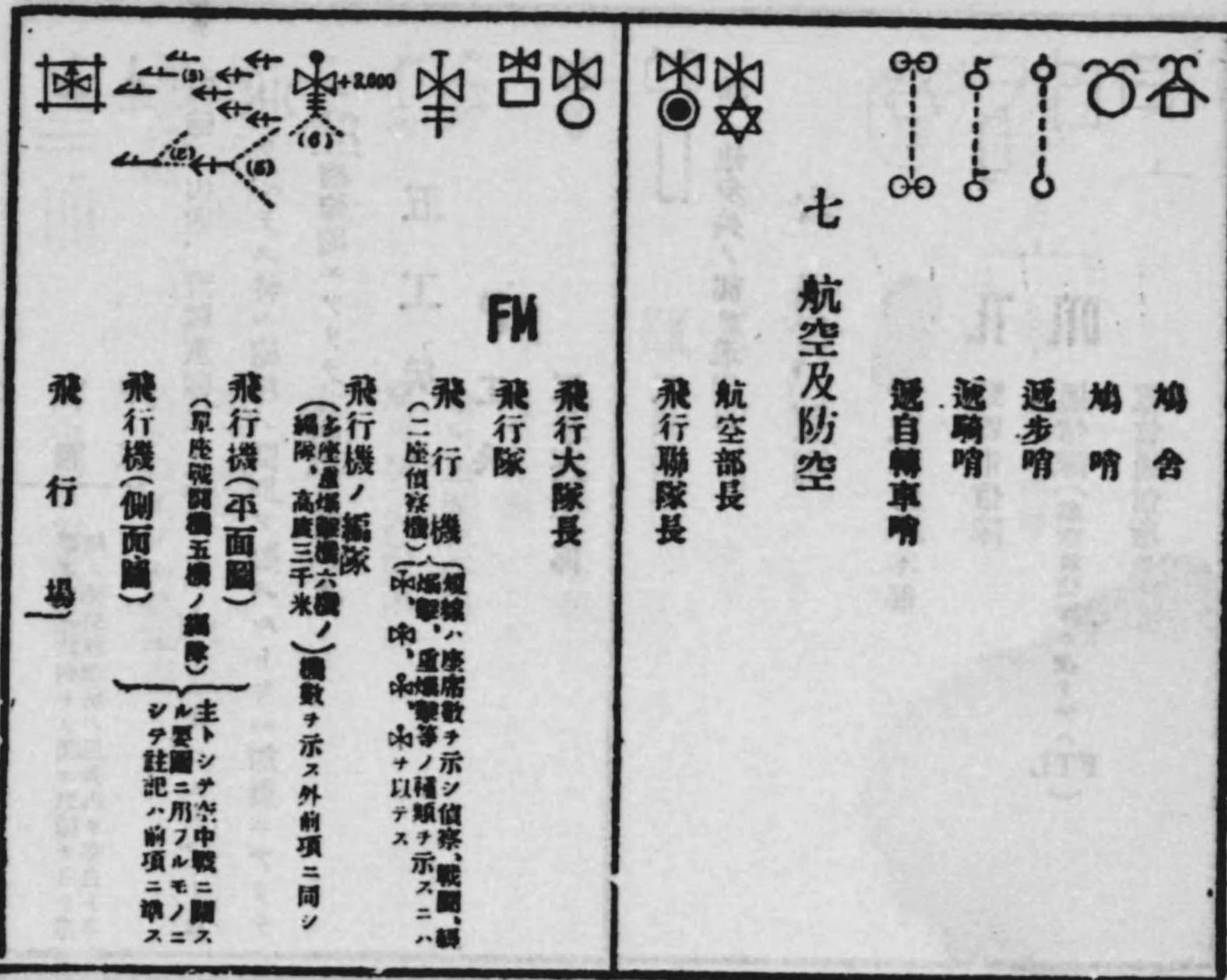
<p>ia 步兵砲隊</p> <p>平射步兵砲</p> <p>曲射步兵砲</p> <p>步兵通信班</p> <p>砲開セル步兵中隊</p> <p>分散セル小隊ノ一例</p> <p>火線ヲ構成セル小隊ノ一例</p> <p>↑ 小隊分隊ヲ示ス</p> <p>↑ 性質別分隊ヲ示ス</p>	<p>i 步兵</p> <p>步兵旅團司令部</p> <p>步兵聯隊本部</p> <p>步兵大隊本部</p> <p>步兵部隊</p> <p>步兵大隊ノ密集隊形</p> <p>步兵中隊ノ密集隊形</p>

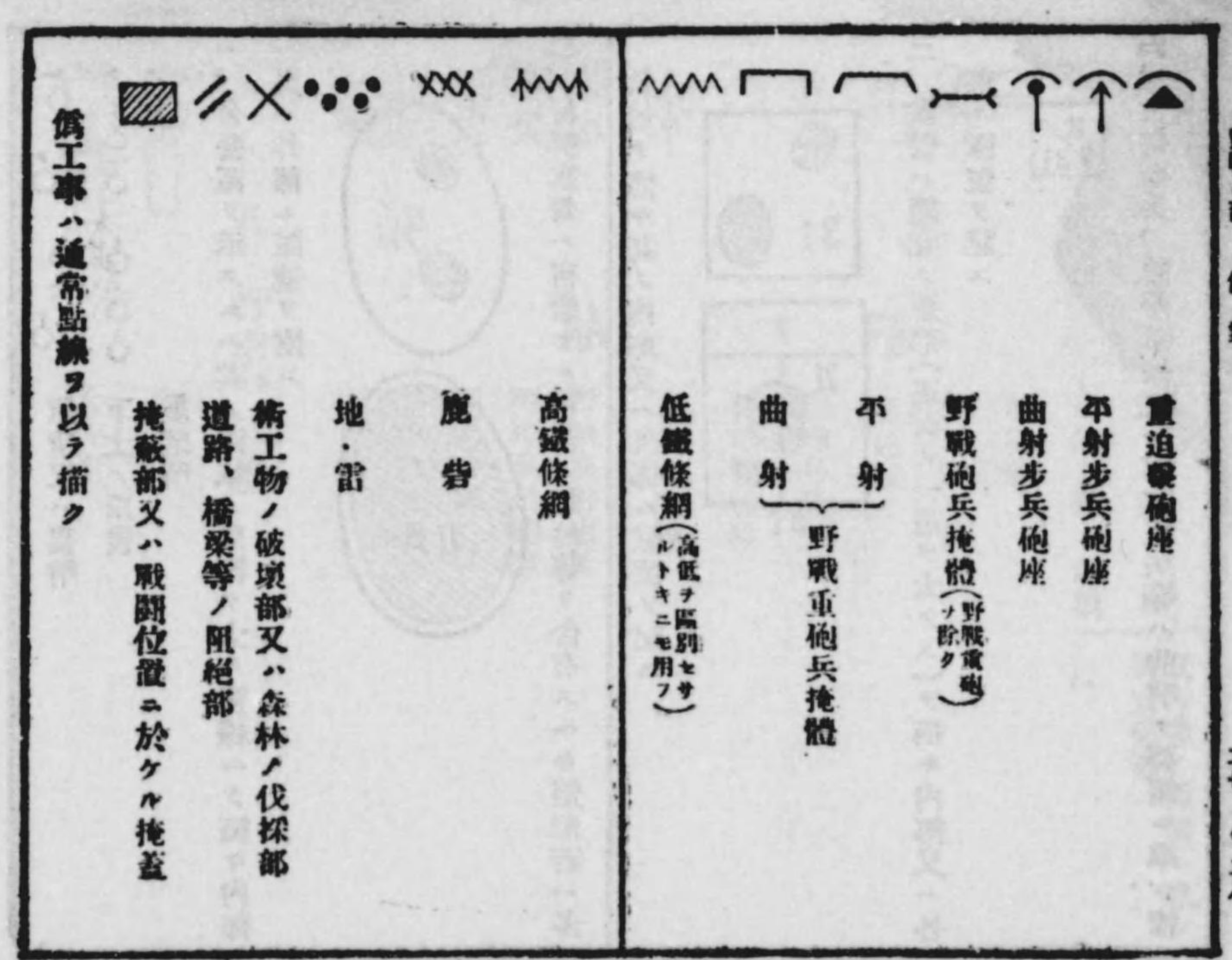
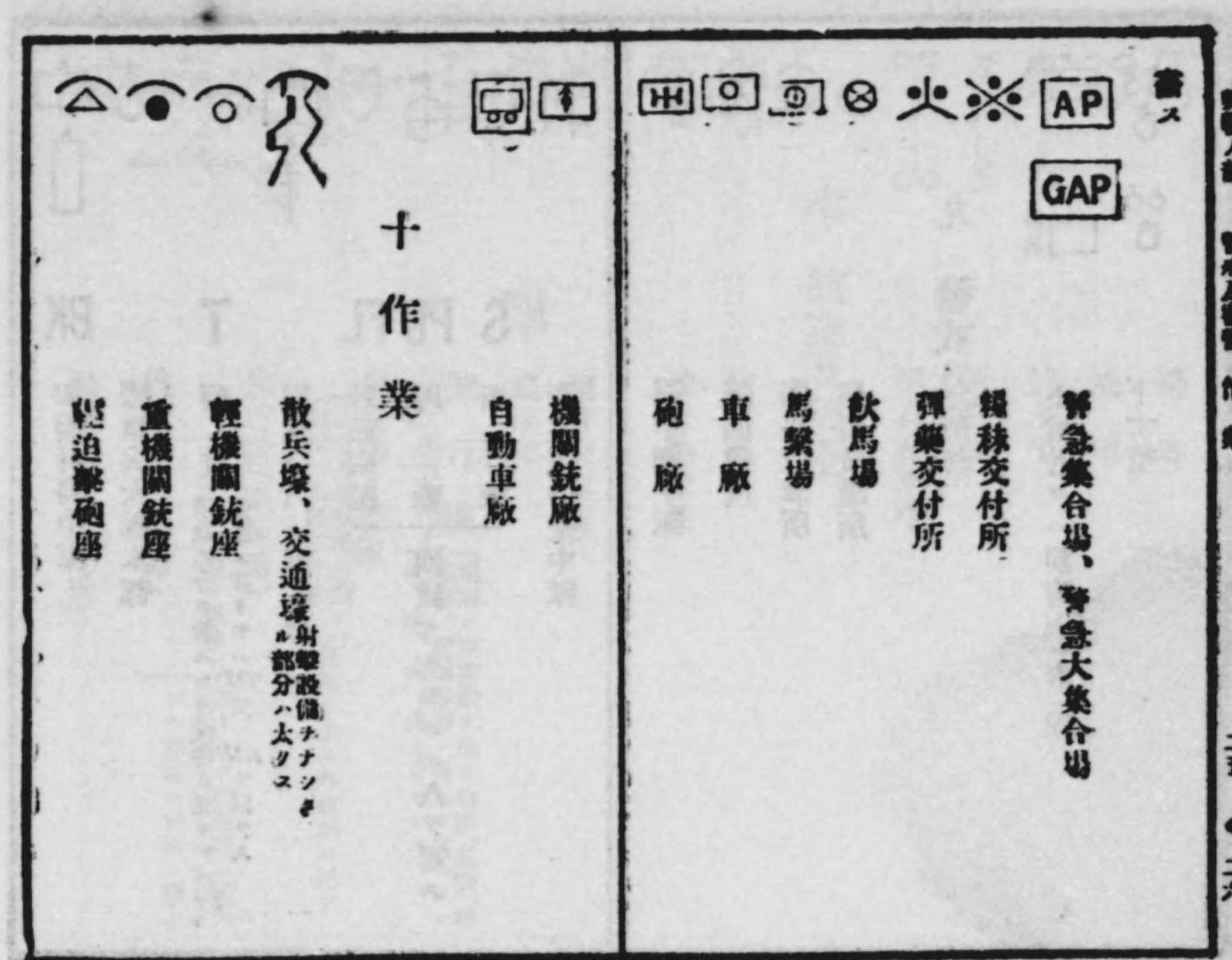
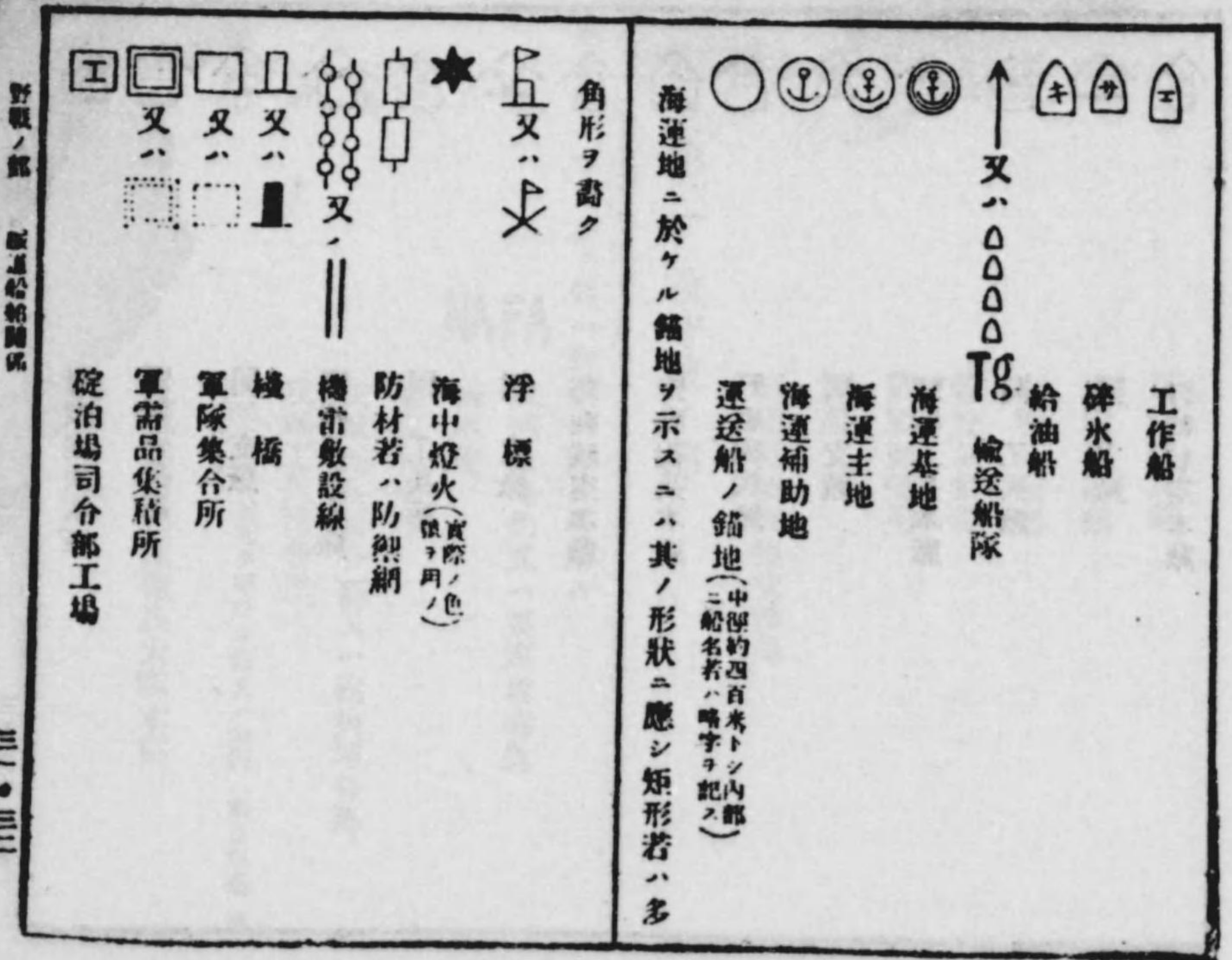
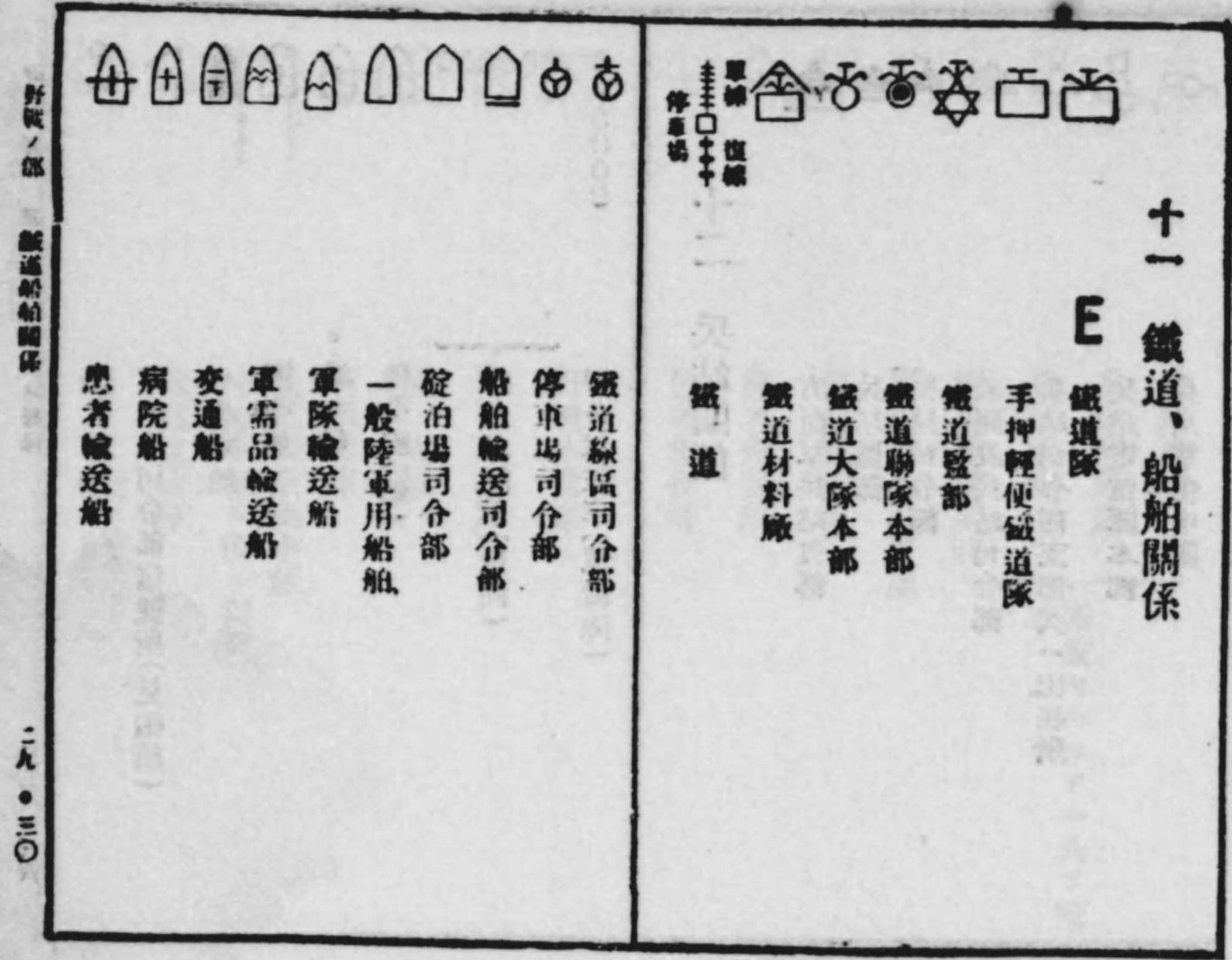
編制ノ部 步兵

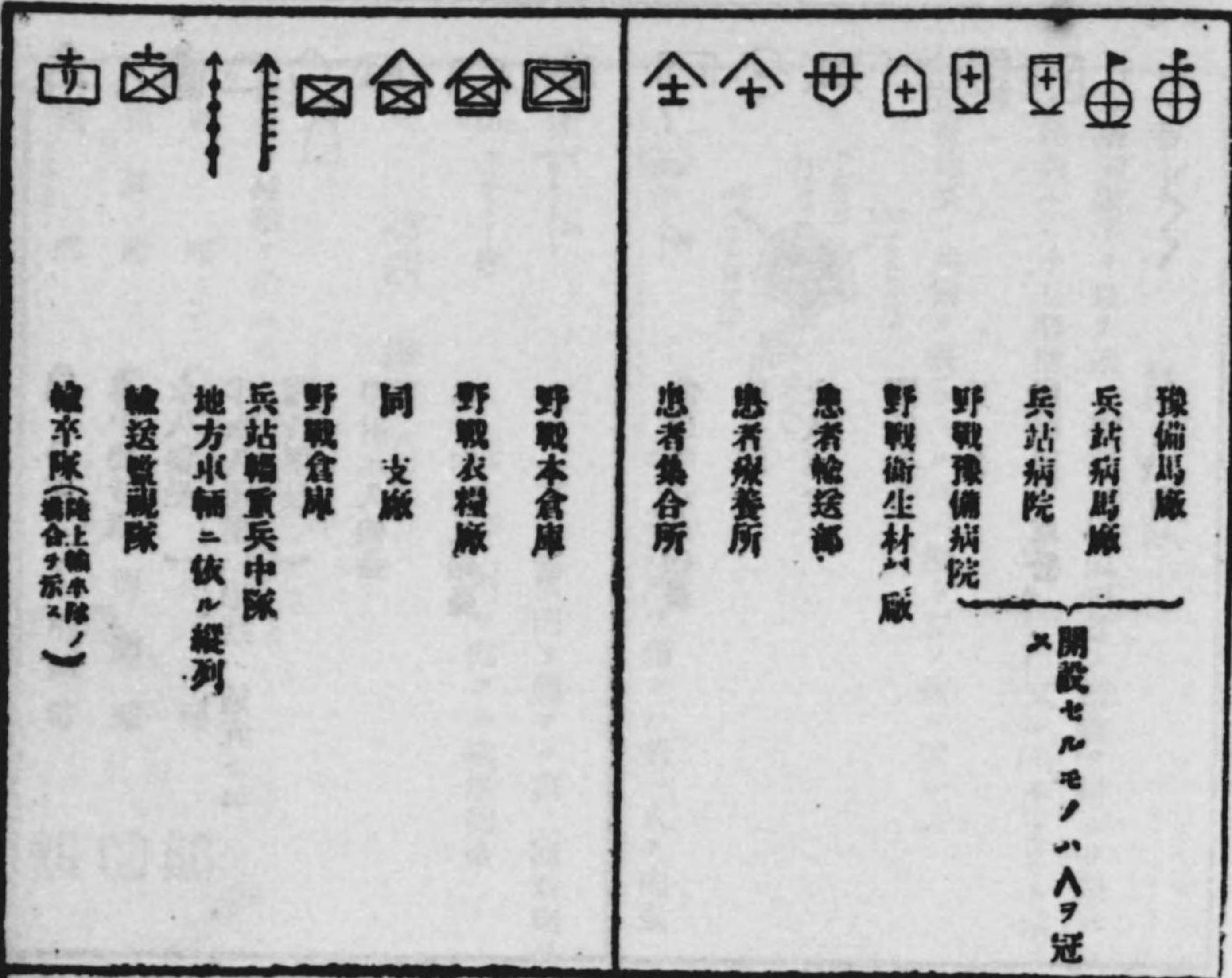
七〇八



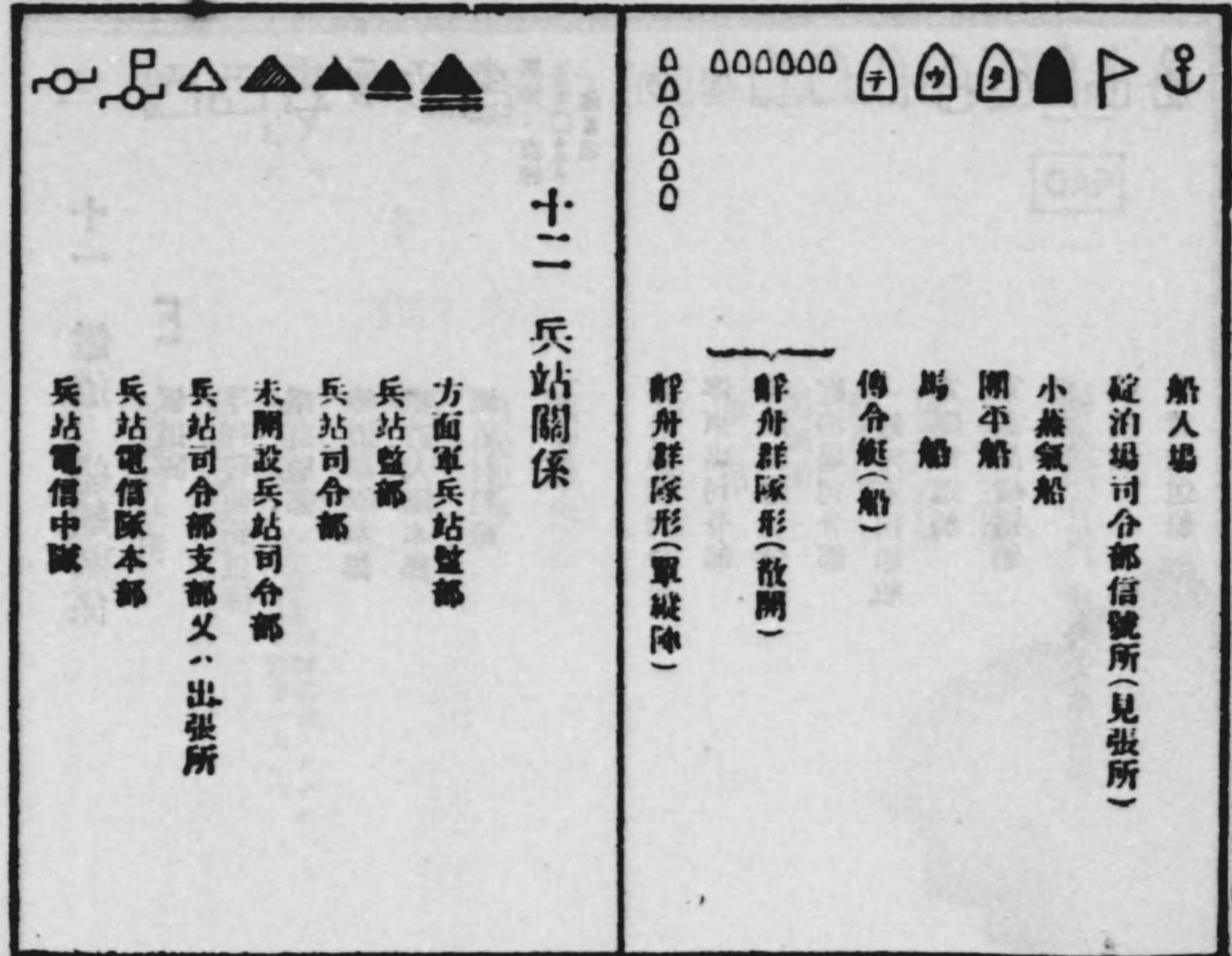






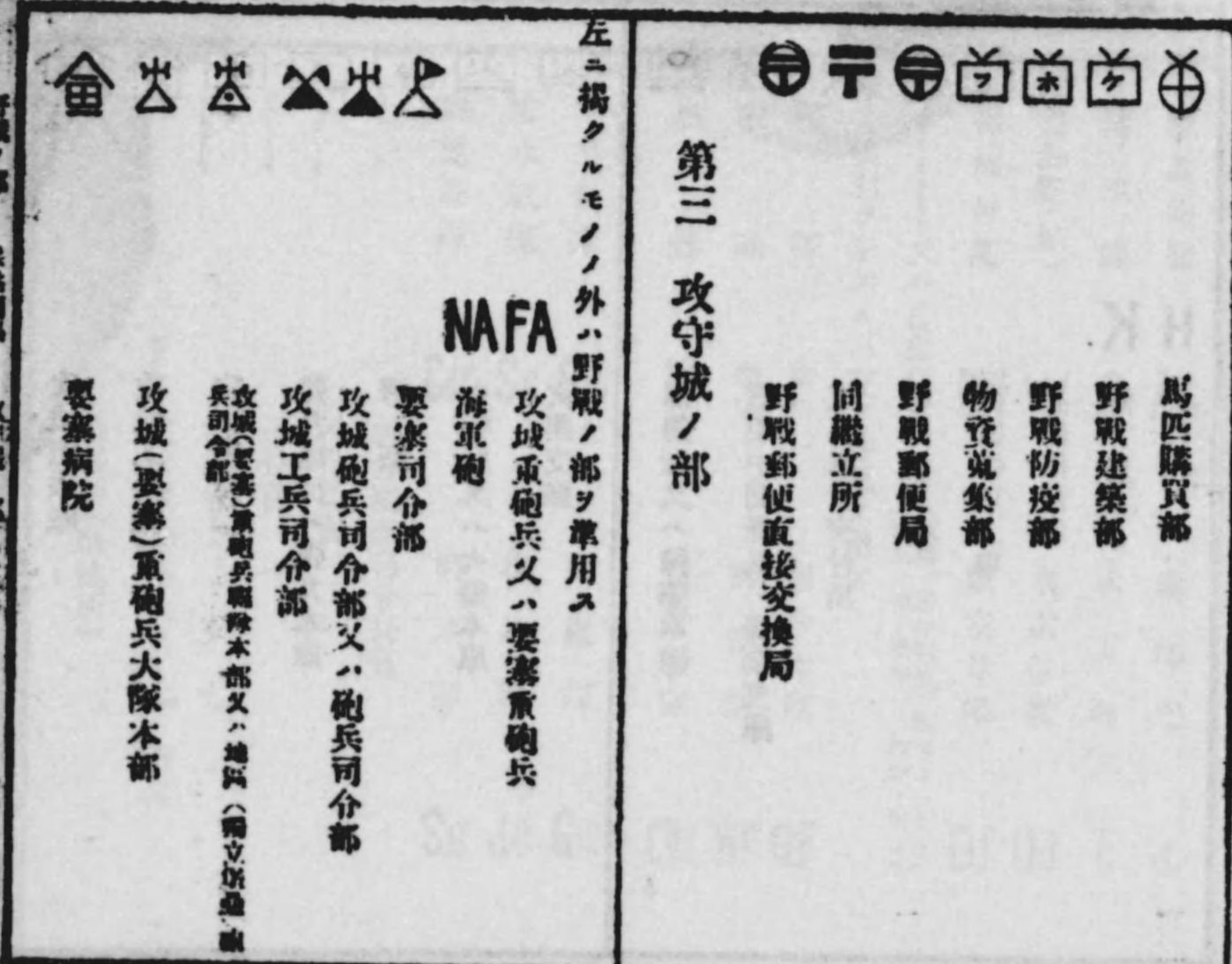


野戰ノ部 兵站關係 三七〇三八

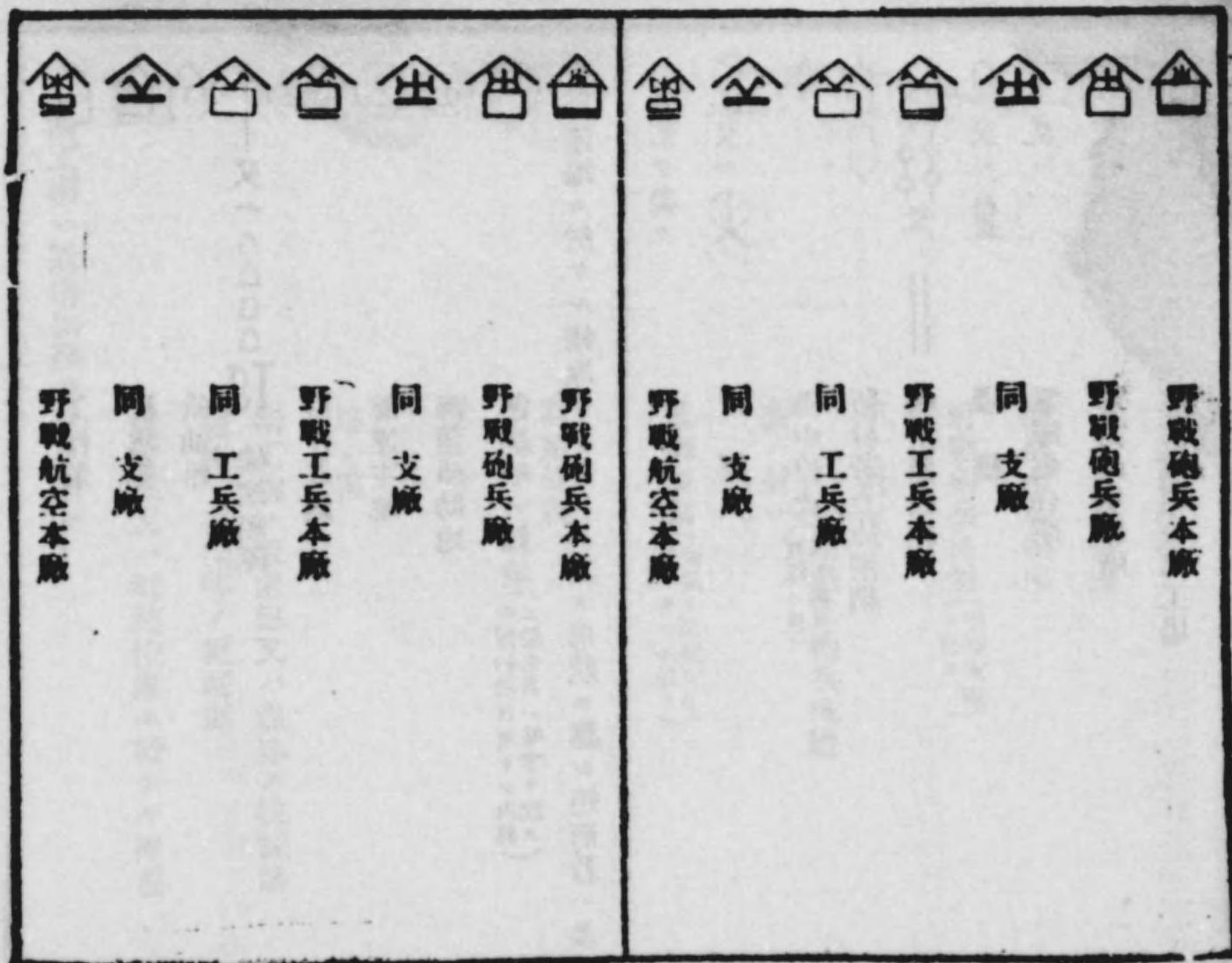


十二 兵站關係

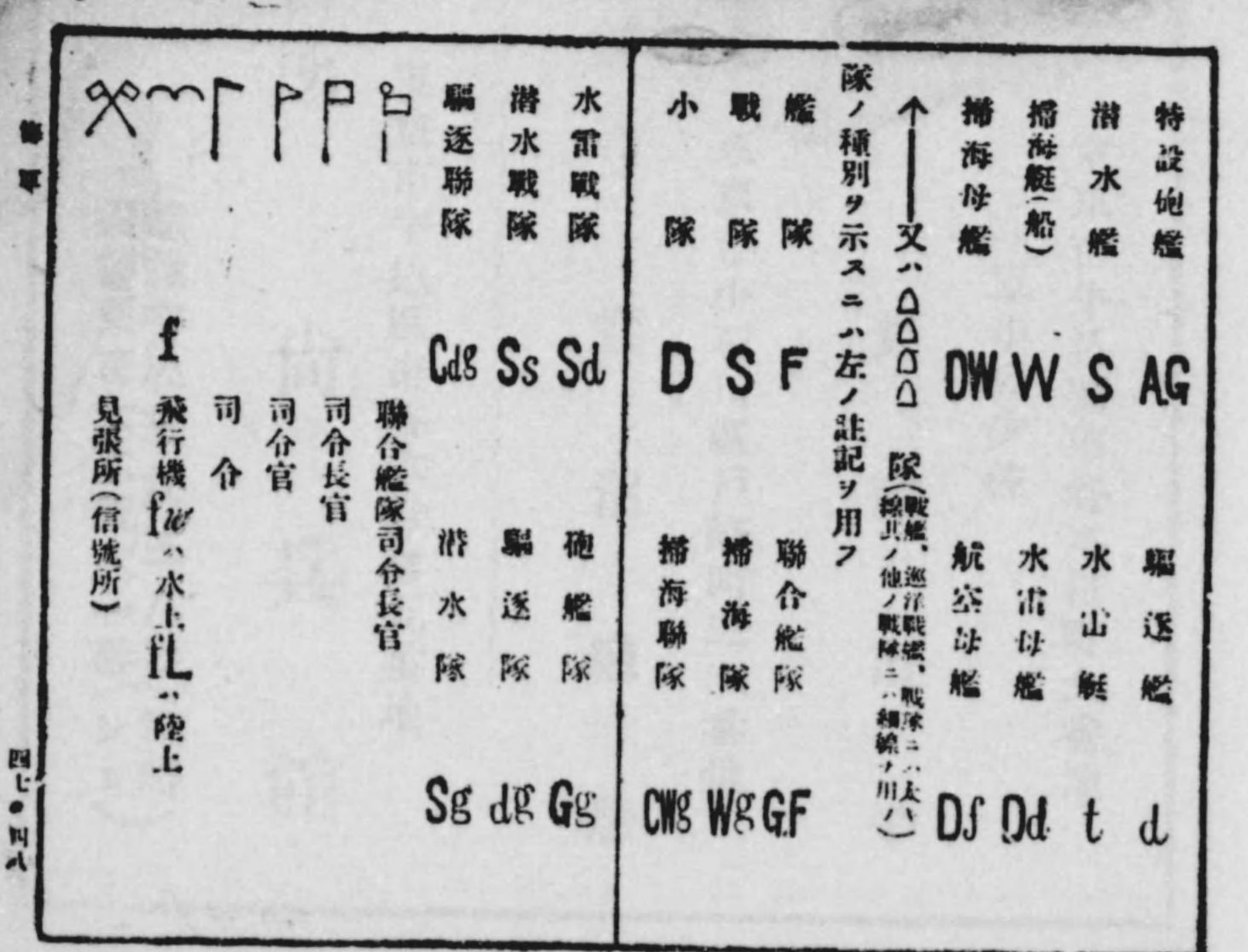
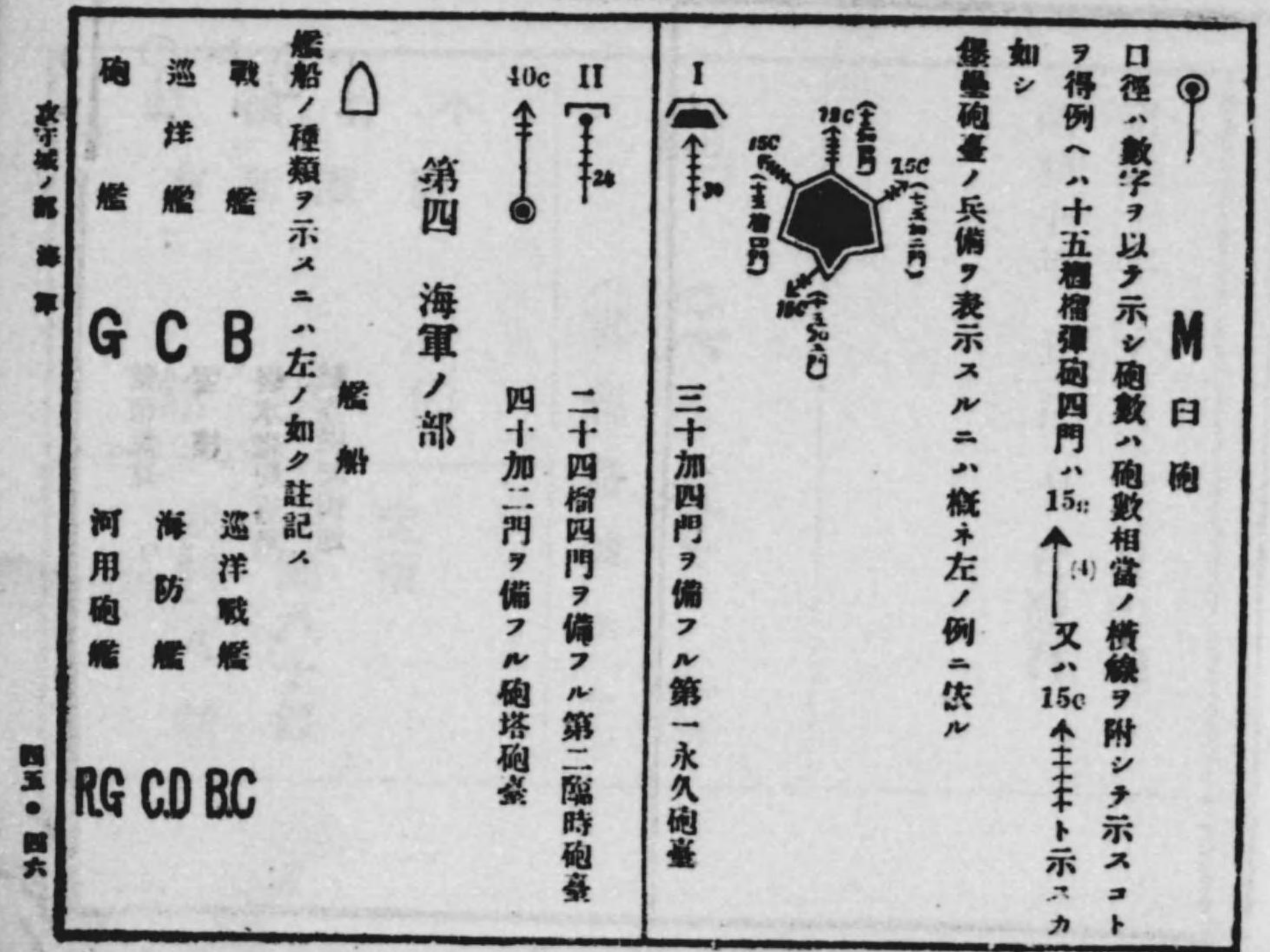
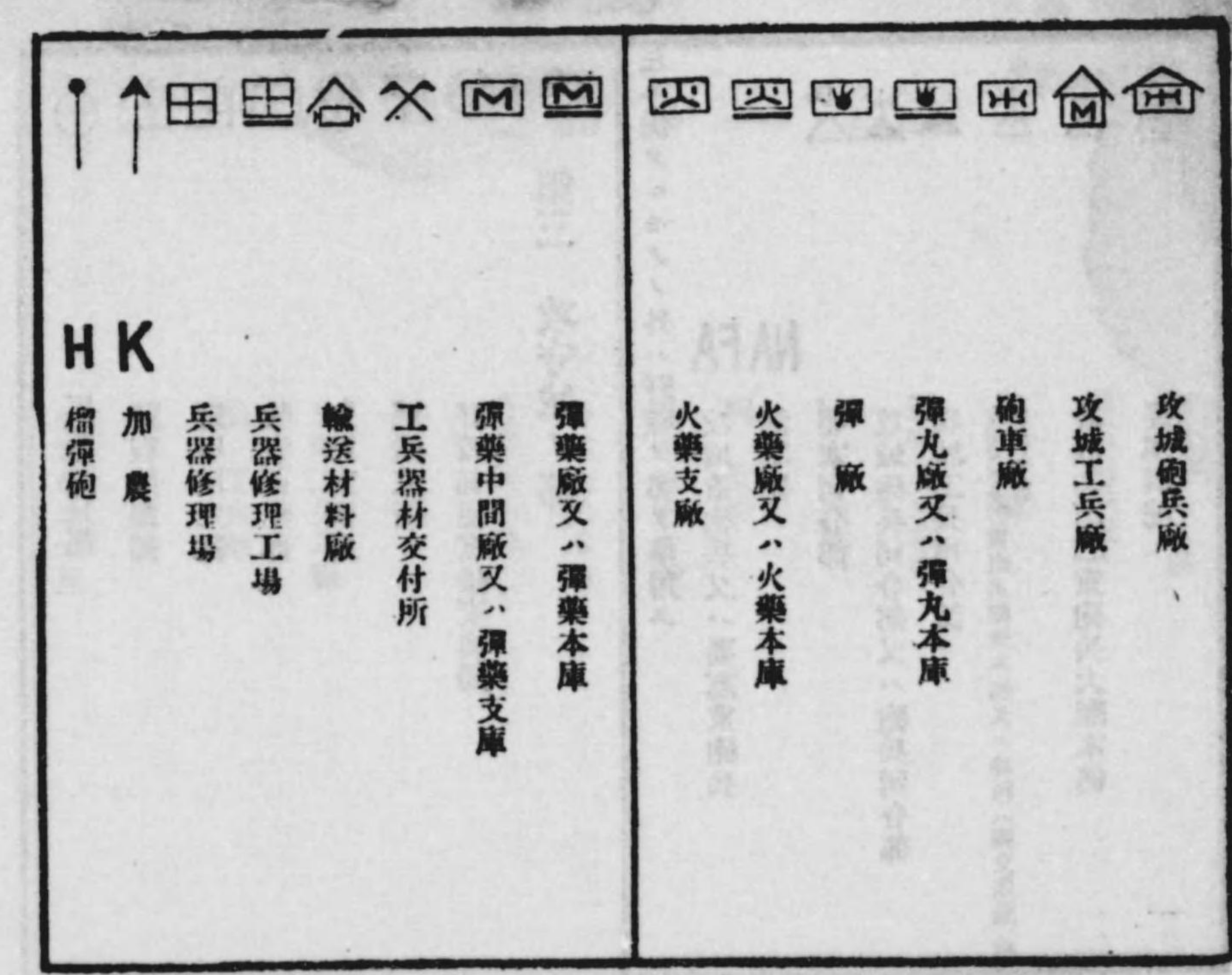
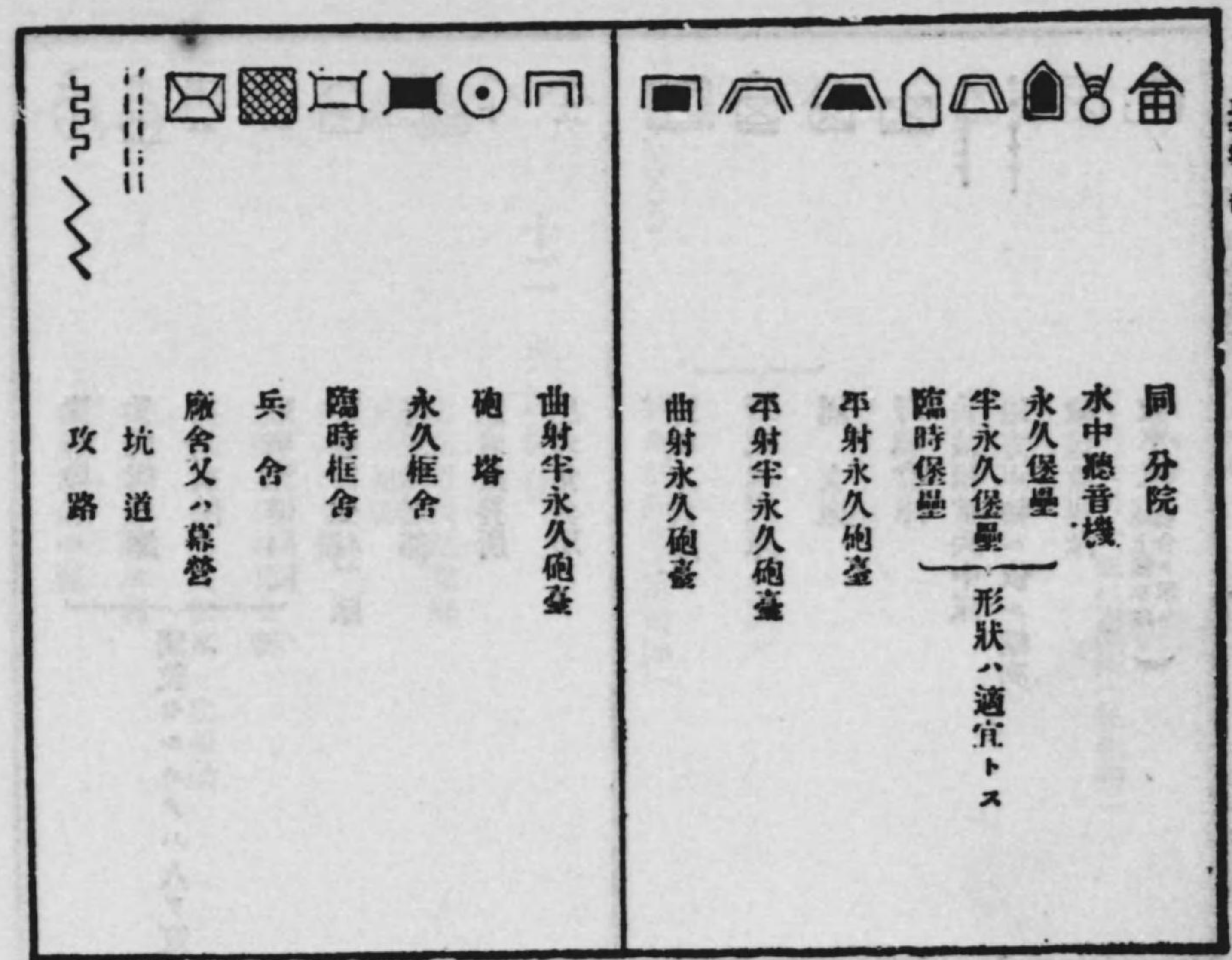
野戰ノ部 兵站關係 三三〇三四



野戰ノ部 兵站關係 三九〇四〇



野戰ノ部 兵站關係 三五〇三六



製復許不 有所權版	砲 兵 全 書 (電報略號ホセ)	昭和十年十月一日印刷 昭和十年十月十日發行
館兵尙		定價 一圓八十錢 送料八錢

發行所 尙兵館 電話牛込三六三八番(電略) 接替東京七二五六一番(シヨ)	印刷者 蛭沼織居	編輯者 齋藤市平
	東京市牛込區市谷本村町九番地 東京市小石川區戸崎町三五番地	

航空機配備地 潜水艦配備地 望樓 緊付氣球	四九
--------------------------------	----

東京市牛込區市谷本村町九番地  
 陸軍歩兵少佐  
 齋藤市平

TOP

緊留氣球  
望樓  
潜水艦配備地  
航空機配備地

昭和十年十月一日印刷  
昭和十年十月十日發行

# 砲兵全書

(電報略號ホセ)

不許複製  
版權所有

尙兵館

定價  
一圓八十錢  
送料八錢

編輯者

東京市牛込區市谷本村町九番地  
陸軍歩兵少佐

齋藤市平

印刷者

東京市小石川區戸崎町三五番地

蛭沼織居

發行所

東京市牛込區市谷本村町九番地

尙兵館

電話牛込三六三八番(電略)  
接替東京七二五六一番(シヨ)

品名	定價	送料
全幹部候補生檢定問題集	一、八〇	六
幹部候補生檢定問題模範答案	一、三〇	六
幹部候補生檢定虎の卷學科問答篇	一、八〇	六
實兵教練篇	一、八〇	六
術科問答篇	一、八〇	六
同		
同		
全幹部候補生終末試驗問答集	一、五〇	六
改幹部候補生制度通解	一、〇八	二
要圖下寫景圖ノ書方	一、〇六	四
戰圖圖例集	一、〇六	四
地形學教程(幹候用)	一、〇六	四
新戰術作業ノ參考書	一、〇六	四
軍事學問答大全書	一、〇八	六
幹部候補試驗問答全書	一、〇〇	六
少尉候補試驗問答全書	一、〇〇	六
上等兵候補試驗問答全書	一、〇〇	六
步兵全書	一、八〇	六
步兵典範(操、戰、陣)	一、三〇	六

見出附步兵四書	一、八〇	六
見出附縮刷典令集	一、八〇	六
步兵並上	一、〇〇	六
砲兵並上	一、〇〇	六
輜重兵	一、〇〇	六
同		
同		
見出附軍隊服務八書	一、〇〇	六
見出附戰團綱要	一、〇〇	六
見出附步兵操典	一、〇〇	六
見出附騎兵操典	一、〇〇	六
見出附砲兵操典	一、〇〇	六
見出附工兵操典	一、〇〇	六
見出附輜重兵操典	一、〇〇	六
見出附陣中要務令	一、〇〇	六
見出附軍隊內務書	一、〇〇	六
見出附衛戍條例、衛戍勤務令	一、〇〇	六
見出附小銃、輕機、銃、射擊教範	一、〇〇	六
見出附小銃、輕機、銃、射擊教範	一、〇〇	六
砲兵操典(野戰砲兵ノ部)	一、〇〇	六
見出附砲兵操典(野戰砲兵ノ部)	一、〇〇	六
(各種兵書全部取揃有)		

347  
671



